ボーイスカウト千葉地区

国際交流活動
－あゆみ・マニュアル－

PROPERTY OF
QUEZON CITY PUBLIC LIBRARY

1999年12月

Q.C. PUBLIC LIBRARY
LOCAL HISTORY

日本ボーイスカウト千葉県連盟
千　葉　地　区

ボーイスカウト千葉地区

国際交流活動
－あゆみ・マニュアル－

日本ボーイスカウト千葉県連盟
千　葉　地　区

フィリピン・メトロマニラノースカウンシル（MMNC）と交流協定を結ぶ

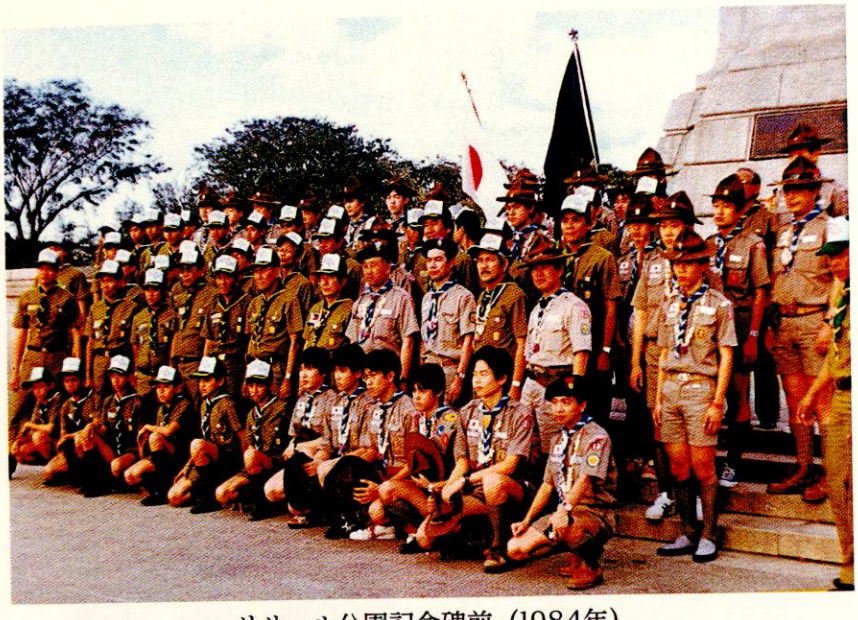


フィリピンとの交流協定調印式　1979年
ティム セルテーサJr. MMNC会長・野村泰千葉地区協議会長

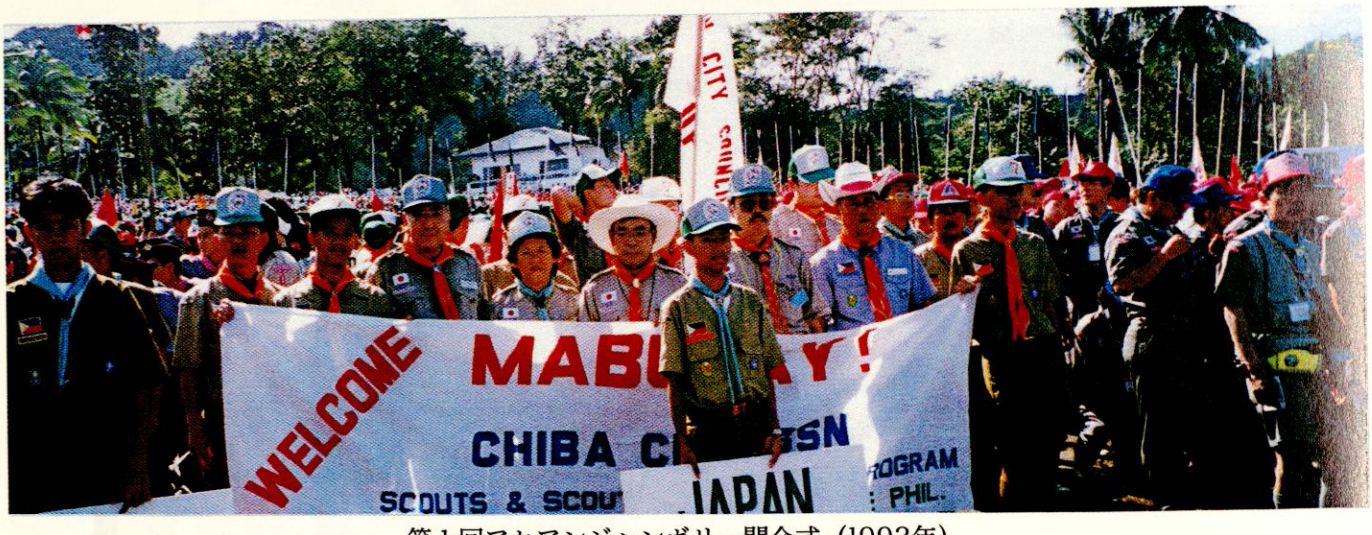


ボーイスカウト千葉地区フィリピン交流使節団

フィリピン・MMNC（現ケソン市）との交流



リサール公園記念碑前（1984年）



第１回アセアンジャンボリー開会式（1993年）



フィリピンスカウト飛行機事故モニュメント前（1995年）

アメリカ・サム ヒューストン地区との交流

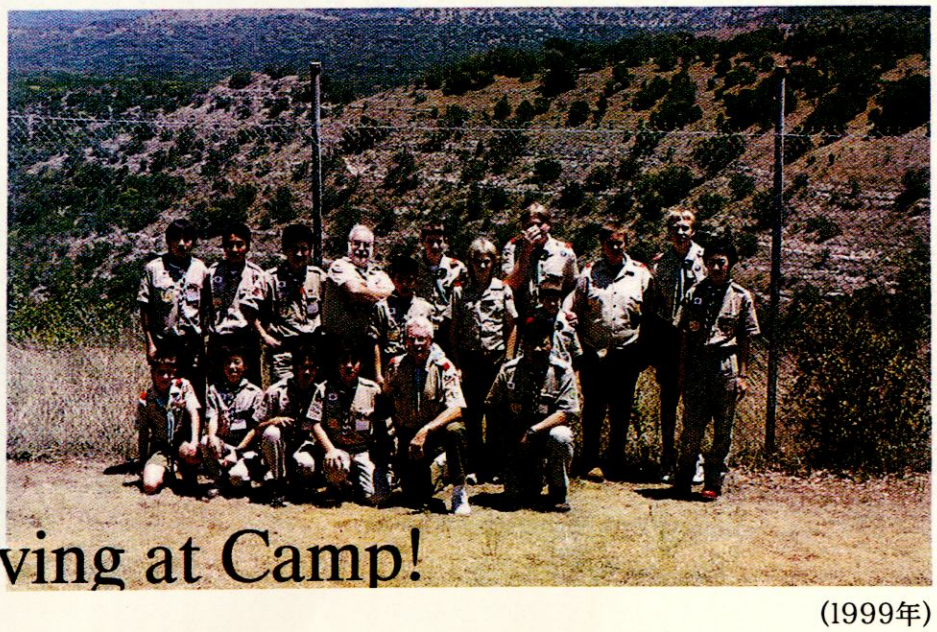


キャンプストレイク（1991年）



トマホーク投げ（1994年）

El Rancho Cima



Arriving at Camp!

(1999年)

ケソン市・サム ヒューストン地区・千葉地区三角交流（1997年）



ネッカチーフ交換



16CC国際交流フェスティバル開会式
於 千葉県土気緑の森工業団地



国際交流フェスティバル



リーダーレセプション

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊を祝して



松井　旭
千葉市長

この度、ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区の国際交流事業が20周年を迎えられ、記念誌を発刊されましたこと、誠に意義深く、心からお祝いを申しあげます。

ボーイスカウト千葉地区の皆様方には、日頃より、様々なスカウト活動を展開され、青少年の心身の健全育成に多大の成果をおさめられておりますこと、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、本市は、前面には海の玄関「千葉港」を、後背地には空の玄関「新東京国際空港」を擁する立地環境の中で、「世界に開かれた国際情報都市」として、21世紀に向け一層の飛躍・発展が期待されております。

このため、本市では、幕張新都心を中心に、国際交流機能の集積を促進するとともに、姉妹・友好都市７都市をはじめ海外諸都市との間において、幅広い分野における交流を積極的に推進し、友好親善と相互理解を深めているところであります。

このような中で、ボーイスカウト千葉地区には、本市の姉妹としフィリピン共和国ケソン市、及びアメリカ合衆国ヒューストン市と、永年にわたり、相互交流を実施されているほか、本市教育委員会が主催する青少年及び青少年指導者海外派遣事業に対し、積極的に指導者を派遣されるなど、様々な国際交流事業を活発に展開され、次代を担う青少年の国際感覚の涵養と国際意識の醸成に、大いに寄与されておりますこと、心から敬意を表する次第であります。

どうか、皆様方にはこの度の国際交流事業20周年を契機に、さらに一致協力され、本市の青少年が、21世紀の国際社会の舞台で力強く活躍できるよう、引き続きご尽力を賜りたく、心からお願い申しあげる次第であります。

終わりに、ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区の今後ますますのご発展と、会員皆様方のご健勝・ご活躍を心から祈念いたしまして、祝辞といたします。

虹の橋を架けよう



野　村　　泰
ボーイスカウト千葉地区協議会最高顧問

千葉市は昭和47年（1972年）当時フィリピンの首都であったケソン市と姉妹都市を結んだ。11月９日荒木市長一行はケソン市で盛大な歓迎を受け、協定書に調印した。私は千葉市専門委員の立場で同行した。この提携を機会に千葉・ケソン両市の間ではロータリークラブ、青年会議所など相次いで姉妹関係を締結した。荒木市長のあとを継いだ松井市長もケソン市を公式訪問し、日本ボーイスカウト千葉地区協議会の名誉会長に就任、積極的な支援の体制に入った。ボーイスカウト千葉地区協議会は54年ケソン市（当時メトロマニラノースカウンシル）の強い要望により、フィリピン交流使節団を編成し２月８日から12日までケソン市を訪問した。

一行はケソン市（約193万人）の各地を訪問すると同時にケソン市のボーイスカウトの指導者と交流のための具体策を協議した。

スカウト運動は世界約150ケ国共通のルールを持つ国際的機関であるため、原則論は難なく合意に達した。しかし生活習慣が異なるため具体案については時によって激しい議論もあったが、結局両者の熱意によって無事クリアーすることができた。協議の最終段階では深夜に至るまで建前と本音の両面から意見交換が行なわれた。この結果新しく両者の間で協定書をつくり交流をスタートすることになった。

この一連の交渉のなかでフィリピン側から受けた主要な説明を紹介することにする。

①フィリピンボーイスカウトはマルコス大統領（アメリカ士官学校卒）の強力な政策により、政府から積極的な支援を得ている。

②フィリピンは歴史のなかで300年はスペイン、100年はアメリカの植民地であり、第二次大戦のあと独立国となった。新しい国造りのためには青少年の教育は不可欠という立場からスカウト運動を推進している。

③世界各国のスカウト運動のなかでフィリピンスカウトは名実共に上位に位置づけられており、マニラ郊外には極東における国際トレーニングセンターが設置されており極東地区各国から指導者層が集まり、国際的なトレーニングをしている。

④フィリピン社会においてミドルクラス以上で活躍している人々は官・民にかかわらずほとんどが小・中・高の生徒時代にボーイスカウト運動に参加している。この経験はいまフィリピン国民のステータスとして定着している。

⑤ケソン市の人口は広域で約250万人、メトロマニラノースカウンシルのスカウト人口は約６万人である。（当時の千葉地区協議会のメンバーは約2,500人）

⑥フィリピンのスカウトメンバーは大部分の人がカトリック系であり、生活環境は必ずしも楽ではないが精神面では安定している。

⑦日本の戦後における経済発展、技術の進歩には大きな関心をよせており、若いスカウトに肌で日本にふれさせ、未来への刺激を与えたい。

⑧次代の青年を養成するため、フィリピンスカウトは世界各国と交流をつみあげている。

⑨ケソン側はこのような観点に立って少しでも早く千葉地区協議会と交流を開始したい。

⑩第一回の交流は日本側から約30名の交流団を55年

度に派遣し、4日間は野営キャンプ、3日間はホームステイとする。第二回はケソン側が翌年千葉に派遣する。経費は互いに自弁とし、原則は各50%として支弁する。

この交流が一体どのようなものであったかひとつのエピソードを紹介しよう。

昭和55年（1980年）12月9日マニラ空港で意外な光景が出現した。

第一回の千葉から派遣された一行がすべてのスケジュールを終えて帰国のため、ホームステイからそれぞれ空港に集結した。

空港のロビーには別れのセレモニーのために用意されたスペースに、日本の団旗とフィリピンの団旗が飾られ、参加各隊の隊旗がならんでいる。型どおりのあいさつがすんで、いよいよさようならの時が来た。千葉のスカウトを囲んでホームステイを担当したフィリピンの家族、そして1週間苦楽をともにしたフィリピンスカウトなど100名余りが集まっている。お互いに別れの握手、抱擁、そしてあふれる涙、異様な空気がただよう。このグループを囲んで、空港を利用しようとしている群衆がとりまいた。どこからともなく拍手が起きる、また歓声が沸き上がった。予想もしなかった感動のシーンであった。

必ずしも言葉が通じたとは思えないこの集団に、なぜこんな熱い友情が芽生えたのか。「来年また千葉で会いましょう」黒く日焼けをした顔、輝いているスカウトたちの目、涙でくしゃくしゃになった顔、ホームステイのお母さんがそちこちで千葉のスカウトを抱きしめて別れをおしむ姿。

スカウトは国際的共通点を持った組織である。交流にやかましい前提は必要としない。「お前もスカウトか。」笑顔のなかで握手。国際交流の原点は、まさに「ハート・ツゥ・ハート」である。そのうえに相手国の言葉を理解するという段階に入る。

両国の少年たちはこの別れのシーン、めばえた友情の交流を一生忘れることはないだろう。

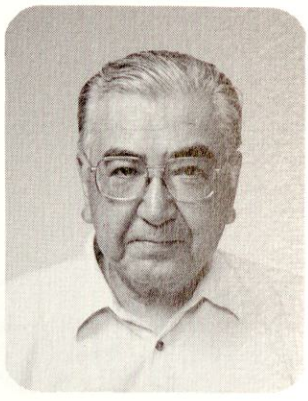
翌年56年4月29日から5月5日までフィリピン隊が千葉にやってきた。この訪問も成功裏に終わり、双方の理解と評価は一段と盛り上がった。そして1年前のマニラ空港での感動的な別れが成田空港で再現された。

そしてその時から20年をむかえ、この事業は継続して進められている。好顔の美少年はいまたくましい青年として社会で活躍している。この交流に直接参加した両国ののべ人員は550名にのぼり、ホームステイに関係した家族、その友好団体のメンバーは数千人に達する。

現在日本では青少年問題、教育問題、次の世代にかかわる問題がやかましく論議されている。21世紀に向かって世界も、日本も、そして千葉も大きく変わろうとしている。

この交流事業のもつ真の意味は何か。多くの課題を提供しているものと思われる。私たち千葉地区、ケソン市のスカウト関係者はこの事業を「レインボーブリッジ」と呼んでいる。

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊にあたり



島　　孝之
ボーイスカウト千葉地区協議会会長

千葉地区が、全国の他の地区より優れているものに、国際交流があります。特にヒィリピンのケソン市とは、一年おきの相互訪問を過去９回に渡りおこなって今年で最初の話合いから20年をむかえました。この交流は、日本ジャンボリーに参加したヒィリピンのスカウト達を千葉市でお預かりした時にはじまり、当時の会長であった野村さんのご発案により、千葉市と姉妹都市であるケソン市のスカウトとの交流が出来ないものかと昭和54年２月に交流使節団をケソンに派遣し、ケソンのボーイスカウトの関係者と話合い、交流の基本契約書に調印まですることが出来たことに始まります。この交流は基本的には、他の地区でやっている一方交流でなく、千葉のスカウトとケソンのスカウトがお互いに自分の家へ迎え会うという相互のホームステイを行うものになりました。そして翌年から千葉地区から第１回の派遣を当時のシニアスカウトで隊を組み派遣をし、翌年派遣の時のペアのケソン地区のスカウトを迎えました。第３回からケソン地区のスカウトに合わせて、ボーイ隊の派遣に切り替わりました。そして、今年の第10回の派遣まで、フィリピンの政情不安の一年（日本の判断で中止をした）を除き、毎年継続しています。これも国際交流委員会の努力とともに、千葉市の行政のご支援のおかげでなしえて来ました。

平成３年には、同じく千葉市と姉妹都市でありますアメリカのヒューストン市で行われた国際フェスティバルへの招待をうけ派遣団を派遣しました。これを契機にヒューストンとの交流もはじまりました。平成５年には、ヒューストン地区から受入れもはじまり、県キャンポリーに千葉地区のスカウトと一緒に参加しました。平成９年には、県キャンポリーに合わせて、ケソン地区とヒューストン地区から迎入れて三ヶ国による三角交流を実現させることが出来ました。

この二つの交流を初めとして、世界シャンボリーや台湾等のナショナルジャンボリーや千葉市の青少年派遣等の千葉地区からの海外派遣の記録を残すために、国際交流委員会で、この交流史の編纂を計画してくださり、一冊の本にまとめて頂き、感謝申し上げるとともに、これらの交流にご尽力頂きました千葉市の行政をはじめ、歴代の国際交流委員会の委員の方々に心より御礼を申しあげます。

最後に、海外の交流も、時代の流れでスカウトたちの考えかたに変化がみられますが、今後も新たな交流の方法をさがしながら国際交流を続けて行きたいと思います。

今後とも、皆様方のご援助とアドバイスを宜しくお願い致します。

国際交流の勧め



吉成晴彦
ボーイスカウト千葉地区委員長

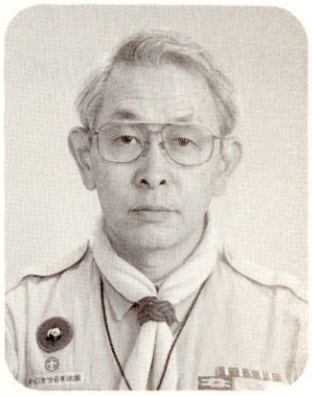
ボーイスカウト千葉地区とフィリピン・ケソン市との交流20周年にあたり一言ご挨拶申しあげます。

10年一昔と言いますが最近では時間の流れがとても速いように感じられます。その流れにただ流されるのではなく流れの中に想い出という杭を残すことは過去を振り返る時の良い目印になると思います。特に中学生の年代で、初めて家族と離れて海外に出かけるということは大きな冒険であり、生涯忘れられない想い出となるはずです。知識は書物や様々な情報から得ることができますが、現地の自然や環境を自分の目で見て、肌で感じ、生活を体験し、友達を作ることが大切で、それが自分自身の財産になると思います。その財産をしまい放しにするのか、もっともっと大きくするのかはその人次第です。

今、21世紀を目の前にして地球規模で物事を考えるようになっています。日本の国内だけでなくアジアの一員であることを再認識して近隣諸国と交流を持ち、お互いを理解しあうことが国際人としての基盤であり、その機会をスカウトに提供したいと思います。

おわりに、ボーイスカウト千葉地区とフィリピン・ケソン地区の交流がさらに発展することを心からお祈りいたしまして挨拶の言葉といたします。

「ボーイスカウト千葉地区 国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊によせて



近藤曠史
千葉地区コミッショナー

千葉地区の国際交流の記録をたどると、今から約40年前にその端を発していることが分かります。それ以後、現在まで、本誌の記録にあるとおり多くのスカウトや指導者が海外派遣に参加してきました。

千葉地区の特色の一つに、地区自身が主催する国際交流事業を挙げることができます。千葉市がフィリピンのケソン市と米国のヒューストン市と姉妹都市の関係にあることから、千葉市と両市のボーイスカウトとの間に定期的な交流が生まれ、今に至っています。このことから、千葉地区のスカウトには国際交流の場が他より多く設けられており、恵まれているということがいえます。定期的な機会が設けられているということは、「ぼくもボーイスカウトになったらチャンスがある。」という思いを起こさせます。現に、派遣の面接のとき、「先輩が参加したのを見て、ぼくもその時が来たら参加しようと思っていた。」という声を聞くことがあります。中学生あるいは高校生の時代に、単なる観光旅行ではなく、短期間ではあっても一人で派遣先の家庭に宿泊し、直に相手側の生活に接することは、将来に対して少なからぬインパクトがあるようです。

フィリピン派遣事業は20年を迎え、第10回目の派遣に入っています。継続して実施してきたおかげで、過去にスカウトとして参加した者が、次は指導者の立場で参加する時代になってきました。スカウトで参加したときとは違うものが見え、指導者の大変さも体験できてよかったという感想を述べています。

これからますます国際化が重要な時代になってきます。千葉地区は国際空港にも近く、スカウトには国際交流の機会が多く与えられています。意義ある海外派遣に多くのスカウトが参加することを期待します。そのためには、指導者のみなさんの日頃の指導と、お子さんを送り出す保護者のみなさんの支援が欠かせません。また、運営を担当する国際交流委員会をはじめとする地区関係者のみなさんの協力も同じように重要です。

最後になりましたが、財政面および行政面でご支援いただいている市関係者の方々に厚くお礼申しあげます。

また、スカウトたちにとって価値ある体験の場を設けていただいた諸先輩の方々と、それをこれまで続けてこられた関係者のみなさまにも感謝申しあげます。

MESSAGE



ISMAEL A. MATHAY JR.
Mayor Quezon City

On behalf of the Quezon City government, I congratulate the Chiba City Council delegates and the representatives of the city's scouters association, who, together with the Quezon City Council and the Boy Souts of the Philippines, on the occasion of your 10th Memorial Scout Exchange Program.

This exchange program fosters a closer relationship and better interaction between our Boy Scouts. Mutual sharing of scouting skills and experience will be to their benefit and will certainly enhance mutual cooperation between our nations.

The unification of our programs and activities manifest continuing cooperation among Asian nations to uphold our socio-economic stature in preparation for the coming millennium.

With pride and pleasure, we welcome you once more to our beloved city.

MABUHAY!

MESSAGE



TIM CERTEZA JR.
Founding Chairman
MMNC, BSP and CCC, BSP
Scout Exchange Program

It is great pride and honor that I was a part of the founding group of the Boy Scout Exchange Program between Chiba City Council, BSN and Metro Manila North Council, now Quezon City Council, BSP.

A project such as this between our two cities has formed the core of desirable citizenry and able leadership which enhanced World Brotherhood and is the international aim of scouting.

While there is really no measure as to how much this wonderful project has influenced the hundreds of Boy Scouts of our two cities, I could sincerely and heartfully say this program has developed a concrete manifestation of wonderful cooperation and brotherhood among the boy scouts of our two nations. This program had been made possible by the kind understanding, untiring cooperation and a great deal of personal sacrifice and boy scout circles of both countries.

Many years from now, the records of our exchange program will be read by future generation of boy scouts and hopefully they will continue to carry on our program with the same objective. "Brotherhood for Peace"

Lastly I extend my deepest appreciation and eternal gratitude to all those who worked very hard to make possible the ten successful and enjoyable Exchange Program we had for the past twenty continuous years.

MESSAGE



HON. RAMON G. MATHAY
Council Chairman

This year 1999, the Boy Scouts of the Philippines, Quezon City Council and Chiba City Council, BSN, Japan will jointly hold the 10th Memorial Scout Exchange Program of the two Scout Councils. As Chairman of the Quezon City Council, Boy Scouts of the Philippines, I welcome the Chiba City Council delegation and congratulate the Scout and Scouter delegates for our Local Council.

Everytime that delegates from the two Councils meet, an exchange of Scouters skills, knowledge, experience and culture takes place. This additional Scouters skills, knowledge and experience makes each Scout delegate more prepared for future Scouts activities. They become better Scouts that will propagate Scouting not only in Quezon City and Chiba City but in the whole world. They will be effective vehicle for exchanges in culture for better understanding between people of different nation.

Finally, I wish that everybody will enjoy and learn better Scouting in this year's celebration of the Quezon City Chiba City Boy Scouts Exchange Program.

MESSAGE



MANUEL S. SALUMBIDES
Council Scout Executive

It is with warmth and pleasure that I greet the founders of this Quezon City and Chiba City Councils Scout Exchange Program on the occassion of its 10th Memorial Scout Exchange Program. I firmly believe that Scouting remain as one of the major instruments that could make our both countries great partnerships in promoting the Scouting Spirit worldwide

A Scout is "A Friend to All and a Brother to every other Scout"



NORLYN L.(BUD) ALLISON
International Representative
Sam Houston Area Council
Boy Scouts of America
and
Interamerican Chairman
International Fellowship of
Scouting/Rotarians

Dear Shigeki-san:

Sorry to be so late in responding to your request for a statement regarding the exchange between Chiba City and Houston Boy Scouts. I have been traveling in Oregon and have just returned and am now catching up on all the things that accumulated while we were out "west".

I have many fond memories of your Father, Yutaka-san and how we planned many years ago to have our Scouts get together in friendship and scout brotherhood by exchanging visits with each other.

I will never forget the day in 1978 when he came to our Boy Scout office in Houston (this was a most important turning point in my understanding and respect for the Japanese). He inquired regarding the establishment of relationships with our two councils and with our leaders on a continuing basis. At that time, it was agreed that whenever possible, our two councils would send Scouts and leaders to the other country.

We discussed costs, hosting, and activities. These were very difficult times for your Scouts and it was a new venture for us. But we both were eager to get the project underway. Our discussions included a sort of "triangle" exchange-with your Sister City in the Philippines, Chiba and Houston.

Since I was working with the Houston Chiba Sister City committee on its direct contacts through the Mayor's office, we were able to send with the Jr. High School group of students one or two Scouts and thus began to have a direct Boy Scouting relationship and Chiba, also, was able to send one or two Boy Scouts during the next exchange a year later.

In 1982, the Sam Houston Area Council, held its first International Encampment and invited not only Scouts from Chiba, but from over 16 different countries to take part with us in a wonderful camping experience at our council camp, CAMP STRAKE. This camp is on a tract of 2,000 acres located approximately 45 miles North of Houston in a heavily forested area used by the Sam Houston Area Council for training, camping and recreational activities throughout the year.

Chiba City Council participated in this event with 4 of the 8 Scouts and 2 leaders

representing Scouts Nippon. Other members of the Scouts of Nippon from Tokyo, etc. made up the remainder of the contingent from Japan. They added greatly to the over-all success of this event. Two weeks of interaction took place and we not only had individual home visits, but several of the hosting troops held major events especially for their guests. Each Scout and leader spent at least two weeks being hosted by the Scout families.

These visits continued on an every other year basis as the Sam Houston Area Council continued to conduct these camps with ever increasing participation for foreign scouts for the next several years, International Camps were held in 1984, 1986, 1988, 1990 and 1992. There is a strong feeling among Scouters and Scouts that the SHAC should begin these encampments again and present plans are being considered to begin to open the channels for once again closer ties for Council to Council contacts.

One of our most outstanding visits to Chiba was to participate in the 15th Memorial Camporee (I was fortunate enough to participate in this and had a most delightful time)where we learned many valuable lessons from your Scouts and family members for which I am most grateful and appreciative-domo arigato! These close contacts have contributed to warm relationships and friendships over the years with your families.

The fact that during the past few years, Troop 80 has maintained this close relationship and hosted your Scouts and visited with your families in Chiba is proving the true spirit of International Relationships.

We will, always, treasure our memories with your families and hope that as we move into the next millenium our families will continue to support one of the main principles on which Scouting is founded and that is A Scout is "A Friend to ALL and a Brother to every other Scout"

My best wishes and my ever grateful appreciation are sent to you and the Chiba City Scout Council, especially as you develop this journal devoted to our long relationship and friendship.

Your friend and Brother Scout.

「ボーイスカウト千葉地区 国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」作成にあたり



野　村　茂　樹
千葉地区国際交流委員会
委員長

1979年フィリピン　メトロマニラノース協議会（その後ケソン市協議会となる）との交流のための千葉地区協議会使節団が派遣されて以来、今年で満20年・第10回派遣・受入れを数えることになりました。

それまでは、国際交流というよりは、単なる海外派遣事業への参加でした。

本来国際交流活動の目的は、スカウトが海外に行き視野を広め、また逆に受け入れることによりわが国わが町を知ってもらう、正に相互理解を通して達成されるものと思います。

したがって、そのような意味で本格的な国際交流に取り組んでちょうど20年が経過したことになります。その間、フィリピン　ケソン市とは、２年で１回派遣・受入れを政情不安の時以外は継続的に実施し、1999年（12月派遣）から2000年（５月受入れ）にかけて第10回プログラムが進められてます。

また同じく千葉市の姉妹都市米国ヒューストン市のサム・ヒューストン地区協議会にも1984年に第１回の派遣団（６名）を派遣して以来、今年で第６回目を迎え、また1993年に米国隊を受入れて以来２回の受入れを実施しています。

さらに日本連盟、県連盟主催の国際関連の行事にも数多くのスカウトを派遣しております。千葉地区で過去国際交流に関わったスカウトの数は、延べ740人を越えるほどになっています。

昨年11月、日本連盟主催の第２回国際協力セミナーに参加しました。日本の各県連から国際活動をしている代表者が集まり、各県の国際活動状況に関し情報交換をしました。千葉地区のこれまでの国際交流活動は、県内のみならず日本のボーイスカウトの中でも他に類を見ないくらい充実しており、トップクラスであることを認識しました。

千葉地区に所属するスカウトは、国際交流分野では他地区にくらべ非常に恵まれた環境にあります。今後もこの恵まれた環境を多いに利用し国際感覚を備えたスカウト、更には社会人に成長してもらいたいと強く心から願っています。

これもひとえに、国際交流を開始したころの関係者の国際感覚の意識の高さとまたこれまでに関わってこられた関係者の地道な努力と千葉市役所・地区関係者のご理解とご援助の賜物と、心から敬意と感謝申し上げたいと思います。今回の千葉地区・ケソン地区との交流20年を機に、今までの国際交流の歩んできた道のりと今まで積み上げてきたノウハウをまとめ、今後の活動の参考の為に残すことに致しました。

国際交流活動を実施する際、いつも頭を悩ませることは派遣時にリーダーとして参加出来る人が業務上やその他の理由から少ないことです。スカウトとして国際交流プログラムに参加され、経験を積んだスカウトの中から、明日の指導者が育ってくれることを心より願っています。

今後は、国際交流活動に止まらず、国際協力・貢献へと活動を展開してゆきたいと思っております。

目　次

カラー写真

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊を祝して　千葉市長　松井　旭 …… 5

虹の橋を架けよう　ボーイスカウト千葉地区協議会最高顧問　野村　泰 …… 6

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊にあたり

ボーイスカウト千葉地区協議会会長　島　孝之 …… 8

国際交流の勧め　ボーイスカウト千葉地区委員長　吉成　晴彦 …… 9

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」発刊によせて

千葉地区コミッショナー　近藤　曠史 …… 10

MESSAGE　ケソン市長　イスマエル　A. マタイJr. …… 11

MESSAGE　元MMNC・ケソン市協議会会長　ティム　セルテーサJr. …… 12

MESSAGE　ボーイスカウトケソン市協議会会長　ラモン　G. マタイ …… 13

MESSAGE　ボーイスカウトケソン市協議会事務局長　マヌエル　S. サロンビデス …… 14

A Scout is "A Friend to All and a Brother to every other Scout"

サム　ヒューストン地区協議会国際交流代表　バド　アリソン …… 15

「ボーイスカウト千葉地区国際交流活動－あゆみ・マニュアル－」作成にあたり

千葉地区国際交流委員会委員長　野村　茂樹 …… 17

第1部　千葉地区国際交流活動のあゆみ

1．千葉地区国際交流活動のあゆみ …… 23

1）フィリピン（MMNC・ケソン市）との交流

2）サム　ヒューストン地区との交流

3）ケソン市・サム・ヒューストン地区・千葉地区三角交流

4）海外でのスカウト活動への参加

5）フィリピン第10回記念派遣打ち合わせ

2．国際交流プログラムに参加して …… 58

3．国際交流座談会 …… 69

4．資　料 …… 73

第2部　千葉地区国際交流活動マニュアル

1．千葉地区が実施している国際交流事業

1．1．千葉地区主催の国際交流事業 …… 103

1．2．千葉県連盟主催の国際交流事業 …… 103

1．3．日本連盟主催の国際交流事業 …… 103

1．4．千葉市主催の国際交流事業 …… 103

2．千葉地区が主催している国際交流事業の共通事項

2．1．事業の計画と承認 …… 103

2．1．1．国際交流事業の長期計画

2．1．2．計画の立案と承認
2．1．3．交流相手との連絡調整
2．1．4．年度予算立案・計上
2．1．5．計画書・実施要項の作成と承認
2．2．海外派遣参加者の募集と選考 ……104
2．2．1．指導者の募集と選考
2．2．2．スカウトの募集と選考
2．2．3．派遣役員の選考
2．3．対外手続き ……106
2．3．1．日本連盟への手続き
2．3．2．千葉市への手続き
2．3．3．学校への手続き
2．4．派遣準備 ……107
2．4．1．航空チケット手配
2．4．2．渡航手続き
2．4．3．海外旅行保険
2．4．4．公式土産
2．4．5．保護者への派遣説明会
2．4．6．健康診断書の提出
2．4．7．緊急連絡先
2．5．派遣事前訓練 ……109
2．5．1．事前訓練の目的と内容
2．5．2．事前訓練期間
2．6．派遣実施時の留意事項 ……110
2．6．1．派遣先到着空港での留意事項
2．6．2．ホームステイ先の確認と緊急連絡網
2．6．3．プログラムの確認
2．6．4．費用の確認と支払い
2．6．5．受け入れについての打合せ
2．7．帰国後の報告 ……111
2．7．1．千葉地区への報告
2．7．2．日本連盟への報告
2．7．3．千葉市への報告
2．8．受け入れ準備 ……111
2．8．1．受け入れプログラムの作成
2．8．2．受け入れ期間中の主な行事の計画
2．8．3．見学・観光等の計画
2．8．4．キャンプ場等の確保
2．8．5．千葉地区受け入れ組織
2．8．6．受け入れ家庭の募集
2．8．7．受け入れ家庭説明会
2．9．受入の実施 ……112
2．9．1．空港出迎え
2．9．2．来日者の確認
2．9．3．受け入れ家庭への引き渡し

2．9．4．キャンプ
2．9．5．千葉地区スカウト全体の交歓会
2．9．6．さよならパーティー
2．10．受入実施後 ……114
2．10．1．解隊式
2．10．2．反省会
2．10．3．地区への報告
2．10．4．千葉市への報告
2．10．5．実施記録書の作成

3．ケソンとの交流
3．1．ケソンとの交流経緯と協定及び相互の理解 ……114
3．1．1．ケソンとの交流経緯
3．1．2．千葉地区とケソン市協議会の協定
3．1．3．組織規模の違いと派遣受け入れ人数
3．1．4．派遣と受け入れの時期
3．1．5．ビザの取得

4．ヒューストンとの交流
4．1．ヒューストンの交流経緯 ……116
4．2．派遣と受け入れ ……117
4．2．1．派遣の時期
4．2．2．受け入れの時期と千葉県キャンポリー
4．3．健康診断書 ……117

5．千葉県連盟・日本連盟・千葉市主催の海外交流
5．1．募集周知と派遣選考 ……117
5．1．1．地区内への募集周知方法
5．1．2．参加応募者の選考
5．2．千葉県連盟主催の海外交流 ……117
5．2．1．フィルモント派遣
5．2．2．日本フレンドシップパトローリー大会
5．3．日米連盟主催の海外交流 ……118
5．4．千葉市主催の海外交流 ……118

6．国際交流委員会組織と役割
6．1．千葉地区国際交流委員会組織と役割 ……118
6．2．国際交流事業のための特別組織 ……118

7．資　料 ……119

第１部　千葉地区国際交流活動のあゆみ

1．千葉地区国際交流活動のあゆみ

1）フィリピン（MMNC・ケソン市）との交流

フィリピン交流使節団

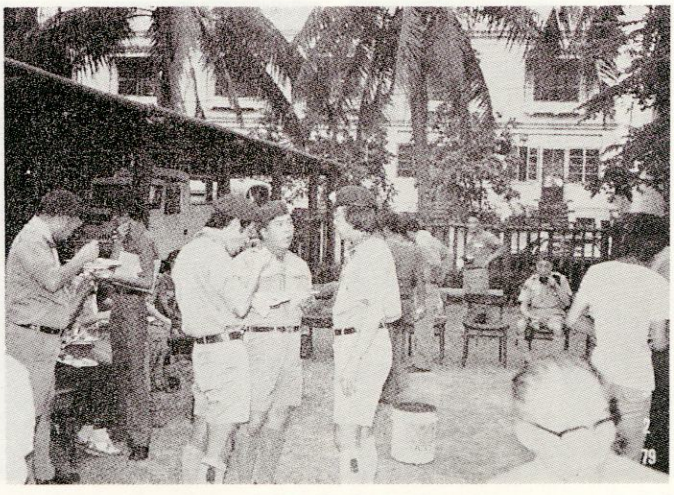
1979．2．8～12



千葉地区功労章をかける野村会長



昼食会　ロドリゲス市長



夕　食　会

フィリピンとの交流第１回
派　遣　1980.12.23～29
受入れ　1981. 4.29～ 5. 5





壮行会　市役所玄関ロビー



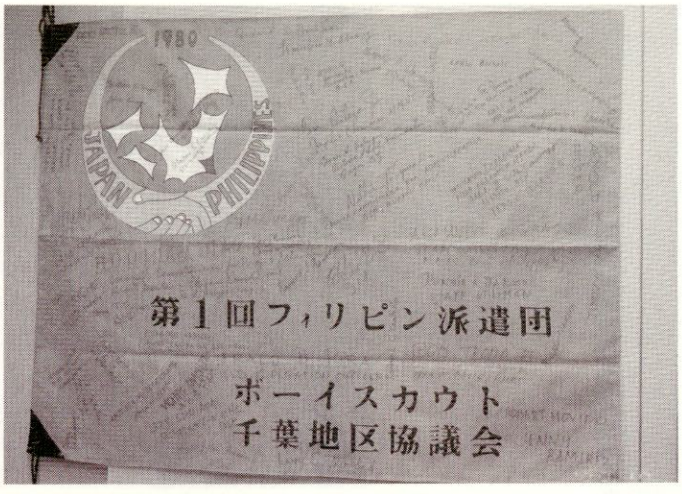
マニラ空港到着



キャンプ



千葉地区派遣メンバー



寄せ書きのある団旗



バンブーダンス

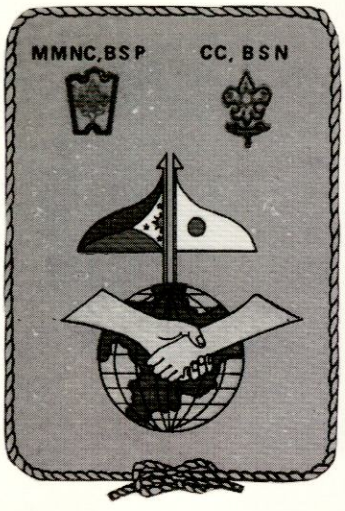


フィリピンリーダー



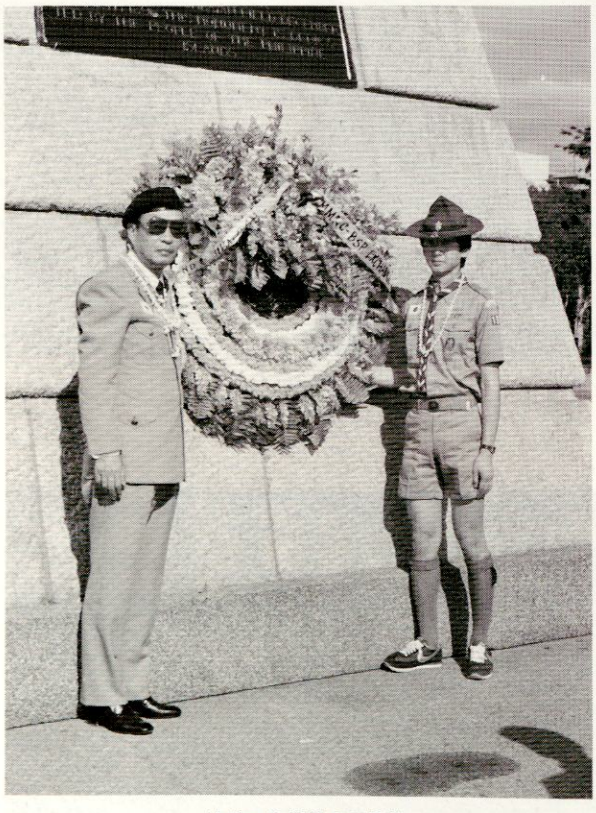
学校訪問

第２回
派　遣　1982. 3.28～ 4. 3
受入れ　1983. 3.28～ 4. 3





空港にて



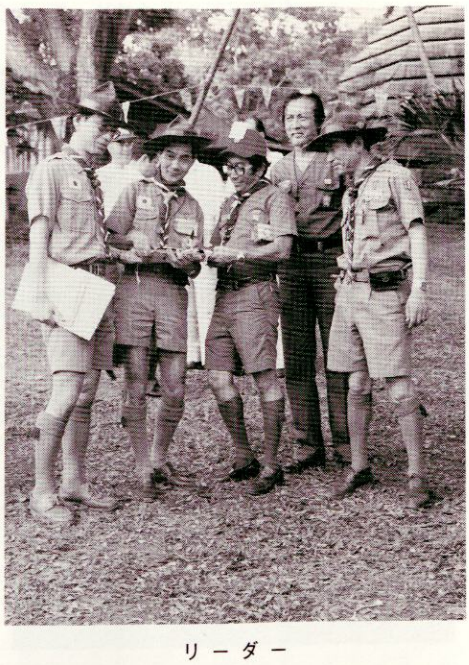
リサール公園での献花



マキリンキャンプ場



凧づくり



リーダー



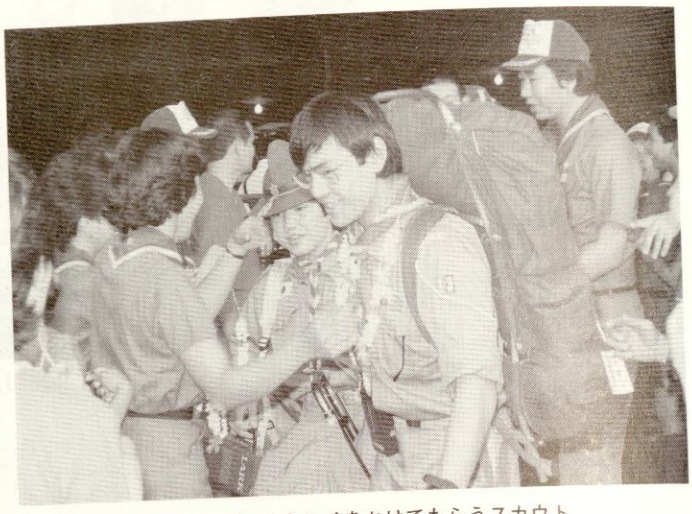
認証式



サヨナラパーティ

第３回
派　遣　1984.12.28～1985. 1. 3
受入れ　1985. 8. 1～ 9




女性リーダーからレイをかけてもらうスカウト


パトカーの先導で


食事はいつも楽しい


竹のやぐらでの宙返り



ジャパンナイト



別れ



１３ＣＣ千葉サイト前



１３ＣＣ開会式に臨む比団長・アドバイザー

第３回
派　遣　1984.12.28～1985. 1. 3
受入れ　1985. 8. 1～ 9





女性リーダーからレイをかけてもらうスカウト



パトカーの先導で



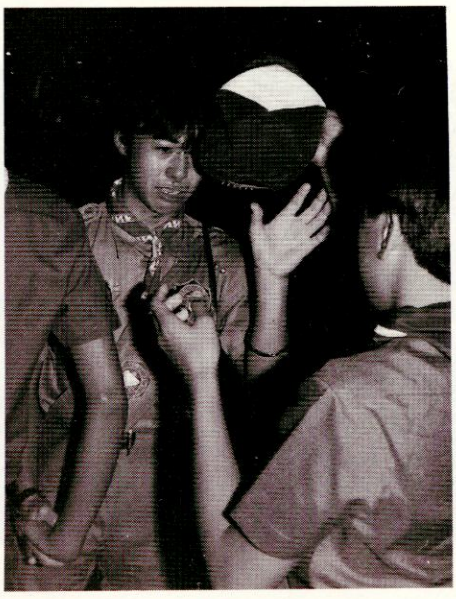
食事はいつも楽しい



竹のやぐらでの宙返り



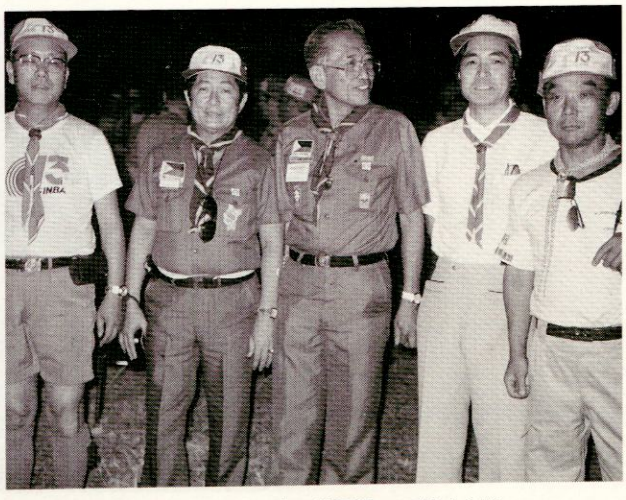
ジャパンナイト



別れ



１３ＣＣ千葉サイト前



１３ＣＣ開会式に臨む比団長・アドバイザー

第４回
派　遣　1987.12.24～30
受入れ　1988. 4.28～ 5. 5





リサール公園



つめ検査



ボート



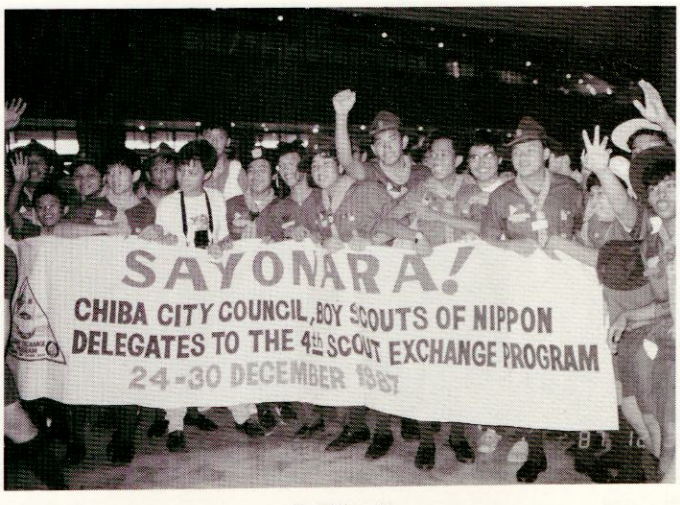
ホームステイ



キャンプサイト



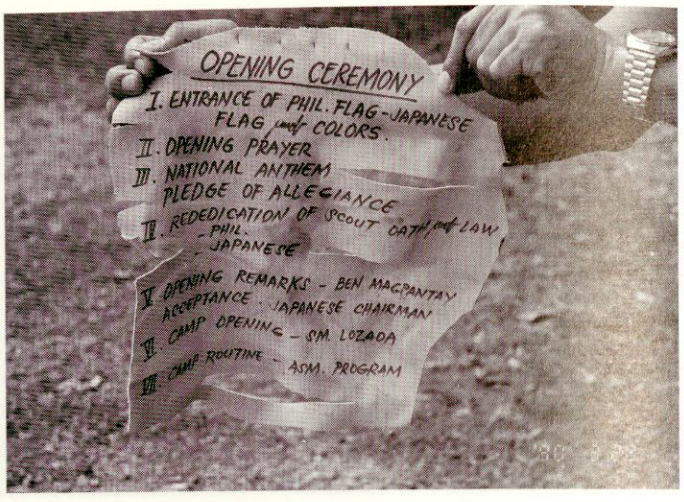
サヨナラパーティ



見 送 り

第５回
派　遣　1990．3.25～31
受入れ　1990．4.28～ 5．4





OPENING CEREMONY

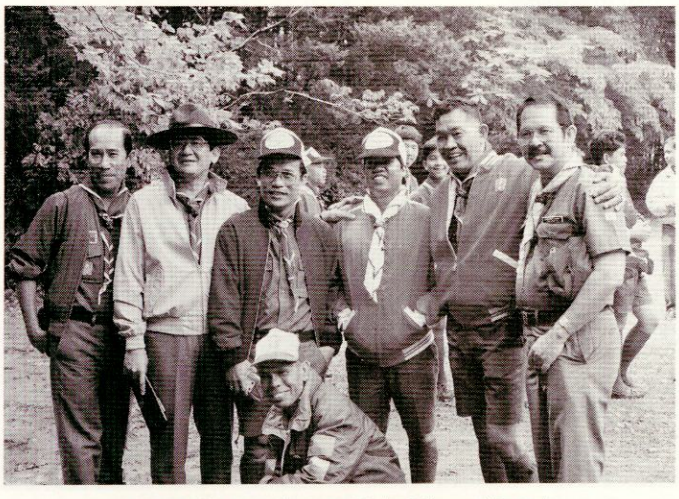

まずはテントの設営


これもスキル


リ　ー　ダ　ー



〝ウワーッ〟



フィリピンリーダー・アドバイザー　昭和の森



見送り・成田空港



別れ・成田空港

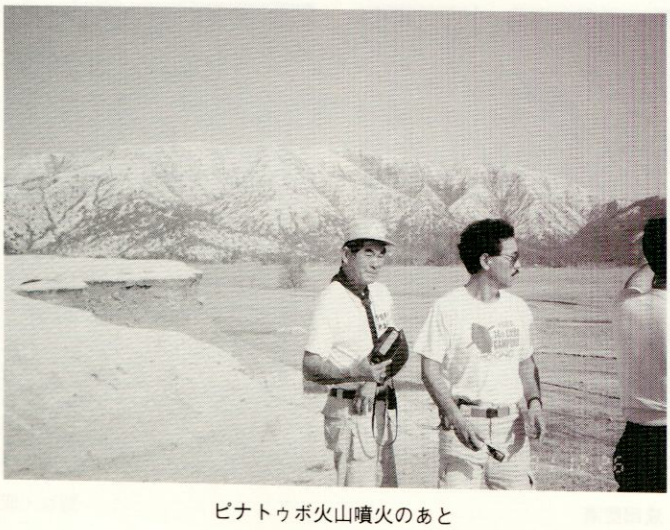
第6回
派　遣　1991.12.23～29
受入れ　1992. 7.24～30



リサール公園



クリスマスキャンプ



ピナトゥボ火山噴火のあと



千葉地区スカウトデー



昭 和 の 森

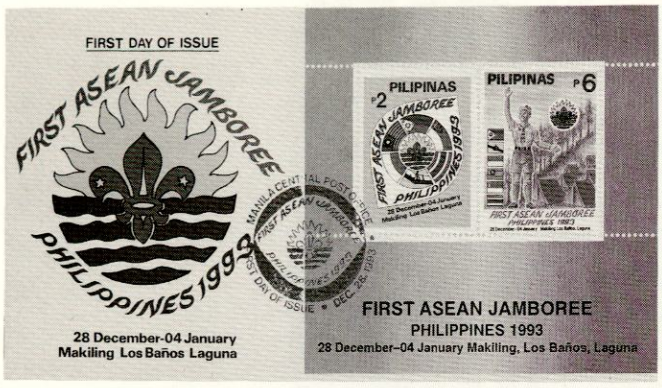


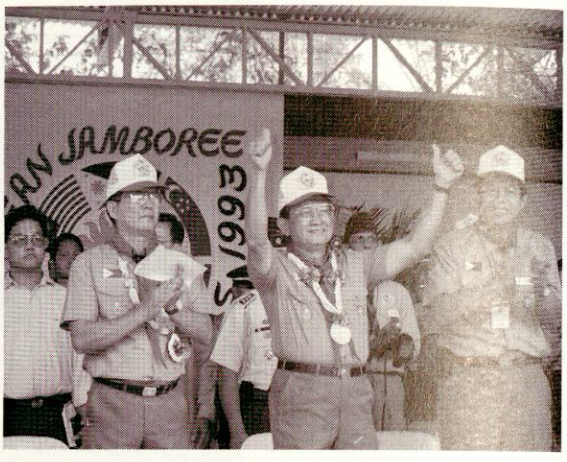
サヨナラパーティ



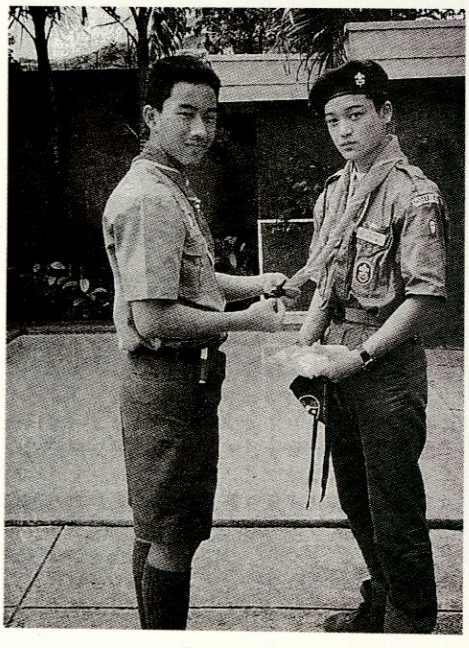
ディズニーランド

第７回
派　遣　1993.12.28～1994. 1. 5
受入れ　1994. 4.29～ 5. 5





第１回ASEANジャンボリー開会式　ラモス大統領


両ＳＰＬ


カウンターパート


ケソン市キャンプサイト前



アセアンジャンボリー



協定書改訂調印式



たけのこ掘り



千葉地区スカウトデー

第８回
派　遣　1995.12.28～1996. 1. 3
受入れ　1997. 4.27～ 5. 4





羽根つき



バ　ッ



スカウト＆スカウター



サヨナラパーティ



ケソン市長表敬訪問



千葉市長表敬訪問



千葉地区スカウトフェスティバル



野　点

第９回
派　遣　1997.12.27～1998. 1. 2
受入れ　1998. 7.24～30

第９回日比交流プログラム
千葉市－ケソン市
1998. 7. 24 － 7. 31

支援副長
鎗田　浩二



記念碑の前



ホームステイ先訪問



フィリピンナイト



サヨナラパーティ・スタンツ



サヨナラパーティ



見送り・成田空港

2）サムヒューストン地区との交流

第1回派遣　1984. 7.21～ 8. 2



乗り換えの飛行機を待つ間　シアトル空港



キャンプストレイク



信　号　塔



日本領事館の方も来訪



火おこしゲーム



ホスト団のスカウトハウスにて



ゲ　ー　ム

第2回
派　遣　1991. 4.26～ 5. 6



Troop 105



上　進　式



キャンプストレイク

第３回
派　遣　1992．7.19～25





アーチェリー



ロデオ



Japanese food



市長表敬訪問



１５ＭＣＣ開会式



ヒューストンリーダーの扮装　その１



ヒューストンリーダーの扮装　その２

第４回
派　遣　1994．7.17～23



7TH INTERNATIONAL ENCAMPMENT
Sam Houston Area Council - Houston, Texas
July 17-23, 1994



メキシコスカウトのスタンツ



キャンプストレイク



サインを求められて



スカウトショップ



市長表敬訪問



Troop 80　訪問

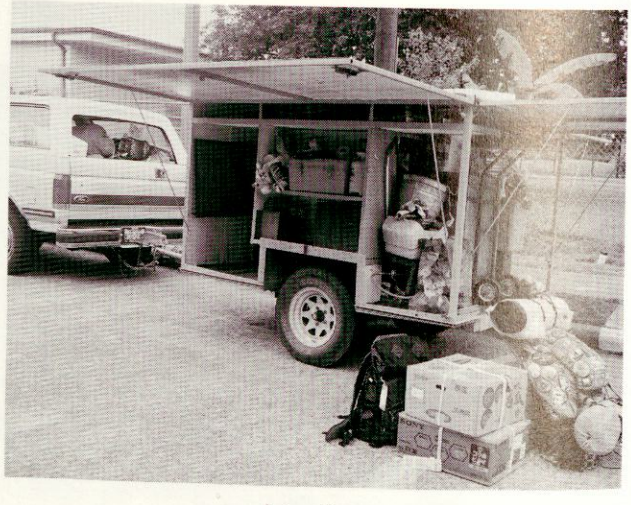
第5回
派　遣　1996. 7.29～ 8. 9



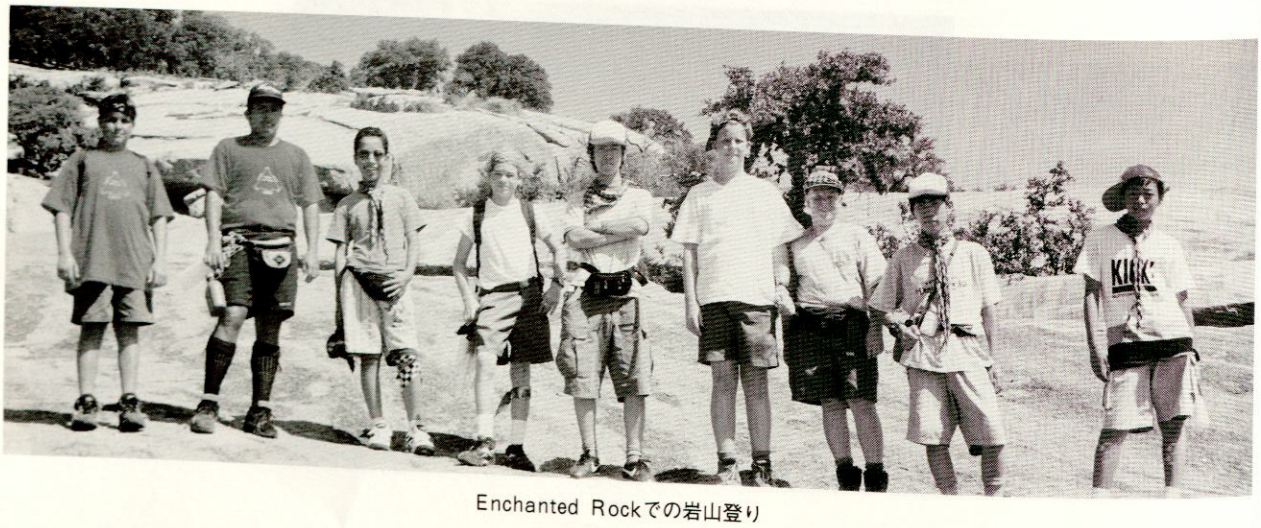
市長表敬訪問



リ ー ダ ー



トレーラー



Enchanted Rockでの岩山登り



新　聞



毛筆に挑戦



ニミッツ提督記念館にて

第6回
派　遣　1999. 7.24～ 8. 3





El Rancho Cima trail ride.



市長表敬訪問



日本領事館訪問

3）ケソン市・サムヒューストン地区・千葉地区三角交流

1997. 8. 5～16



市長表敬訪問



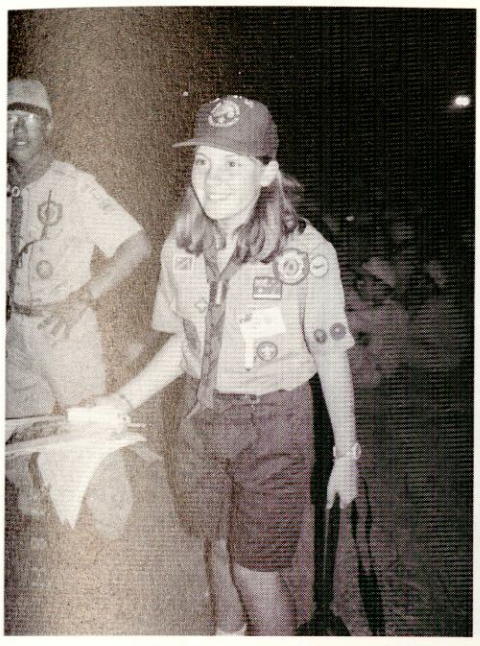
フィリピンスカウト&ヒューストンリーダー



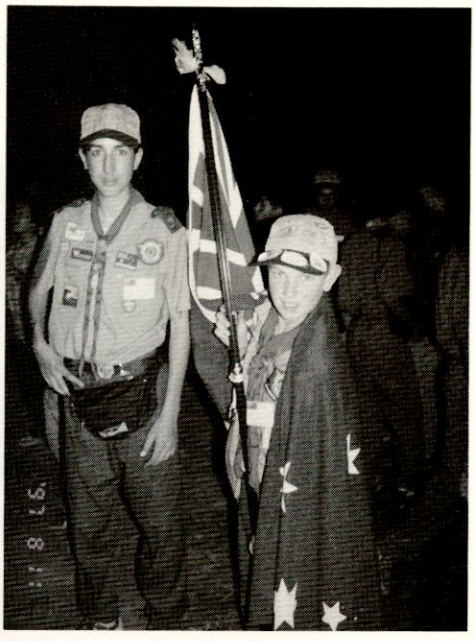
フィリピンスカウトのスタンツ



国際交流フェスティバルにて



１６ＣＣ閉会式にて



１６ＣＣ閉会式にて



1 Sub Camp Staff



シャープハイテクノロジーホール

4）海外でのスカウト活動への参加

国際キャンプスタッフ計画派遣アメリカ（1977年）



デトロイトキャデラックホテル前で

第17回世界ジャンボリー　大韓民国（1991年）



第17回世界ジャンボリーキャンプサイト前



インドネシアのリーダーと一緒に

5）フィリピン第10回記念派遣打合せ

1999. 9. 3～ 6



モニュメント設置場所下見



ケソン市職員朝礼後市庁舎前にて



記念事業事前打合せ

2. 国際交流プログラムに参加して

第2回フィリピン派遣・受入れ 隊長として

長野　茂
（当時千葉13団）

目　標

マニラへ行くことが目的ではなく、スカウト達がこのテーマをどのように自分達で組立てて完成させるかというプロセスを大事にしようと増田（佐倉1団）白井（8団）両副長と話し合い目標としました。

成　果

前述の両副長は識見、経験共に申し分なく、また上班に東城（佐倉1団）隊付に足立（佐倉1団）大堀（1団）のローバースカウト（当時）が未熟な私を助けてくれたので私はただ好きなことを言っていればよいという恵まれた環境にありました。

委員会活動もフェスティバル、スピーチ委員会のほかにスカウト達の希望でバンドも編成し、現地や受け入れの時に大活躍し好評を得ました。

結論として、この活動に隊長として奉仕して、私が皆様に与えたものより与えられたもののほうがはるかに多かったと思います。

苦労したこと

素晴らしい副長、上班隊付グループに恵まれ、会社の休暇をとるのに苦労したほかは苦労らしい苦労はありませんでした。スカウト達自身でプログラムを企画、計画、準備、実行させるということはとても難しく、一時は我々でやってしまおうかと思いましたが、両副長の反対で方針を変更せずに、出発の2週間前にやっと完成したという危ない準備でした。そのお陰で受け入れの時は比較的順調に準備出来たと思います。

今後への期待

20周年を迎え益々発展しておられるとのこと、皆様の熱意には心から敬服いたしております。過去何回かの活動を片隅から拝見しての感想を申し上げるならば、プログラムが大人の指導者の主導によって行われているように思えます。スカウト達にやらせることはとても難しいことですが、この活動は少年の自発活動を促すものである以上、たとえ彼等がやることが不完全なものだとしてもその点に留意しなければ、子供たちの興味や魅力をなくし参加者が減りスカウト活動全体が衰退する危険もありうると思います。今後、隊長として奉仕される皆様におおいに期待いたします。

第3回フィリピン交流

小川信輝
（千葉1団）

キャンプは、フィリピンスカウトのプログラムに沿って始まりました。フィリピンによるトレーニングは、実践的で専門知識や技能を取り入れており、日本のスカウトも学ぶことが多い。フィリピンスカウトは実践訓練により身につけた技能は質の高いものです。

キャンプを終え、パートナーのアドリアーノ家に家族の一員として迎えられフィリピンの生活を味わうことができました。

受け入れは8月に千葉県キャンポリーに合わせプログラムが展開されました。日本スカウトによる設営を終え、成田空港での再会の感激はひとしおでした。フィリピンスカウトのなかには、すっかり日本語が話せる子もいて、どうしてそんなに上手になったのか尋ねると、日本のスカウトが帰ったあと一生懸命学んだということでした。日本にとってもフィリピンにとってもお互いを学び理解を深め交流を続けていくことは、最高の平和活動であり、最高のスカウト活動です、永遠に続くことを願っています。

第4回フィリピン派遣

隊長　橋田仁男
（千葉1団）

過去3回の派遣は語学力・体力を考慮しシニアースカウトを中心に交流してきましたが、フィリピンに於てシニアー年代は既に社会人として活動から離れる年代にあたることから、ボーイを中心として交流を計りたいとの要望があり、また、第3回に副長として参加した経験から日連の海外派遣に準じボーイ年代中心の活動へ変革の第一歩とした。同年代のスカウト達は、片言の英語力であっても打ち解けやすく、また、ローバーを副長として起用したことは、その後の地区活動に大きく影響するものとなりました。参加スカウトの年齢を引き下げることにより参加後のスカウトがシニアー・ローバーと登録を

継続する傾向になったことも良い結果と思います。既に10年が立ち、曾てのスカウト達と懐かしく語る時、彼らの成長が今後のスカウティングの礎となるものと期待し、支援下さった皆様に感謝致します。

第５回フィリピン派遣・受け入れの思い出

隊長　小　林　孝　一
（千葉９団）

派遣隊の訓練が最終段階に入っていた1989年12月になって突然思いがけない事態が発生した。この月の下旬にはスカウトが冬休みになると直ぐにフィリピンに向けて出発することになっていた。フィリピンでクーデターがおきたのであった。

千葉地区協議会では派遣の決行をひとまず中止した。１年の事前訓練を積んできたスカウトや指導者はガッカリしてしまった。その後、1990年の３月スカウトが春休み中に派遣を実施することに千葉地区は決定した。派遣隊全員は気持ちを取り直し、再び訓練を続け、やっとフィリピンに行くことになった。

３月は日本では未だ寒いが、フィリピンでは大変暑くなっていた。暑さにまいったスカウトもいたが病気になったものもなく、概ね順調に過ごすことができた。事前に先方と合意に達していたことが現地に行くと変わっていた部分もあり、戸惑いもあった。先方の私たちに対する扱いは丁重で嬉しくもあり、驚いたりもした。バスで移動の時など軍隊のオートバイが先導し、信号のある交差点でもノンストップであった。

この派遣隊はスカウトが31名、指導者が５名とほぼ標準隊の構成で派遣ができた。その後の第６回から第９回までの派遣隊の人数をみると、ずっと少なくなってしまっている。千葉地区にとって、この派遣が華であったように思う。そのような派遣に隊長として参加できたことは大変幸せなことであった。

受け入れは１ヶ月後のゴールデンウィークになった。派遣から受け入れまでに１ヶ月しかなかったので、隊も準備に忙しかったが、千葉地区関係者の方々も大変であった。

受け入れも多くの方々の支援や受け入れ家庭の協力により順調にプログラムを進めることができた。成田空港でお別れをした時は大役を終えて、本当にホットしたことを思い出す。

個人的にもパートナーの隊長ベイさんとは大変親しくなり、その後妻と一緒に彼の家を訪問した。ずっと親戚付き合いをしていたが、残念なことにベイさんは５年前に亡くなってしまった。彼はクリスマスキャンプの時、テントの中で朝、亡くなっているのを発見された。彼こそスカウター中のスカウターであった。遺族とはその後も付き合いが続いている。

第５回MMNC派遣隊をふりかえって

上級班長　菊　間　聖太郎
（千葉20団）

今思い起こせば、すばらしい思い出ばかりである。私は30数名のスカウトの上級班長として参加した。私には荷が重く、つらかったり苦労した事が多かったはずなのに約10年たった今では全部まとめて『良い思い出』である。

スカウト時代、中でも派遣隊での経験は、今の仕事に大いに活かされていると思う。派遣隊が千葉地区のスカウトの有志でつくられた混成隊であったので、普段活動を共にしていないスカウト達が同じ目標の為に訓練し、海外のスカウトと行動を共にする事は通常のスカウト活動では得られないものがある。

今後も千葉地区のスカウトの方々が世界に目を向け、この派遣隊をはじめとして国際親善事業に参加されることを望んでいる。

Chiba６を振りかえって

加賀谷　昭　宏
元派遣団副団長／国際交流委員

いよいよパートナーとの対面がやってきました。「俺のパートナーはどいつだ？」とばかりに日本のスカウトもフィリピンのスカウトも期待と不安が交差した顔付きでお互いを見まわしています。日本スカウト「グッドォ・イブゥニングゥ！」、比国スカウト「コンパンワァ！」、日本スカウト「キャハハ、変な日本語」、比国スカウト「そういうあんたの英語もワカラナイ」。国家と民族の壁という重しがとれた一瞬でした。意識の中では、同じスカウトということだけですでに仲間同士であったのです。そして、それぞれの家庭へと散って行きました。「うひゃ～、でっけえ家！」と叫びたくなるほど裕福な家庭へ引き取られたスカウト。そして、「おい、おまえこんなとこに住んでんか」とこぼしたくなるような村へ行ったスカウト。でも、近隣総出で出迎えてくれたとか・・・。

我々大人にとってもあわただしい日々の幕開けでした。

「どっかのボスか？」といった風体の男がジープとトラックが合体したような車をもってきて、我々に付き添います。無線機もありました。公衆電話が見つからなく、当時は携帯電話もありませんでしたから、これは大変な威力でした。「あれが俺んとこ」と男が指指す方を見ると、何と学校でした。学校の経営者だったのです。スカウト館もあります。フィリピンでは学校単位でスカウト活動に力を入れていたのです。さっそく無線が入りました。「スカウトが熱を出した」、「お腹の具合が悪い」等々。夜中に彼と車を飛ばして当のスカウトの家へたどり着くと、留守番の可愛い娘さんが出てきて「一緒にカーニバルへ行ったヨ」と。「あいつ！」と思いながらも、思わずホッと一息。団長の酒井さんも、副団長の島さんも、隊長の高久さんも、副長さんも、そして健康担当のスカウト兼副長補も、皆さん大忙し。それでも後のキャンプで全員を見て「少しはたくましくなったかな？」と思えるようになりました。

またたく間に時が過ぎ、そしてマニラ空港。「おい、必ず来いよな。千葉で待ってるからな」「うん、絶対に行く」「もう時間かぁ・・・」「もう行けよ」「じゃあな」「うん」、そして、そっとうつむいた顔には涙がありました。しかし、この内の何人かは再び会うことがありませんでした・・・。

つい先日資料を整理していましたら、お世話になった長老から帰り際にそっと手渡されたものがありました。スカウト活動をデザインした歴史的な収集切手の束でしたが、これにまじって、ていねいに包まれたドル紙幣が見つかりました。色、デザイン、紙質といい、一見してまさにUSドルでしたから、てっきり私が使ったドル紙幣の残りだろうぐらいに思っていました。でもよく見ると、どこか違います。何とそこには古い書体で「府政国帝本日大」と印刷してあるではありませんか。当時を生きた人々の決して消え去ることがない影をこの紙幣が語っていたのです。あのスカウトたちが大人になり、ここで流した涙をどう考えるのでしょうか？　たとえ今忘れていたとしても、必ず思い出す機会が訪れるでしょう。そのとき、世界はどう変わるのでしょうか・・・？

第７回フィリピン派遣に参加して

団長　島　　孝之
（千葉14団）

第７回派遣は、第１回ＡＳＥＡＮジャンボリーの参加を含めての派遣になりましたが、ケソン地区は、日本派遣団としてではなく、ケソン地区への派遣として受け入れてくれたため、ケソン地区のサイト内に我々と受け入れ隊のキャンプサイトを用意してくれておりＡＳＥＡＮジャンボリー本部は、日本派遣団（千葉・茨城・大阪）としてキャンプサイトを用意してあった。ただ、我々が到着する前日は大雨で、ケソン地区のサイトは谷底にあったので、グチャグチャの状態で、我々にキャンプをさせることは気の毒だと、ケソン地区では、温泉の出るプールのある保養地での舎営に変更してくれた。そして快適なプログラムを過ごし、ＡＳＥＡＮジャンボリーは開会式（雨のため順延になっていた）にケソン地区のスカウト隊として参加し、ケソン地区のキャンプサイト前よりケソン地区のスカウトの先頭にたって、開会式場まで行進をし、式場では日本隊として会場の最前列中央に並びセレモニーに参加しました。私は日本連盟よりＡＳＥＡＮジャンボリーの派遣団役員も受けており、真夜中にジャンボリー会場まで自動車を出してもらい、日本派遣団の様子を見に行くなど二股の苦労はありました。

舎営生活では、元気があるあまり、建物の床を踏み抜いたり、ロッキングチェアーを壊したりして、弁償したいと申し入れても受け入れてもらえず、壊したまま、帰ってきたのが今でも気にかかっています。

この派遣では、市役所でのセレモニーで倒れたスカウト以外は、病人も出ず無事に帰国できました。このスカウトは食事が食べられなかったとのことなので、今後の派遣では何でも食べられるスカウトを送りたいと思います。

現地でのリーダーミーティングでは、両国のスカウト環境や資金について、かなり突っ込んだ話合いが出来、お互いに先方の地区運営の内容を知ることが出来た。

この派遣から、アダルトもホームステイになったが、受け入れ家族も日本へ行かれるとの意識が強く、今後は、この点への配慮がほしいと思います。

受入れでは、特に問題なく過ごせました。

第８回フィリピン派遣団

団長　高　橋　正　二
（千葉25団）

千葉地区第８回フィリピン派遣団は平成７年12月28日から７日間、平成８年１月３日まで12名のスカウト、５名の指導者の構成で訪問、受入れは平成８年４月27日～５月４日までの８日間。いずれも最も人数の少ない派遣団であったと記録されている。

少年達に取っては得がたい国際交流の成果を挙げることが出来たと思う。

問題点として訪問時では自分の言語障害、バンクチュアルでない行事進行などに悩まされたが、それらの不都合を遥かにカバーする暖かい歓迎、ホスピタリティに包まれた。

受入れ時には、情報の不足に起因するペアリングのミスマッチを起こし、また、家庭の事情もあったが帰国しないと頑張るスカウトの問題など。

派遣団に参加して

第９回派遣団長　福　嶋　元　生
（千葉18団）

ＢＳ千葉地区協議会のケソン市との交流事業も第９回目ともなると、人材不足なのか私のような者にまで、御役が回って来てしまい派遣団長を御引受けしたものの、千葉地区の皆様には大変な御迷惑の掛け通しで、今でも申し訳なく思っております。

ケソンの思い出は何と言っても「人情の豊さ」に尽きると思います。

遠来の友を精一杯持て成そうとする気持ちが、こちら側にも伝わって、大変嬉しく思いました。

私が、御厄介になったバナル氏はケソン市の市議会議員をしておられる方ですが、英語がまるで駄目な私のために家族総出でいろいろと面倒をみて頂きました。

滞在中は常に保護者同伴の外出で、一人で出歩くことが無かったせいか、外国へ行ったという意識がないまま帰国した１週間で、無事に帰れたのが不思議な気がします。

第９回フィリピン交流に参加して

隊長　近　藤　曠　史
（千葉14団）

一度は参加してみたいと思っていたこの交流に参加することができ、私自身楽しく充実した体験をすることができました。

１．目標としたこと

（１）まず１級スカウトになる。更に、菊スカウトを目指す。

（２）事前訓練を含め、塾・部活との両立に努力し、交流を果たす。

２．成　果

（１）全員１級スカウトに進級し、その中から更に３名が菊スカウトに進級した。

（２）全員が派遣・受け入れをなし遂げた。

これは短期的な成果ですが、この体験をとおして、スカウト一人ひとりの心の中にいずれ芽を出し花を咲かせる種が宿ったものと確信しています。

３．今後への期待

（１）原隊あるいは自団をリードするスカウトになってもらいたい。

（２）今回の体験をスカウト活動だけでなく、何らかの形で役立ててもらいたい。

（３）いずれ、指導者の立場でこのような交流事業に参加し、これまでの体験を後輩のために生かしてもらいたい。

第９回フィリピン派遣参加

上級班長　森　　岳　彦
（千葉14団、現在学生）

私が海外派遣に参加して、最も感じたことは自分の意識変化です。短期の滞在ではありましたが現地の生活に触れ、フィリピンと自分との心理的距離が大きく縮まりました。

例えば、フィリピンの大統領選や天気異常による干ばつがニュースで報じられると、ちょっと気になる、そんな小さなことですが、これが国際化の第一歩ではないかと思います。

機会があれば他の国々にも行き、心理的な壁を取り去れたらと考えています。

初めてのヒューストン

第１回派遣隊副長　橋　田　仁　男
（千葉１団）

制服での市内移動は、多くの人達から祝福されボーイスカウトであることを誇ると共に姉妹都市として与えられた名誉に深く感謝いたします。スカウト国アメリカを肌で感じることが出来たのは、町筋のあちらこちらから三指で挨拶をくれた老人達、『何処から来たんだい』、「日本です。姉妹都市の千葉市です」『それは、素晴らしい。歓迎するよ』皆同じ笑顔で迎えてくれた往年のスカウト達、『帰りにアイスクリームでも食べな』と機内での乗客からの帽子募金、広大なキャンプ場でのプログラムは国内では体験出来ない素晴らしいものでした。これを第一歩としヒューストン派遣も軌道に乗り多くの千葉スカウトが参加する現在、交流の継続を願うと共に、参加したスカウトが成長し、スカウトであることにより得られた国際交流の素晴らしさを伝えて頂きたいものです。

あれから８年

団長　塩　崎　達　也
（千葉１団）

私が千葉地区主催の第２回ヒューストン派遣に団長として参加してから、すでに８年もの年月が過ぎてしまいました。地区委員長に就任して間もない頃で、この事業に参加したことがその後の地区主催事業の柱として海外派遣、国際交流を据える事になるきっかけでした。

スカウト活動の先進国、アメリカ、中でも活動の活発なサムヒューストン地区との交流はこの後、派遣５回受け入れ２回で７回を数えており、今年の夏には千葉から第６回の派遣をする事になっています。すでに始めていたケソン地区との交流に比べ、先方との事前打ち合わせ、現地でのプログラム内容など千葉地区国際交流委員会として、得たものは非常に多かったと思います。

今後も交流を重ね、スリムで内容の充実した海外派遣事業を継続し、できるだけ多くのスカウトが国際交流を体験できるように、可能な限りのお手伝いをしたいと思っております。

第３回・第５回ヒューストン派遣及び第１回ヒューストン受入の思い出

隊長　小　林　孝　一
（千葉９団）

ヒューストン派遣には私は２回参加をしている。最初は1992年の第３回派遣、２回目は1996年の第５回派遣である。最初の時はヒューストン協議会主催の第６回インターナショナルエンキャンプメントが開催されており、それに参加した。メキシコ、カナダその他多くの外国隊が参加していた。千葉のスカウトは各国のスカウトと交流を楽しんでいた。中にはメキシコの女の子とかなり仲良くなっていたけどその後どうなったのかなー？私達日本隊をホストしてくれた団はヒューストン第105団であった。そこにはオマーン隊もお世話になっており、キャンプ中も一緒であった。ある日、副長の岡本さんがキャンプサイトで「達磨さんがころんだ」をやったらアメリカ、オマーン、日本のスカウトが仲良く遊んでいたことを今でも思い出す。

1993年、千葉地区では初めてヒューストン隊を受入れた。この年は第15回千葉県キャンポリーの開催年であったので、それに参加することを主なプログラムとした。団長は従来から千葉とヒューストンの掛け橋になっていたバド・アリソン氏、隊長は背の高いボブ・リビッツ氏、副長はビル・パターソン氏であった。３氏はインデアンの扮装でキャンポラリーの会場を練り歩きキャンポリー参加者の人気の的であった。

ホームステイ中の観光旅行で東京ツアーの後、銀座の夜を散歩したところ鮮やかなネオンを見て喜んでいたことが、意外であった。

第５回派遣の時にはヒューストン協議会はインターナショナルエンキャンプメントがなく、ビル氏の骨折りでヒューストン80団が受け入れてくれた。この時にはメキシコのスカウトも招かれており、３国間の交流ができた。キャンプ場はヒューストンから200kmほど西の元牧場であった。私は西部劇で見るカウボーイのように木の下で寝た。

ヒューストン市庁を訪問した日は議会が開かれる日であった。市長に面会した後、議場に案内され、市議会を見学した。その時私達日本隊は突然議場の前に呼ばれ議員やその他傍聴者に紹介されるという栄誉に浴した。

私は今までにフィリピン派遣とアメリカ派遣の両方に参加させて頂いている。双方とも夫々楽しいが、お国柄による受入の差に気がつく。フィリピンは同じ東洋人ということで濃厚な歓迎をしてくれる。アメリカは淡々と気軽に受け入れしてくれる。多くの方が両方の派遣に参加して、その差を実感することをお勧めする。

ヒューストンの思い出

班長　齊　藤　大　祐
（千葉25団、現在学生）

もう、７年ほど前になるのでかなり昔の話になりますが、私にとって初めての海外であり、今になって思うとこれが今の私をつくっている一つ大きな要素になっているように感じます。

そのころはどう感じていたのかは、はっきりは覚えていませんが、現実にアメリカという国に行ったことによって、また、さまざまな国のスカウトに出会う事により、世界に対する大きな信頼感だとか、親近感などを感じる事ができたと思います。

私たちは、ヒューストンにある林の中で様々な国の人々と一週間ほどキャンプを張って暮らしました。

まず、そのキャンプの充実したプログラムはいつも私たちを興奮させて止みませんでした。日々いろいろな企画が用意されていて、しかも様々な国の人と容易に交流できるようになっていたと思います。

片言の英語で話しながら一生懸命にお互い理解しようとしたりしながら、いろんなスカウトと話しました。

中でも、パティーというメキシコの女の子とずっと一緒にいたことが印象深いです。

その子は国の習慣の話だとか、フィアンセの話だとか、スペイン語なまりの流暢な英語でいろいろ話してくれましたし、私も身振り手振りで一生懸命話しました。

さまざまな国の人と接するのは非常に刺激的だし、また自分の気持ちが国を越えて伝わった時には大きな自信につながると思います。

また、ボーイスカウトという共通点によって容易に様々な国の人々とコミュニケーションをとることが出来る事は、とても嬉しいことだし、これ以上の安心感や親近感はないと思います。

語学力云々という話は抜きにして、ぜひぜひ、より多くのスカウトに、ボーイスカウトという世界的な共通点を実感しながら、より多くの国の人々と接して心の幅を広げていって欲しいとおもいます。

海外派遣という貴重な体験

第5回ヒューストン派遣班長　山　崎　篤　志
（千葉25団、現在学生）

私がヒューストンへ11日間ホームステイしたのはもう3年も前のことになります。でも、3年も前の事にもかかわらず今だにたくさんの事を思い出すことができます。この海外派遣は私にとって始めての海外だったのでとてもいい経験がたくさんできました。まず、当り前ですが周りは全部アメリカ人なので英語で話しかけられ英語で返さなければなりません。これはけっこうつらいかもしれませんが、とてもいい経験になります。英語で話すのがつらいからといって、日本人同士でかたまって日本語で話したりするのは自分のためにならないのでやめましょう。また、テキサスの広大な景色にはとても驚かされました。地平線を見た時は本当に感動しました。これはやはり日本では見ることができないだろうし、貴重な体験ができたと思います。他にもＮＡＳＡの宇宙センターに行ったり、日本ではできない体験がいろいろできました。このように海外派遣では、学ぶことがたくさんあります。こういう体験は必ず自らの人生の糧となるので、後輩の皆さんもぜひこういう体験をすることをおすすめしたいと思います。

'99ヒューストン派遣

隊長　板　垣　弘　希
（千葉1団）

今回の派遣はメンバー確定が5月下旬で、結隊式が6月6日に行われ、期末試験等で実質的な訓練隊集会は2回と、スカウト間の親睦を図るのがやっとであった。また、隊の実務としてはなかなか副長さんの応募がなく、1人で取り仕切る事になったので、スカウト達に迷惑を懸けてしまったのではないだろうか。個々のスカウトへのフォローという面ではリーダーとしては、努力不足であった。

派遣期間中のスケジュールを無難にこなすという面にばかり、注力してしまったようである。野営技術といった実務訓練より、派遣の意義といった、意識付けが必要であった。

そんな面からも、過去の派遣隊のリーダー＆スカウトとの意見交換とか懇親ＣＡＭＰといったプログラムを考慮すべきであった。

今回の派遣でスカウト達が何かを掴んできたと確信しているが、1年経ち、2年経ちスカウト達の中でヒューストン派遣がスカウティングの原動力として培われることを望むのみである。

ヒューストン派遣の思い出

スカウト　大　藪　謙　介
（千葉25団、中学2年生）

自分で決めたヒューストン派遣の目標は「日本の文化で交流し、楽しむ」に決めた。ホームステイ・ＣＡＭＰ・ヒューストン観光を通して、少しだけ日本の文化とかアメリカの文化とかが、理解しあえたと思う。心配だった言葉についてはお互いに理解し合って接しられたので問題なかった。海外に行けるチャンスがあればまた行きたいと思う。

TROOP 80 CONTINUES CHIBA-HOUSTON SCOUT EXCHANGE

From July 24 to August 2, 1999. families from Troop 80, of the Golden Arrow District and the Sam Houston Area Council in Houston, Texas, were very pleased to host a delegation of Scouts and Scouters from Chiba, Japan. This event was a wonderful addition to the exchanges that have taken

place over the last several years between these two "Sister Cities".

The excitement started as the host families began to gather at Houston's Intercontinental Airport on July 24. We did not know exactly where the guests would appear, and so the emotions were running high as we sent first one group of Scouts out to look in one place and then another group to look in another place. Finally our impatience was rewarded as we saw our guests for the first time. Bill Patterson gave a short speech on behalf of the host families, and then everyone went home to rest after the long trip from Japan.

Hiroki-san and Masabumi-san were invited to an informal reception at the home of Patrick Jankowski, the Scoutmaster of Troop 80. The Scoutmaster expressed his regrets that he was about to leave the next morning with many of the senior Scouts on a trip to Philmont Scout Ranch in New Mexico. His apologies were quickly accepted and everyone had a very enjoyable time at the reception.

The next two days were spent as "family time" with each visiting Scout and host family getting to know each other. As usual, the language barrier quickly disappeared as guests and hosts developed other ways of communicating. Guests were taken to department stores, to video arcades, to restaurants, and even to church with their host families. Hiroki san and Masabumi san used part of this time to shop for supplies that would be used for a special Japanese meal to be prepared on Monday afternoon in camp. Sunday night there was a welcoming reception that provided an opportunity for our guests to meet many more members of Troop 80. Gifts were exchanged and speeches were made, but the Scouts really appreciated the opportunity to cool off in the neighborhood swimming pool, and eat home-made ice cream prepared right there in the park.

On Monday morning, the Scouts all assembled early at the Troop 80 Scout House for the long drive to El Rancho Cima. There was a great deal of excitement in the air as the caravan moved out at last. There was also some mystery since we knew we were going to the Horseshoe Bend part of El Rancho Cima, an area in which we had not camped before.

Upon arriving at Horseshoe Bend, we checked in at HQ and then went to the pool for swimming tests. Once the tests were completed, we left the pool to set up our campsite. Crew Chief, Adam Martin, quickly took charge, helping Scouts to unload gear and set up the kitchen area. Our guests began preparing the traditional Japanese food for that afternoon's enjoyment. Meanwhile, the word quickly spread among the camp staff that something special was going on, and by the time the first servings were being distributed, we had a large audience who were anxious to participate in this special feast along with us. The results were, of course, delicious and memorable to those who had never tasted these treats before.

The rest of the week was filled with fun activities including horseback riding,swimming, hiking, astronomy, tomahawk-throwing, lariat-throwing and a real Texas pioneer-style barbeque supper from a real horse-drawn chuck wagon. It was a wonderful time for everyone, and especially impressive to our Japanese guests who had a taste of some real Texas history and tradition.

When we returned to Houston, we had a full day of important visits in the city. We began with a visit to the Japanese Consul-General, Mr. Masami Takemoto, followed by a visit to the Boy Scout Office and a meeting with officials of the Sam Houston Area council. Gifts and warm wishes were exchanged, and a quick tour of the building was arranged. Then it was time for a quick lunch and on to a meeting with Annise Parker, one of the members of Houston's City Council. Finally, we ended the very busy day with a stop at the office of the Japan-America Society of Houston. We were treated to cookies and soft drinks, and congratulated for continuing the happy exchange of visitors and friendships that have been encouraged between Chiba and Houston for many years.

On Saturday we visited the Houston Scout Shop for souvenirs and gifts to take home to families in Japan. The staff at the Scout Shop were very helpful and generous in providing some special patches to our guests in honor of their visit.

Most of the weekend was spent as family time

again so that the guests and host families. could grow even closer together as friends. Sunday night brought the closing reception with more speeches and more exchanges of gifts. Our Japanese guests wore happi coats and performed the traditional "Coal Miner Dance", then invited all the hosts to join in with them. Hiroki san delighted the crowd with a display of Sumo wrestling and then encouraged a series of matches between members of the audience. It was a lot of fun and provided an opportunity for many of the members of Troop 80 to see these things for the first time.

Finally came the day we had all tried not to think about. Monday, August 2, was the day we had to say "Goodbye" to our guests who had become such close friends in a very short time. We tried to be happy as we shook hands and waved goodbye, but inside there was an emptiness that we hoped would be filled with letters and e-mails to follow.

It is my very real hope that all of the participants in this international exchange, both those from Chiba, and those from Houston, will carry the happy memories of this event with them for a very long time. I thank all the people who contributed so much to making it a success, especially Hiroshi Takakura, Shigeki Nomura, Hiroki Itagaki, Masabumi Shiozaki, Pat & Frances Barrett, Carol & Bill Elsbury, Tom Bailey, Claire Eary, Steve Tillman, Adam Martin, and all the others who worked so hard to make it all happen. We are lucky to have each other as friends and this wonderful thing called "Scout Spirit" that binds us all together.

Respectfully submitted,

Bill Patterson　(1993年、1997年来葉
1999年千葉スカウト受入れ隊長)

海外でのスカウト活動に参加したスカウトの一言

1977年国際キャンプ スタッフ計画派遣

小林明美

(43歳／会社員／現・ボーイスカウト大和第5団ローバー隊長／元・ボーイスカウト千葉第8団／18団所属)

アメリカ連盟には全米に地方連盟が数百個所存在し、それぞれの地方連盟が常設のキャンプ場を有する。毎年、スタッフを公募して独自の訓練キャンプを実施し、そのキャンプに派遣されるのが「国際キャンプスタッフ計画派遣」である。私の前後では、75年に千葉第6団の倉沢氏、その感化を受けた私が77年に、80年には同じ8団の関能君が派遣団に選ばれた。各キャンプで夏季約6週間に渡って、インストラクターなどの奉仕活動を行う。

1980年国際キャンプ スタッフ計画派遣

関能克則

(41歳／自営／現・ボーイスカウト渋谷第7団／國學院大學ローバー隊副長／元・ボーイスカウト千葉第18団所属)

9名の派遣員の内、地区ローバーが4名、大学ローバーが5名各地のキャンプ場に派遣され、各々に何かを掴んで帰国した。アメリカの大きさであったり、豊かさであったり、大らかさであったり、スカウティングに対する地域のバックアップの必要性であったり、いまでも言い尽くせない得がたい経験となっている。そして、そのひとつひとつの経験は現在の糧となっている。

日本連盟で第2次選考があり、22名の候補者が選考前夜より舎営をした。その夜、無為に過ごした候補者は選考から漏れた。

第17回（1991年）
世界ジャンボリー参加

永　喜　正　人
（千葉18団、現在学生、22才）

ジャンボリーへの参加を決めたのは、隊・地区・国を越えた友達を作りたかったからです。しかし、今思うと出来たのは日本人の友達で、国を越えた交流は残念ながら続いていません。

今後、国際交流を続けていく中で、いろいろな人との出会いがあると思います。それはそれで、良い経験になると思います。しかし、それを単なる経験にするだけでなく、交流を継続していくことが一番大事なことではないかと思います。

ここで国際交流について一言述べさせて頂きます。

正直に言うと、ジャンボリー自体は非常につまらない物でした。

それは、ジャンボリーの性格上仕方がないのかもしれません。

・日本人だけで隊を作り、日本人だけのサイトで暮らす。
・イベントに参加するのも、個人もしくは同じ隊内のグループ。
・渡航前の訓練会も、実際は隊内の交流会で、渡航先の事情や言語の勉強会はなし。

1・2番目のことに関しては、どうしようもないと思います。しかし、3番目のことに関してはもっと工夫すべきです。

まず、日本人が交流するにあたって、一番の壁となるのが語学力です。ジャンボリーでは英語・仏語・現地語が標準の言語となります。現地語を話せるのが理想だと思いますが、せめて英語はある程度話せるように勉強会を開くべきだと思います。僕は、ジャンボリー参加前は韓国語を勉強しました。その結果、現地の人にも仲のいい友達が出来ましたし、売店の店員さんとも友達になりました。

また、隣のサイトの人たちを誘って、パーティを開くというのも良い交流だと思います。そのためにはリーダーたちが率先して動くべきです。リーダーたちはイベントに参加しないといっても、リーダー動かずしてスカウトは動きません。その理由としてはやはり言語の壁があるのだと思います。

さらに、ホームステイも良いと思います。17WJのときはイギリスの隊が日本にホームステイしました。我が家も一人受け入れました。数日間でしたが、常に一緒に行動することで、交流の楽しさがわかるのだと思います。先程も書きましたが、出会いを一瞬で終わらせるのはとてもつまらないことだと思います。しかし、出会った人すべてと長く交流していくのは大変です。たった一人でも良いから、長く交流できる方がいいと思います。そのためには、ホームステイは絶好の機会だと思います。

長くなりましたが、以上が今後国際交流を続けるにあたっての要望です。

1994年韓国ジャンボリー参加

上　保　　敏
（千葉18団、現在学生、21才）

韓国ジャンボリーを知ったのは全くの偶然だった。韓国観光公社で頂いた「94年イベントカレンダー」という冊子に、各地の民俗祭などと共にこの大会の開催の紹介が載っていたのである。団の方々に問合わせて頂いた結果、日本連盟の派遣事業を知り応募したのであった。日本連盟主催の派遣は団でもおそらく初めてでご迷惑をおかけしたが、将来をも左右する貴重な経験となった。現在大学で朝鮮言語学を専攻するに至っているのである。

第18回（1995年）
世界ジャンボリーに参加して

桜　木　陽　介
（千葉15団、現在学生、20才）

「世界中のスカウトと仲良くなれたら楽しいだろうな。」と思った事が、ジャンボリー参加の切っ掛けでした。

参加が決まった時、嬉しい反面、言葉の壁に不安を感じていたが、いざ世界の仲間達と交流をもってみると、身振り手振りでも通じ合う事ができた。

世界各国のスカウトと接した事で、今までとは違った価値観で物事を捕える事ができる様になったと思う。これは、私がスカウトとして、人間として、大きく前進した事と思い、今でも大切な思い出となっている。

第18回世界ジャンボリーに参加して

向　井　克　典

（千葉18団、現在学生、18才）

一度は世界ジャンボリーを体験したい、僕の参加の動機はこれだった。この経験では何もかもが鮮烈で、刺激的かつ有意義な日々を過ごせた。参加するスカウトには英語を勉強していくことを勧める。英語が話せるか否かで楽しさや体験できる事が二倍三倍も違うと思う。世界には大勢のスカウトがいて、彼らと一緒に活動していることを肌で感じてほしい。

第19回（1998年）世界ジャンボリー参加報告

1隊隊長　鈴　木　俊　雄

（千葉8団）

行って来ました。19WJ

遠い、遠い地球の裏側です。飛行時間だけで24時間を超える長旅です。

それも、禁煙です。蛇スモーカーの（ヘビーの間違い）私にとって拷問でした。最近、総コミッショナーより飲酒と喫煙の話がよくでますのでこれも試練とあきらめました。

派遣隊は5ヶ隊総勢228名の参加でした。私は派遣1隊の隊長を拝命しました。1隊は関東ブロックを中心とした構成で、千葉からは7名のスカウトが参加しました。

東京出発は1、2隊と本部員で他は関空発で、それぞれ別便で出発しました。

さて、19WJですが、書き出すと長くなるので、まずは第1部ブラジルでのホームステイ編の報告をします。

ブラジルはサンパウロでのホームステイとなり、ほとんどが日系家族です。私の隊の一部は日系以外のホームステイとなり若干のハンデがつきました。スカウトにとってどちらが幸せだったか不明ですが。

スカウトは熱烈歓迎（中国的ではないが）を受けた為か、帰りたくないというスカウトが多数でました。（日本で優遇されていないことがはっきりしましたね！でもお客様だから当然と言えば当然なのですが。）サンパウロ市内見学を含め丁度クリスマスであったことも幸いし、クリスマスパーティー参加など盛りだくさんでした。

帰りたくなくなっても当然かも。

3泊のホームステイでしたが充実した活動が出来たようです。

出発は25日早朝でした。前の日にオーバーブッキングがあるので5時までに空港に来てほしいと連絡が入り、クーペルコチア団の野営場に3時集合（朝ですよ）前日のパーティーは0時過ぎまで、ほとんどのスカウトは一睡もしないでブラジル出発でした。

と言うわけで、オーバーブッキングのせいでファーストクラス、ビジネスクラスもゲットし、リーダーはファースト、当番班はファーストとビジネス、残りは抽選でビジネス、豪華な旅でした。

続く

次回予告（チリ・サンチャゴ到着からキャンプインまで）

以下4）国際交流関連資料参照

第19回世界ジャンボリーに参加して

金　井　哲　也

（千葉15団、現在高校生、16才）

世界ジャンボリーに参加した感想はとても一言では表すことができない。それはこの機会を与えてくれた両親への感謝や、生活をともにした仲間との楽しみや外国という新しい世界に行ったという不安などが一つになったような感じだ。また、この派遣が始めてだった僕には、仲間が唯一この不安を支えてくれた。これから参加する人もしてしまった人も、仲間というものを大事にするべきだと思う。

第10回（1997年）フィルモント派遣に参加して

ウルフ班　藤　　智　和

（千葉1団）

「自分なりのスカウト活動の意義を見つけてくる。」とか何とかそんなことを応募するとき作文に書いた。この時点では随分いい加減な気持ちで、適当に書いたものだと今にしてみれば思う。実のところフィルモント派遣について初めはそこまで熱意があった訳ではなかった。10日間もの間の移動キャンプ、見知らぬ仲間たちと言葉も通じない外国で過す事、そして正直な話し最近スカウト活動に消極的だったので「面倒臭い」と感じていた。しかし、隊長たちの勧めに流されるように派遣隊に参加した。だがその様な消極的な気持ちはいざ参加してみると一変した。雄大な自然、360度ぐるりと見渡せ、地平線の端は霞んで見えない景色を見たのは始めてだった。朝4時前に起きて眺めた、Tooth of Timeでの日の出は鮮明に記憶されたし、自力では立ち上がれない程の重さの荷物をよく担いで歩けたと思う。三つ、四つの単語

だけで何時間もアメリカのスカウトとワッペンの交換をしたり、10日間歩き続けてベースキャンプに戻って来たときの達成感。そして何より皆が互いに協力できたことが一番の思い出に残った。

見ず知らずの者同士が、トレイルの間に徐々にではあるが理解しあえるようになるのも、フィルモントの魅力かもしれない。



WANT TO BRING

Mark all items with name and troop number!

3. 国際交流座談会

テーマ：ボーイスカウト千葉地区の20年の国際交流をふり返り、さらに21世紀の国際交流に向けて



〔出席者〕　野村　泰（千葉地区最高顧問）

山崎光男	大塚香代子	七山悠三
長野　茂	橋田仁男	小林孝一
島　孝之	鈴木俊雄	鎗田浩二
福嶋元生	近藤曠史	塩崎達也
長島弘道	野村茂樹	高倉　寛
塩崎雅史　以上17名	司会者：野村茂樹	国際交流委員長

日　時：平成10年９月26日（日）10時30分～14時
場　所：千葉そごう10階　レストラン「サファイア」
主　催：千葉地区国際交流委員会

司会者　座談会主旨説明と出席者紹介

野村　泰　国際交流を始めた経緯について：

昭和54年に最初の交渉をケソンと始めた。それに先立ち昭和47年に千葉市とケソン市が姉妹都市になった。フィリピンのボーイスカウト人口は当時、世界第２位、ケソン市だけでも６万人であった。これはマルコス氏が米国の士官学校卒であったため。一方、千葉は2000人のボーイスカウトであった。いわば2000石と６万石。昭和46年第13回世界ジャンボリーが朝霧高原で行われた。これにフィリピンから参加したケソンの隊長ティム　セルテーサ氏が野田市の野口氏宅にホームステイした。この時のホームステイの結果、千葉との交流の話が出てきた。それで、昭和54年使節団（16名）がマニラまで出かけていった。初めてであったので、お互い解らないことが多かった。ケソン側のボーイスカウト指導者たちは千葉との交流より日本の観光ができることを期待していることが分かり、日本側の考えと大きな食い違いがあったため、日本側は会談を中止して帰国しようとした。しかし、フィ

リピン側が考えを改めたので、ようやく相互の交渉が進展し協定書に調印することになった。第一回目の派遣ではケソン市側もはりきっており、日本からの派遣団の出迎えにフィリピンスカウトを飛行機のところまで整列させるほどの大歓迎であった。そしてリサール公園での献花。以来、今日までこの交流が継続されているということは素晴らしいことだ。この交流にあたって最初の頃は山崎さん、七山さん、原田さんたちが自費をはたいて努力された。山崎さんも当時は若かったが、いつのまにか年を取られた。米国のヒューストン市の当時の市長はフィリップ氏、全米市長会の副議長であった。第1回派遣の直前にオイルショックがあり、日本も不景気であった為、日本からの派遣団の人数がそろわず、謝りに行った。それに対しアメリカ側は日本からの渡航の費用を半分負担してあげようと申し出てくれ大変感激した。しかし、はじめからアメリカ側にお世話になるわけにもゆかないので何とか自分たちで頑張ることとし、ようやくヒューストンとの交流も実現に向かって前進を始めた。また、カナダのノースバンクーバーとの話し合いを進めようとした。このあたりのことは山崎氏も詳しいので、私の話はこの辺で終わります。最後に、本日、原田氏がご都合が悪く、欠席されていますが、ご本人から皆様によろしくお伝えくださいとのことでした。

山崎光男　私は当時、事務長という立場であったので、最初の使節団に加わった。一番困ったのは、お金の問題であった。この座談会に呼ばれてうれしかったのは日比交流が20年も継続していることであった。スカウトのためにやるんだという心が今まで続いてきた要因ではないか。最初の調印式の後、第1回の派遣団を出すまでに、いろいろな行き違いがあった。今のようにファックスがあるわけではないので、手紙をもらって、英語を翻訳して、苦労があった。千葉大学の人に通訳を頼んだりして、第1回が実現した。

野村茂樹　第1回の派遣隊は私が隊長で鎗田副長、亀谷副長で進めたが、フィリピンの政変のため中止となり、幻の第1回派遣隊になってしまった。

橋田仁男　私はヒューストン第1回派遣団の副長で参加した。スカウト4名、リーダー2名で行った。インターナショナルキャンポリーに参加した。一週間のキャンプと一週間のホームステイであった。サム・ヒューストンのキャンプ場（キャンプストレイク）は日本の山中野営場などに比べ、はるかに規模が大きく、3000名の参加者が一緒に食事が出来る施設など立派なものであった。25名～30名のキャンプスタッフが準備を含め我々に対応してくれた。

司会者　それでは、本日ご出席の皆さんから体験談をお聞かせください。また、今後の国際交流の為のご意見などお聞かせください。第1回の派遣団は大塚さん、湊さん、鎗田君が参加し、団長は野村最高顧問でした。まず、第1回の思い出を大塚さんからお願いします。

大塚香代子　私は派遣団ただ一人の女性でしたので、お土産の手配や、スカウトたちの体調などを気にかけたりしていました。第1回派遣団は特に問題なくすますことができたと思っています。国際人とは何かを考えるのに良い経験になりました。ただ、行ったということだけで終わらせてはならないと思います。

鎗田浩二　私は第1回のフィリピン派遣団の副長として参加しました。今から思うとあの頃は千葉6団リーダーが地区で活動していたので自分が行くことになったのだろうと思います。第1回は政変でだめになったが第2回に行った。亀谷君が同行した。

行ってからの印象は、何処かの公園でキャンプしたが、ライフルを持った人々がいるなど、国情の違いを感じた。スカウティングについては言葉がうまく通じなくても意思は通じたように思う。先方から日本に来たときも、たまたま家族が旅行中で家に自分一人しかいないところへホームステイさせいっしょに食事を作ったりした。成田で見送り、自宅に帰ってきてから、しょんぼりしていたことを憶えている。

七山悠三　第2回派遣団に副団長として参加した。当時海外交流委員長を勤めていた為、マニラに行くことになった。仕事は予算を地区内でひねり出すことであった。とにかく裏方に徹した。山崎事務長には大変助けてもらった。

長野　茂　私は第2回派遣団に隊長として参加しました。当時、私はシニアー担当の副コミッショナーであった。コミッショナーは菅谷さん、ボーイ担当の副コミッショナーが佐倉の増田さんでした。これらのメンバーでケソンに行くことになった。派遣隊の編成にあたって、副長の白井氏といろいろ研究した。派遣スカウトの訓練にスカウティングの委員会活動を徹底させようとした。（注：当時、派遣隊員はシニアースカウトであった）。この訓練に必要な費用は七山さんに頼んで、山崎さんの許可をもらうなど、お世話になった。フィリピンでの活動中はシニアースカウトに対する指示は英語でやるといったらスカウトから文句が出た。

司会者　第3回派遣団の団長は尾関氏、派遣隊長は小川信輝氏、副長は橋田氏であった。本日は橋田さんが出席されているのでお話をお願いします。

橋田仁男　派遣隊リーダーは小川氏、椎名氏と私であっ

た。第1回、第2回はシニアースカウトが中心であったが、第3回目からはボーイスカウトが中心になった。この時はメトロマニラノースカウンシル（MMNC）との交流で、千葉でいえば県連盟に相当するような大きな組織との交流であった。キャンプサイトは良いところだったが、治安が悪く、周りには銃を持ったガードマンがいた。マルコス政権の終わり頃で、治安が悪く、町を歩くときはボーイスカウトの制服着用が必須で一人で歩くことは禁止された。私は第4回派遣団にも参加した。1990年～91年に向こうの実修所に行った。スタッフとして訓練にも参加した。その時、フィリピン連盟の事務局長にもあった。そして千葉とケソンとの交流は相互交流という世界のボーイスカウトでも例のない交流であるので、この交流を長く続けてほしいといわれた。

大塚香代子　第4回の交流にも参加したが、スカウトとの接触はあまりなく、ほとんど縁の下でのお手伝いだった。

司会者　第5回派遣団は団長が原田氏、副団長が橋田氏、隊長は小林氏でした。小林さんにお話を伺います。

小林孝一　第5回フィリピン派遣隊に応募した。私が年かさであったので隊長をやらせてもらった。訓練には1年かけた。派遣隊メンバーはリーダーとスカウト総勢で40名という過去最大の編成になった。12月に行く予定であったが、クーデターのため3月に行くこととし、その前に下見に行った。向こうに着いたらキャンプから始まるという予定が変更になっており、いきなりホームステイに連れて行かれた。この時は2ヶ月後の5月に受入れを行った。

司会者　翌1991年に第2回ヒューストン派遣が実現した。この派遣団の団長として参加された塩崎地区委員長にお話をお伺いします。

塩崎達也　地区委員長になってはじめての海外派遣参加。隊長は13団の佐藤恵一君、アドバイザーとして長島氏、柴田国際交流委員長など総勢35名の大人数であった。ヒューストンでは国際フェスティバルに参加した。サムヒューストンはスカウトが8万人いる大きな地区である。また施設・組織も充実していて日本との違いに驚かされて帰った。この経験を千葉でも生かしてゆこうと努力している。

司会者　この頃から交流が軌道に乗るようになってきた。インターナショナルエンキャンプメントへの参加が定例化してきた。それでは第2回派遣に塩崎団長とともにアドバイザーとして参加された長島氏にお話を伺います。

長島弘道　当時、ヒューストンはウイットマイヤーという女性市長で、開会中の市議会議事堂を訪問した折、議題の合間に、姉妹都市千葉からのボーイスカウトが来ていると、我々を紹介してくれた。これには心から感激した。千葉市議会ではどのようにしているのであろうか。アメリカでは青少年を育てる組織としてボーイスカウトが、社会的に認知されている。従って青少年問題についてボーイスカウトに対する期待も大きく、活動に力を入れていると思った。

司会者　次に第6回のフィリピン派遣団の副団長として参加された島さんにお話をお伺いします。

島　孝之　本来なら私は第1回から行くべきだったが、喘息のため行くことができず息子に行かせた。第6回はスカウトが減って18名、これにリーダー・アドバイザー8名、総勢26名だった。千葉地区と印旛地区が別々になったり、ヒューストン派遣があったりしたためであろう。希望者全員を連れていったが、病人が続出した。高久隊長のホームステイ先に電話がなく連絡がつかず苦労した。第7回の日本からの派遣団は第1回アセアンジャンボリーに参加した。マニラ到着後、マウントマキリンに行った。しかし、バスから降りることなく、ケソン市のリーダーによって別の所につれていかれ、舎営をすることになった。そこから会場に行くことになった。舎営場にはいつも警官がついていた。この時から団長、副団長がホームステイしたが、これは問題がある。彼らはスポンサーなので家族がついて来ることが当たり前だと考えている。

鈴木俊雄　第7回の派遣団に副長として参加した。天候の関係で飛行機が台湾に着くかも知れないとの情報が一時流れて心配したが、無事マニラに到着。この派遣ではアセアンジャンボリー、ギリシャでの世界ジャンボリーに参加の途次、飛行機事故で亡くなったスカウトのモニュメント鍬入れ式にも参加した。参加したスカウトは少なく11名だったので増やしたいと思った。このあとフィリピンからの受入れは17名であった。

小林孝一　第3回ヒューストン派遣の隊長として参加した。ヒューストンとの交流のレールは既に引かれていたので大変スムースに運んだ。派遣隊はボーイスカウトが中心でシニアースカウトは2名参加した。この派遣は、はじめて派遣団は編成せず派遣隊のみで行った。

鈴木俊雄　第7回につづいて、第8回のフィリピン派遣には隊長として参加した。この時は成田からの出発ができず、関西空港からの出発となった。現地ではマウントマキリンに入った。第8回の日本への受入れは、来日したパートナーの人数が違ったり、帰りたくないスカウトが出たりトラブル続きであった。

鎗田浩二　第8回に副長として参加した。この時行ったスカウト達が、その後外国に目を向けるようになったと思う。

福嶋元生　第９回フィリピン派遣団の団長として参加した。英語が苦手であったが、近藤隊長との長いお付き合いもあり、お引き受けすることになった。レールに乗った派遣で心配なかったが、細かい点として寝袋は持っていった方がよかった。夜は結構寒かった。日連でも最近、国際交流から国際貢献といっているが、まず、知ることが先であろうと思う。

近藤曠史　第９回フィリピン派遣隊の隊長として参加した。私は副長として参加を申し込んだが、隊長を引き受ける人が出なかった為、隊長をやらされた。福島さんが団長をやってもらえることになりよかった。参加スカウト15名、指導者５名の編成であった。内３名は若い人でスカウト時代にフィリピン・ヒューストンを体験した人達であった。今回のキャンプ場はケソン地区発祥の歴史のあるキャンプ場で、フィリピン大学の近くで、フィリピン側から大勢の人達が手伝いに来ていた。過去、日本に来た人達がたくさん手伝いに来ていて、誰々さんは元気かとか、大勢の人達に聞かれた。このキャンプの時期は水不足であった。隊長として各スカウトのホームステイ先をまわったが、日本のレベルでは、心配するようなホームステイ先に滞在しているスカウトもいた。スカウト達の家庭は必ずしも裕福な家庭ばかりではない。フィリピンリーダーに感心した点は制服を大事にしていること、もくもくとゴミ拾いなどしていることなどスカウティングはいいなと思った。

ここで、長島国際交流委員から資料に基づいて日比交流の協定書についての説明が行われた。

以上で、第一部終了

司会者　来年は日比交流事業も第10回目を迎え記念事業にしたいと思います。具体的にどうするかはこれから詰めてゆくことになりますが、骨子はお手元の資料をご参考にして下さい。

野村　泰　この記念事業にあたっては千葉市にも協力を依頼した。その結果、前向きに検討するとの返事をもらっている。

司会者　この記念事業に対して、何か提案があればお話ください。

鈴木俊雄　記念事業となると大人に重点が行きがちであるが、スカウトのことを忘れないようにしなければならない。スカウトについてフルメンバーをそろえて行けるようにしたい。一人でも多くのスカウトに経験してもらう為。来年、再来年は日連、県連の行事がないから、各団から参加させるよう地区から働きかけてはどうか。

長野　茂　鈴木案に賛成。８名×４班の32名で実修所で学んだことを具現化したものにしたらどうか。世界友情章や英語通訳章といった技能章も取れるように。

野村　泰　ボーイを中心に編成組むという案に賛成する。できるだけ多くの人が参加できるように。そもそも姉妹都市がはじまったときには、相手の市長すら日本に来ることを楽しみにしていた。千葉市にも協力してもらうよう市長に会って話をしてみようと思う。こちらからも市を代表する人を連れてゆくのでケソンもそれなりの対応をしてもらうようにバナル氏に伝える。ケソン市と千葉市に全面的に支援してもらうようにする。市長が都合が悪い場合は助役には参加してもらうつもり。公のプログラム費用は全面的に支援してもらい、私的な部分は各個人で負担する。現役に邪魔にならない形で引退組み（レインボークラブ）が永遠に続いてゆけるものを残して行きたい。死ぬときまでスカウトでいたい。７．１運動で1.3億円の基金が集まった。この基金からの費用の捻出もできるかもしれない。

島　孝之　一級スカウトをもっと育ててほしい。地区でも各隊長に指導してほしい。

鈴木俊雄　各団と隊長に指示し各団から最低２名、一級スカウトを育てるようにする。

野村　泰　号令をかけるだけでなく各団の訪問を地区でやるべき。各自が感動して、自分がボーイスカウトクレイジーにならないといけない。

司会者　燃える第10回に向けて進んでいこう。地区委員長と相談し、レインボークラブの協力を得て実行委員会の編成をしたい。各団にも働きかけ全団から１名は出るようにさせたい。最後に今後の国際交流のあり方についてお話ください。日連では国際貢献ということをいっている。

鈴木俊雄　国際貢献はローバースカウトあたりが、中心になってすることになるのではないか。

長島弘道　千葉地区は国際交流事業を継続してきた結果、フィリピン、アメリカ、日本の三角交流まで企画・実施出来るようになった。過去、海外派遣に参加したスカウトは350名をこえているが、このうちリーダーとして残っている人は極めて少ない。このあたりは要検討課題である。

山崎光男　過去、参加したスカウト達の発掘もレインボークラブとしてしたい。レインボークラブを地区として日連に登録できるようにしてほしい。（全員同意）

司会者　最後に永遠のスカウトを全員で歌って終わりとしたい。本日は有り難うございました。

4. 資　料

1）フィリピンとの交流に関する協定書
2）千葉地区国際交流年表
3）国際交流プログラムへの団別参加者数
4）国際交流プログラムへの参加者（1963～1999）
5）海外のスカウトの千葉地区訪問
6）ホストファミリーアンケート結果
7）歴代国際交流委員
8）国際交流関連資料

MEMORANDUM OF AGREEMENT

KNOW ALL MEN BY THESE PRESENTS:

WHEREAS, the Metro Manila North Council, Boy Scouts of the Philippines and the Chiba Council, Boy Scouts of Nippon, are bound together by a common bond to serve boys through the Scout Movement founded by Lord Robert Baden-Powell;

WHEREAS, both Councils are of one belief that world brotherhood, peace and understanding could be attained through the program of Scouting; and

WHEREAS, the Scout Leaders of both Councils in the pursuit of the objectives of Scouting have agreed to forge a closer fellowship in the interest of the boys of both nations;

– NOW, THEREFORE, we hereby resolve to adopt the following agreement:

a. That, the Metro Manila North Council, BSP adopts the Chiba Council, Boy Scouts of Nippon as a Brother Council;

b. That, the Chiba Council, BSN adopts the Metro Manila North Council, Boy Scouts of the Philippines as a Brother Council;

c. That, with their close ties of kinship, each Council will exchange from time to time delegations of Scouts and Scouters, each host Council to extend all possible courtesies and hospitality in the true spirit of Scouting and world brotherhood;

d. That, other ways and means of sealing this fellowship of Councils be initiated and carried out from time to time among Scouts and Scout Leaders.

RESOLVE FURTHER, that copies of this memorandum of agreement be sent to each Local Council Executive Board concerned for approval and immediate implementation;

IN WITNESS WHEREOF, we affix our signatures this 10th day of February, in the year of Our Lord, Nineteen Hundred Seventy Nine, at the National Headquarters, Boy Scouts of the Philippines, Manila, Philippines.

(SGD.) TIM CERTEZA, JR.
Chairman, MMNC/BSP

(SGD.) YUTAKA NOMURA
Chairman, Chiba/BSN

WITNESSES:

(SGD.) JOSUE N. PANDY

(SGD.) MICHIHIRO SUGAYA

APPROVED:

(SGD.) JORGE MA. CUI
International Commissioner
Boy Scouts of the Philippines

(SGD.) YORIHIRO MATSUDAIRA
International Commissioner
Boy Scouts of Nippon

MEMORANDUM OF AGREEMENT

KNOW ALL MEN BY THESE PRESENTS:

WHEREAS, the Quezon City Council, Boy Scouts of the Philippines and the Chiba District, Boy Scouts of Nippon, are bound together by a common bond to serve boys through the Scout Movement founded by Lord Robert Baden-Powell;

WHEREAS, both Council/District are of one belief that world brotherhood, peace and understanding could be attained through the program of Scouting; and

WHEREAS, the Scout Leaders of both Council/District in the pursuit of the objectives of Scouting have agreed to forge a closer fellowship in the interest of both nations;

NOW, THEREFORE, we hereby resolve to adopt the following agreement:

a) That, the Quezon City Council, BSP adopts the Chiba District, Boy Scouts of Nippon as a Brother District;

b) That, the Chiba District, BSN adopts the Quezon City Council, Boy Scouts of the Philippines as a Brother Council;

c) That, with their close ties of kinship, each Council/District will exchange from time to time delegations of Scouts and Scouters, each host Council/District to extend all possible courtesies and hospitality in the true spirit of Scouting and the world brotherhood;

d) That, other ways and means of sealing this fellowship of Council/District be initiated and carried out from time to time among Scouts and Scout Leaders.

RESOLVE FURTHER, that copies of this Memorandum of Agreement be sent to each Local Council/District Executive Board concerned for approval and immediate implementation;

IN WITNESS WHEREOF, we affix our signatures this 3rd day of May, in the year of our Lord, Nineteen Hundred and Ninety-Four, at Chiba City, Japan.

RAMON G. MATHAY
Chairman, QCC/BSP

BIENVENIDO A. ICASIANO
Chairman, International Exchange Program

HIDEO HARADA
Chairman, Chiba District/BSN

TAKAYUKI SHIMA
Chiba 7, Contingent Head

WITNESSES:

MANUEL S. SALUMBIDES
Council Scout Executive
Quezon City Council, BSP

TATSUYA SHIOZAKI
Scout Executive
Chiba District, BSN

2）千葉地区国際交流年表

（　）内数字、参加者数、人

年		ボーイスカウト関連	千葉市・千葉県等主催事業
1961	S36	アジアジャンボリー　御殿場（118）	
1963	S38	第11回世界ジャンボリー　ギリシャ（1）	
1964	S39		沖縄派遣（復帰前）（3）
1965	S40	イギリス　ダービーシャイア 国際キャンプ（1）	
1966	S41		千葉県青少年海外派遣 東南アジア（1）
1967			
1968			
1969	S44	国際キャンプスタッフ　アメリカ（1）	
1970	S45		千葉市青少年・指導者海外派遣（1） カナダ　ノースバンクーバー市青少年との交歓会、殿山ガーデン
1971	S46	国際キャンプスタッフ　アメリカ（1） 第13回世界ジャンボリー　日本（18）	
1972	S47		青年の船フィリピン、インドネシア他2カ国（1）
1973	S48	フィリピン連盟50周年記念 ジャンボリー（2）	千葉市青少年・指導者海外派遣（1） 総理府青少年海外派遣　西ドイツ（1） 千葉県青年の翼（1）
1974	S49	国際キャンプスタッフ　アメリカ（1）	千葉市青少年・指導者海外派遣（1）
1975	S50	国際キャンプスタッフ　アメリカ（1） 第14回世界ジャンボリー　ノルウェー（1）	
1976	S51		千葉市姉妹都市交流派遣事業（1）
1977	S52	国際キャンプスタッフ　アメリカ（1） 第6回フィリピンジャンボリー派遣（1）	千葉県青少年海外派遣　東南アジア（1） ノースバンクーバー市青少年との交歓会、社会センター
1978	S53		千葉市青少年・指導者海外派遣（1） ノースバンクーバー市青少年との交歓会、社会センター
1979	S54	フィリピン交流使節団（16） 第1回フィリピン派遣延期	千葉市青少年・指導者海外派遣（1）
1980	S55	第1回フィリピン派遣（37） 国際キャンプスタッフ　アメリカ（1）	
1981	S56	第1回フィリピン受入れ（41）	千葉市青少年・指導者海外派遣アメリカ（1） 千葉市青少年・指導者海外派遣アメリカ（1） ノースバンクーバー市青少年との交歓会、社会センター

年		ボーイスカウト関連	千葉市・千葉県等主催事業
1982	S57	第２回フィリピン派遣（28）	千葉市青少年・指導者海外派遣　カナダ（１）
1983	S58	第２回フィリピン受入れ（24）	千葉市青少年・指導者海外派遣
			アメリカ（１）
1984	S59	第３回フィリピン派遣（30）	千葉市青少年・指導者海外派遣
		ボーイ年代中心の隊編成とする	アメリカ・カナダ（１）
		第１回ヒューストン派遣（６）	
1985	S60	第３回フィリピン受入れ（38）	千葉市青少年・指導者海外派遣
		１３ＣＣ参加	アメリカ・カナダ（１）
1986	S61	第４回フィリピン派遣延期	千葉市青少年・指導者海外派遣
			アメリカ・カナダ（１）
1987	S62	第４回フィリピン派遣（41）	千葉市青少年・指導者海外派遣
			アメリカ・カナダ（２）
1988	S63	第４回フィリピン受入れ（37）	千葉市青少年・指導者海外派遣
			アメリカ・カナダ（１）
1989	H１	千葉県連第２回フィルモント派遣（１）	千葉市青少年・指導者海外派遣
			アメリカ・カナダ（１）
1990	H２	第５回フィリピン派遣（40）	千葉市青少年指導者洋上研修
		第５回フィリピン受入れ（36）	中華人民共和国（１）
		千葉県連第３回フィルモント派遣（３）	
1991	H３	千葉県連第４回フィルモント派遣（１）	千葉市青少年・指導者海外派遣
		第17回世界ジャンボリー派遣　韓国（10）	アメリカ・カナダ（３）
		イギリスボーイスカウト受入れ（４）	千葉市青少年指導者洋上研修
		第２回ヒューストン派遣（35）	中華人民共和国（２）
		第６回フィリピン派遣（26）	
1992	H４	第６回フィリピン受入れ（23）	
		千葉県連第５回フィルモント派遣（１）	
		第３回ヒューストン派遣（12）	
1993	H５	第７回フィリピン派遣	
		（第１回アセアンジャンボリー参加）（17）	
		第１回ヒューストン受入れ（12）	
		１５ＭＣＣ参加	
1994	H６	第７回フィリピン受入れ（20）	千葉市青少年・指導者海外派遣　カナダ（１）
		千葉地区スカウトデー開催	
		千葉県連第６回フィルモント派遣（２）	
		第４回ヒューストン派遣（11）	
		韓国ジャンボリー参加（１）	
1995	H７	千葉県連第８回フィルモント派遣（２）	千葉市青少年・指導者海外派遣（１）
		第18回世界ジャンボリー参加オランダ（８）	
		タンザニア指導者１名受入れ（３）	
		第８回フィリピン派遣（17）	
1996	H８	第８回フィリピン受入れ（18）	千葉市青少年・指導者海外派遣
		千葉地区スカウトフェスティバル開催	オーストラリア（１）
		第５回ヒューストン派遣（14）	

年		ボーイスカウト関連	千葉市・千葉県等主催事業
		千葉県連第９回フィルモント派遣（１）	
1997	Ｈ９	千葉・ケソン・ヒューストン三角交流	千葉市青少年・指導者海外派遣
		１６ＣＣ参加（ケソン16名、ヒューストン12名来葉、ホストファミリー45世帯）	オーストラリア（１）
		第９回フィリピン派遣（20）	
		千葉県連第10回フィルモント派遣（９）	
		日連主催「国際フォーラム」に県連のメンバーとして参加（２）	
		日米フレンドシップパトローリー、福生市横田基地（１）	
1998	H10	第９回フィリピン受入れ（21）	千葉市青少年・指導者海外派遣
		千葉地区スカウトデー開催	オーストラリア（１）
		千葉県連第11回フィルモント派遣（５）	総務庁海外派遣「青年の船」ブルネイ、
		第20回アジア太平洋地域〔第８回中国（台湾）〕ジャンボリー参加（４）	インドネシア他５カ国（１）
		１２ＮＪ参加のアメリカ隊成田空港に出迎え	
		日連主催「国際フォーラム」に県連のメンバーとして参加（３）	
		第19回世界ジャンボリー参加　チリ（２）	
1999	H11	第25回日米フレンドシップパトローリー参加（35）	
		第６回ヒューストン派遣（10）	
		第８回日本アグーナリー参加のアメリカ隊成田空港に出迎え	
		第10回記念フィリピン派遣打合せのため訪比（３）	
		第10回記念フィリピン派遣（予定）	

（注）

１）千葉市青少年・指導者海外派遣の正式名称は千葉市青少年および青少年指導者海外派遣

２）フィリピンは千葉市の姉妹都市ケソン市。ケソン市は当初メトロマニラノースカウンシルの一部であったが、後にケソン市協議会になった。

３）1991年、世界ジャンボリー参加の途次イギリススカウト男女混成隊40名が千葉県内にホームステイ、うちボーイスカウト４名が千葉地区に滞在

４）1992年、1994年ヒューストン訪問時にはそれぞれInternational Encampmentに参加

５）１５ＭＣＣは第15回記念千葉県キャンポリーの略

資料

１）ボーイスカウト千葉地区協議会部内資料および年次総会議案・資料集

２）ボーイスカウト千葉県連盟年次総会資料

３）千葉市教育委員会：千葉市青少年及び青少年指導者海外派遣第28次報告書、1999.

3）国際交流プログラムへの団別参加者数

（A）フィリピン（MMNC・ケソン市）　延人数　上段：指導者　下段：スカウト　（平成11年9月9日現在）

		千葉1団	千葉6団	千葉7団	千葉8団	千葉9団	千葉13団	千葉14団	千葉15団	千葉17団	千葉18団	千葉19団	千葉20団	千葉21団	千葉22団	千葉23団	千葉24団	千葉25団	千葉26団	四街道1団	佐倉1団	佐倉2団	佐倉3団	成田1団	東金1団	その他	小計	計
フィリピン交流使節団			1		2	2	1	1	5											1	1	1		1			16	16
第1回	派遣		3	1	1		1		1			1			1												9	37
			1	1		10	2	2	3			1			6					2							28	
	受入れ		1				1		1			1			1					1							6	41
			1	1		11	2	3	3	1		1			7					2	3						35	
第2回	派遣				1		1		2						1						1						6	27
				3	1	3	4		3											3	4						21	
	受入れ				1		1														1						3	24
				3	1	3	4		3											3	4						21	
第3回	派遣	2					2				1				1						1						7	30
			3	3			7		3								4			2			1				23	
	受入れ	2					2								1						1						6	38
		1	5	3	1	1	9		2				1		2		4			2			1				32	
第4回	派遣	3	1	1			1				2			1	1											1	11	41
			3	2	5	2	1				6			1	3			5							2		30	
	受入れ	3	1											1													5	37
		1	2	2	5	2	3				6			1	3			5							2		32	
第5回	派遣	1	1		1	1					2			1	2												9	40
		1			6	2	2	2			4		1	3	3			6							1		31	
	受入れ					1					2				2												5	36
		1			6	2	2	2			4		1	3	3			6							1		31	
第6回	派遣		1	1			1	1							1			3									8	26
			4		4		2	1			1				1			4							1		18	
	受入れ		1												1			3									5	23
			4		4		2	1			1				1			4							1		18	
第7回	派遣				2			1			1			2													6	17
			2		6	3																					11	
	受入れ				1									2													3	20
		2	2		6	3	1	2						1													17	
第8回	派遣		1		1	2												1									5	17
		2	1		3	1		3						2													12	
	受入れ		1		1	2												1									5	18
		2	1		3	1		3						2				1									13	
第9回	派遣					1		2			2																5	20
		1	1		4	1		2	3		1		1					1									15	
	受入れ					1		2			2																5	21
		1	1		4	1		3	3		1		1					1									16	
三角交流			2			1		1			1																5	25
		2			2	2	2		2	2	2		1	1			2	2									20	
小計		11	14	3	11	11	11	8	9		13	2		7	12			8		2	5	1		1	1	130	
		14	31	18	61	48	43	24	25	3	26	2	6	14	29		2	43		14	11		2		8	424	
計 (A)		25	45	21	72	59	54	32	34	3	39	4	6	21	41		2	51		16	16	1	2	1	8	1	554

（B）サム　ヒューストン地区

	千葉1団	千葉6団	千葉7団	千葉8団	千葉9団	千葉13団	千葉14団	千葉15団	千葉17団	千葉18団	千葉19団	千葉20団	千葉21団	千葉22団	千葉23団	千葉24団	千葉25団	千葉26団	四街道1団	佐倉1団	佐倉2団	佐倉3団	成田1団	東金1団	その他	小計	計
第1回派遣	1							1																	2	6
								2									1							1	4	
第2回派遣	2					1				2					1										6	35
	4	4				5	2			3			4				7								29	
第3回派遣					1					1															2	12
	1	3				1				2							3								10	
第1回受入れ	1				1					1															3	12
	1	1		1	1				1	2			1				1								9	
第4回派遣																	2								2	11
		1		1	3		1	2		1															9	
第5回派遣					1			1																	2	14
	2			3	1		2										4								12	
三角交流	1							2		1							2								6	20
		1		2	1	2	2	2	2							2									14	
第6回派遣	2																								2	10
	2	1			1			1									3								8	
小計	7				3	1		4		5					1		4								25	
	10	11		7	7	8	7	7	3	8			5			2	19							1	95	
計　(B)	17	11		7	10	9	7	11	3	13			5		1	2	23							1		120

（C）世界ジャンボリー他

		千葉1団	千葉6団	千葉7団	千葉8団	千葉9団	千葉13団	千葉14団	千葉15団	千葉17団	千葉18団	千葉19団	千葉20団	千葉21団	千葉22団	千葉23団	千葉24団	千葉25団	千葉26団	四街道1団	佐倉1団	佐倉2団	佐倉3団	成田1団	東金1団	その他	小計	計
ジャンボリー	世界ジャンボリー		1		2				1		1														5	40
			9		10		2		2		3			2	1		1	5							35	
	各国ジャンボリー																									8
					1	1		5			1														8	
千葉県連フィルモント派遣												4													4	17
		4	2					2	2						2			1							13	
国際キャンプスタッフ			4		1						1													1	7	7
小計			5		3				1		2	4												1	16	
		4	11		11	1	2	7	4		4			2	3		1	6							56	
計　(C)		4	16		14	1	2	7	5		6	4		2	3		1	6						1		72
(A)＋(B)＋(C)		18	19	3	14	14	12	8	14		20	6		7	12	1		12		2	5	1		1	2	171	
		28	53	18	79	56	53	38	36	6	38	2	6	21	32		5	68		14	11		2		8	1	575	
総数(A)＋(B)＋(C)		46	72	21	93	70	65	46	50	6	58	8	6	28	44	1	5	80		16	16	1	2	1	8	3		746

4）国際交流プログラムへの参加者（1963～1999）

昭和38年（1963）
第11回世界ジャンボリー参加　ギリシャ
信田　大　（千葉８）
昭和39年（1964）
沖縄派遣（日本復帰前）
宮野松四郎　（千葉１）　保科隆一　（千葉６）
大橋広明　（千葉８）
昭和40年（1965）
イギリス・タービーシャイア国際キャンプ
原田秀和　（千葉６）
昭和41年（1966）
千葉県青少年海外派遣　東南アジア
藤代二郎　（千葉６）
昭和44年（1969）
国際キャンプスタッフ　アメリカ
大塚武司　（千葉４）
昭和45年（1970）
千葉市青少年・指導者海外派遣
亀田達也　（千葉８）
昭和46年（1971）
国際キャンプスタッフ　アメリカ
富川俊郎　（千葉６）
第13回世界ジャンボリー　日本朝霧高原
副長
岩倉毅明　（千葉６）
副長補
時田千秋　（千葉15）　信田　大　（千葉８）
スカウト
篠崎和広　（千葉６）　富川克彦　（千葉６）
長谷川修一　（千葉６）　北村暢明　（千葉６）
安田公房　（千葉６）　野沢秀美　（千葉６）
小林明美　（千葉８）　清水洋祐　（千葉８）
角田和則　（千葉８）　平城正彦　（千葉８）
佐々野忠明　（千葉８）　岡野　進　（千葉８）
井上喜永　（千葉８）　林　幸三　（千葉８）
鈴木　周　（千葉８）
昭和47年（1972）
青年の船　オーストラリア・ニュージーランド他
塩崎達也　（千葉15）
昭和48年（1973）
千葉市青少年・指導者海外派遣
門前俊昭　（千葉８）
総理府青少年海外派遣　西ドイツ
星　淳一　（千葉６）
千葉県青年の翼
小川信輝　（千葉15）
フィリピン連盟50周年記念ジャンボリー
中平誠司　（千葉14）　長沼一裕　（千葉14）
昭和49年（1974）
国際キャンプスタッフ　アメリカ
吉原健司　（千葉６）
千葉市青少年・指導者海外派遣
平城正彦　（千葉８）
昭和50年（1975）
国際キャンプスタッフ　アメリカ
倉沢治雄　（千葉６）
第14回世界ジャンボリー参加　ノルウェー
岩崎一郎　（千葉６）
昭和51年（1976）
千葉市姉妹都市交流派遣事業
ヒューストン・ノースバンクーバー
野村茂樹　（千葉15）
昭和52年（1977）
国際キャンプスタッフ　アメリカ
小林明美　（千葉８）
千葉県青少年海外派遣　東南アジア
白井国明　（千葉８）
第６回フィリピンジャンボリー
玉置博一　（千葉８）
昭和53年（1978）
千葉市青少年・指導者海外派遣
石井　隆　（千葉13）
昭和54年（1979）
千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ
時田千秋　（千葉15）
フィリピン交流使節団
野村　泰　（千葉15）　原田日出雄　（千葉６）
高井嘉郎　（千葉８）　山崎光雄　（千葉９）
柾谷　明　（千葉９）　渡辺　仁　（千葉13）
伊藤　尚　（千葉14）　柴田信男　（千葉15）
菅谷正之　（千葉15）　小川信輝　（千葉15）
佐藤秀雄　（千葉15）　大塚　岳　（四街道１）
兼坂　匡　（佐倉１）　清崎とし子　（佐倉２）
黒川裕保　（成田１）　原田三郎　（千葉８）

昭和55年（1980）

フィリピン第１回派遣

団長

野村　泰　（千葉15）

団員

原田日出雄　（千葉６）　吉原喜代　（千葉６）
大塚香代子　（千葉７）　高井嘉郎　（千葉８）
湊　良三　（千葉22）

隊長

亀谷新一　（千葉19）

副長

鎗田浩二　（千葉６）　伊藤基史　（千葉13）

スカウト

菅谷理博　（千葉６）　酒井　誠　（千葉７）
林　幸也　（千葉９）　今泉利国　（千葉９）
高木秀仁　（千葉９）　寺尾俊明　（千葉９）
新津　洋　（千葉９）　西村秀澄　（千葉９）
斉藤　彰　（千葉９）　湊　隆一　（千葉９）
関原延好　（千葉13）　石井　敦　（千葉13）
島　孝弘　（千葉14）　中平真司　（千葉14）
時枝公夫　（千葉15）　雇地昌人　（千葉15）
若林雅之　（千葉15）　倉内真也　（千葉19）
中村誠一　（千葉22）　森川国定　（千葉22）
小野　勉　（千葉22）　長谷川吉成　（千葉22）
植村和光（四街道１）　神田則昭（四街道１）
高木一考　（千葉22）　辻村英樹　（千葉22）
柾谷　仁　（千葉９）　山田明彦　（千葉９）

国際キャンプスタッフ　アメリカ

関能克則　（千葉18）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ

花沢　裕　（千葉６）

昭和56年（1981）

フィリピン第１回受入れ

隊長

亀谷新一　（千葉19）

副長

大塚　明（四街道１）　今関信行　（千葉15）
鎗田浩二　（千葉６）　伊藤基史　（千葉13）
湊　葉一　（千葉22）

スカウト

菅谷理博　（千葉６）　酒井　誠　（千葉７）
林　幸也　（千葉９）　今泉利国　（千葉９）
高木秀仁　（千葉９）　寺尾俊明　（千葉９）
新津　洋　（千葉９）　西村秀澄　（千葉９）
斉藤　彰　（千葉９）　湊　隆一　（千葉９）
関原延好　（千葉13）　石井　敦　（千葉13）
島　孝弘　（千葉14）　中平真司　（千葉14）
時枝公夫　（千葉15）　雇地昌人　（千葉15）
若林雅之　（千葉15）　倉内真也　（千葉19）
中村誠一　（千葉22）　森川国定　（千葉22）
小野　勉　（千葉22）　長谷川吉成　（千葉22）
植村和光（四街道１）　神田則昭（四街道１）
谷口光治　（千葉22）　足立正治　（佐倉１）
池内敬一　（佐倉１）　山本賀彦　（佐倉１）
辻村英樹　（千葉22）　高木一考　（千葉22）
益田　敦　（千葉14）　山崎　亘　（千葉９）
柾谷　仁　（千葉９）　山口昭彦　（千葉９）
服部忠恭　（千葉17）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ

大堀武久　（千葉15）

昭和57年（1982）

フィリピン第２回派遣

団長

野村　泰　（千葉15）

団員

七山悠三　（千葉22）　佐藤秀雄　（千葉15）

隊長

長野　茂　（千葉13）

副長

白井国明　（千葉８）　増田益治郎　（佐倉１）

スカウト

安保孝広　（千葉７）　初谷国之　（千葉７）
田丸彰義　（千葉７）　滝本　斉　（千葉８）
徳永　健　（千葉９）　深沢周作　（千葉９）
柿崎　明　（千葉９）　龍野繁幸　（千葉13）
小森直樹　（千葉13）　長野　健　（千葉13）
中島浩司　（千葉13）　大堀武久　（千葉15）
吉野弘紀　（千葉15）　時枝公治　（千葉15）
広田一利（四街道１）　市川公一（四街道１）
五十嵐政徳（四街道１）　東城　孝　（佐倉１）
足立和弘　（佐倉１）　池内祐二　（佐倉１）
川口　健　（佐倉１）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ

北村和明　（千葉６）

昭和58年（1983）

フィリピン第２回受入れ

隊長

長野　茂　（千葉13）

副長

白井国明　（千葉８）　増田益治郎　（佐倉１）

スカウト

安保孝広　（千葉７）　初谷国之　（千葉７）
田丸彰義　（千葉７）　滝本　斉　（千葉８）
徳永　健　（千葉９）　深沢周作　（千葉９）
柿崎　明　（千葉９）　龍野繁幸　（千葉13）
小森直樹　（千葉13）　長野　健　（千葉13）
中島浩司　（千葉13）　大堀武久　（千葉15）
吉野弘紀　（千葉15）　時枝公治　（千葉15）
広田一利（四街道１）　市川公一（四街道１）
五十嵐政徳（四街道１）　東城　孝　（佐倉１）
足立和弘　（佐倉１）　池内祐二　（佐倉１）
川口　健　（佐倉１）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ

泉　博　（千葉17）

昭和59年（1984）

フィリピン第３回派遣

団長

尾関良平　（千葉13）

団員

渡部寅雄　（千葉18）

隊長

小川信輝　（千葉１）

副長

橋田仁男　（千葉１）　佐藤恵一　（千葉13）
椎名博一　（千葉22）　足立正浩　（佐倉１）

スカウト

川島一郎　（千葉６）　渡辺　泰　（千葉６）
高橋　徹　（千葉６）　佐藤裕一郎　（千葉７）
杉本直樹　（千葉７）　酒井　徹　（千葉７）
石川正弘　（千葉13）　佐藤裕之　（千葉13）
小松正幸　（千葉13）　高尾浩一郎　（千葉13）
斉藤信博　（千葉13）　佐藤恒久　（千葉13）
宮崎啓介　（千葉13）　元木昌弘　（千葉15）
秋元真一郎　（千葉15）　関　修　（千葉15）
坂田太郎　（千葉25）　中島裕二　（千葉25）
二宮　通　（千葉25）　川畑善史　（千葉25）
戸島寿雄（四街道１）　岡部晃夫（四街道１）
増田洋一　（佐倉３）

ヒューストン第１回派遣

隊長

佐藤秀雄　（千葉15）

副長

橋田仁男　（千葉１）

スカウト

浅井淳孝　（千葉15）　柴田信一　（千葉15）
狩野浩一郎　（千葉25）　藤代泰史（木更津２）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ

酒井　誠　（千葉７）

昭和60年（1985）

フィリピン第３回受入れ

隊長

小川信輝　（千葉１）

副長

橋田仁男　（千葉１）　佐藤恵一　（千葉13）
早川東城　（千葉13）　椎名博一　（千葉22）
足立正浩　（佐倉１）

スカウト

柴田武史　（千葉１）　川島一郎　（千葉６）
渡辺　泰　（千葉６）　高橋　徹　（千葉６）
増田和人　（千葉６）　小粥将直　（千葉６）
佐藤裕一郎　（千葉７）　杉本直樹　（千葉７）
酒井　徹　（千葉７）　篠村和成　（千葉８）
小林俊浩　（千葉９）　石川正弘　（千葉13）
佐藤裕之　（千葉13）　高尾浩一郎　（千葉13）
斉藤信博　（千葉13）　佐藤恒久　（千葉13）
宮崎啓介　（千葉13）　手塚隆雄　（千葉13）
坂下雅紀　（千葉13）　前田宏信　（千葉13）
秋元真一郎　（千葉15）　関　修　（千葉15）
菊間聖太郎　（千葉20）　南沢好則　（千葉22）
弓削田紀和　（千葉22）　坂田太郎　（千葉25）
中島裕二　（千葉25）　二宮　通　（千葉25）
川畑善史　（千葉25）　戸島寿雄（四街道１）
岡部晃夫（四街道１）　増田洋一　（佐倉３）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ

安保孝広　（千葉７）

昭和61年（1986）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ

小川栄一　（千葉21）

昭和62年（1987）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ

鈴木智基　（千葉１）　篠村政隆　（千葉８）

フィリピン第４回派遣

団長

原田日出雄　（千葉６）

副団長

尾関良平　（千葉13）

団員

椎名博一　（千葉22）　大塚香代子　（千葉７）
江波戸弘憲（千葉市教育委員会）
三浦　卓　（千葉18）　大島健一　（千葉18）

隊長
橋田仁男　（千葉６）
副長
小川栄一　（千葉21）　木村隆行　（千葉１）
鈴木智基　（千葉１）　井上潔彦　（千葉６）
スカウト
篠村和成　（千葉８）　増田和人　（千葉６）
野北竜栄　（千葉18）　松柴哲哉　（千葉18）
鈴木裕介　（千葉８）　飯田克彦　（千葉25）
徳重直純　（千葉６）　岩本健一　（千葉８）
井上幹記　（千葉18）　富岡義展　（千葉22）
杉村浩康　（東金１）　城地秀雄　（千葉８）
門脇雅二　（千葉25）　弓削田紀和　（千葉22）
田上和幸　（千葉９）　前川　淳　（千葉21）
小林厚史　（千葉18）　高久朋和　（千葉22）
会田宗明　（千葉７）　今泉泰博　（千葉25）
代田勝徳　（千葉18）　手塚隆雄　（千葉13）
小林俊浩　（千葉９）　矢部力也　（千葉25）
金沢孝和　（千葉18）　斉藤光範　（東金１）
児玉充弘　（千葉８）　木村俊也　（千葉25）
佐藤博厚　（千葉７）

昭和63年（1988）
フィリピン第４回受入れ
隊長
橋田仁男　（千葉１）
副長
小川栄一　（千葉21）　木村隆行　（千葉１）
鈴木智基　（千葉１）　井上潔彦　（千葉６）
スカウト
篠村和成　（千葉８）　増田和人　（千葉６）
野北竜栄　（千葉18）　松柴哲哉　（千葉18）
鈴木裕介　（千葉８）　飯田克彦　（千葉25）
山田義典　（千葉１）　岩井　武　（千葉13）
徳重直純　（千葉６）　岩本健一　（千葉８）
井上幹記　（千葉18）　富岡義展　（千葉22）
杉村浩康　（東金１）　城地秀雄　（千葉８）
門脇雅二　（千葉25）　山　靖則　（千葉13）
弓削田紀和　（千葉22）　田上和幸　（千葉９）
前川　淳　（千葉21）　小林厚史　（千葉18）
高久朋和　（千葉22）　会田宗明　（千葉７）
今泉泰博　（千葉25）　代田勝徳　（千葉18）
手塚隆雄　（千葉13）　小林俊浩　（千葉９）
矢部力也　（千葉25）　金沢孝和　（千葉18）
斉藤光範　（東金１）　児玉充弘　（千葉８）
木村俊也　（千葉25）　佐藤博厚　（千葉７）

平成１年（昭和64年）（1989）
千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ
飯塚啓生　（千葉９）　貫井正納　（千葉９）
千葉県連第２回フィルモント派遣　アメリカ
亀谷新一　（千葉19）

平成２年（1990）
フィリピン第５回派遣
団長
原田日出雄　（千葉６）
副団長
橋田仁男　（千葉１）
団員
石坂喜兵衛　（千葉８）　牧添豊海　（千葉21）
隊長
小林孝一　（千葉９）
副長
高久節夫　（千葉22）　藤沼昭和　（千葉22）
田淵六郎　（千葉18）　栗田卓也　（千葉18）
スカウト
塩崎貴史　（千葉１）　多田大輔　（千葉８）
三神　誉　（千葉８）　飯塚雅樹　（千葉８）
柏原芳昭　（千葉８）　城地美樹　（千葉８）
森　仁　（千葉８）　但田大輔　（千葉９）
渡辺義之　（千葉９）　山　靖則　（千葉13）
松元大雄　（千葉13）　河野雄一郎　（千葉14）
横田　晃　（千葉18）　坂野史郎　（千葉18）
神澤　賢　（千葉18）　森本浩基　（千葉18）
菊間聖太郎　（千葉20）　牧添哲英　（千葉21）
柴崎　剛　（千葉21）　鈴木知道　（千葉21）
押田健太郎　（千葉22）　糠信哲也　（千葉22）
弓削田信太郎　（千葉22）　矢部耕造　（千葉25）
近藤真史　（千葉25）　大月圭一　（千葉25）
屋比久真　（千葉25）　菊地耕太郎　（千葉25）
新屋剛志　（東金１）　近藤哲也　（千葉14）
横山　崇　（千葉25）
フィリピン第５回受入れ
隊長
小林孝一（千葉９）
副長
高久節夫　（千葉22）　藤沼昭和　（千葉22）
田淵六郎　（千葉18）　栗田卓也　（千葉18）
スカウト
塩崎貴史　（千葉１）　多田大輔　（千葉８）
三神　誉　（千葉８）　飯塚雅樹　（千葉８）
柏原芳昭　（千葉８）　城地美樹　（千葉８）

森　仁　（千葉８）　但田大輔　（千葉９）
渡辺義之　（千葉９）　山　靖則　（千葉13）
松元大雄　（千葉13）　河野雄一郎　（千葉14）
近藤哲也　（千葉14）　横田　晃　（千葉18）
坂野史郎　（千葉18）　神澤　賢　（千葉18）
森本浩基　（千葉18）　菊間聖太郎　（千葉20）
牧添哲英　（千葉21）　柴崎　剛　（千葉21）
鈴木知道　（千葉21）　押田健太郎　（千葉22）
糠信哲也　（千葉22）　弓削田信太郎　（千葉22）
矢部耕造　（千葉25）　近藤真史　（千葉25）
大月圭一　（千葉25）　屋比久真　（千葉25）
菊地耕太郎　（千葉25）　新屋剛志　（東金１）
横山　崇　（千葉25）

千葉県連第３回フィルモント派遣　アメリカ
亀谷新一　（千葉19）　増田　豪　（千葉22）
高久朋和　（千葉22）

千葉市青少年指導者洋上研修　中華人民共和国
市原　孝　（千葉９）　片岡俊貴　（千葉９）

千葉市青少年・指導者海外派遣
小泉一人　（千葉18）　徳重直純　（千葉６）

平成３年（1991）

千葉県連第４回フィルモント派遣　アメリカ
亀谷新一　（千葉19）

大韓民国世界ジャンボリー参加の
イギリススカウトホームステイ受入れ
柴田信男　（千葉１）　永喜正人　（千葉18）
長島弘道　（千葉18）

第17回世界ジャンボリー　大韓民国
吉木文人　（千葉13）　行木竜彦　（千葉13）
柴山裕基　（千葉18）　永喜正人　（千葉18）
藤沼健介　（千葉22）　関井直樹　（千葉24）
大月圭一　（千葉25）　志村結城　（千葉25）
飯尾裕介　（千葉25）　吉原昌宏　（千葉25）

千葉市青少年・指導者海外派遣　アメリカ、カナダ
牧添豊海　（千葉21）　伊藤達也　（千葉９）

千葉市青少年・指導者洋上研修　中華人民共和国
柴田信一　（千葉１）　石橋　守　（千葉25）

ヒューストン第２回派遣
（ヒューストン国際フェスティバル参加）
団長
塩崎達也　（千葉１）
副団長
柴田信男　（千葉１）
団員
長島弘道　（千葉18）
隊長
佐藤恵一　（千葉13）
副長
佐藤俊徳　（千葉23）　栗田卓也　（千葉18）
スカウト
手塚隆雄　（千葉13）　宮崎啓介　（千葉13）
今井健太　（千葉13）　浅井　晃　（千葉13）
西村洋一　（千葉14）　村山克哉　（千葉18）
井上幹記　（千葉18）　鈴木知道　（千葉21）
八巻裕光　（千葉21）　千葉健生　（千葉25）
吉原昌宏　（千葉25）　高倉滋樹　（千葉25）
塩崎貴史　（千葉１）　向原　誠　（千葉１）
増田元幸　（千葉１）　今井　創　（千葉１）
増田康人　（千葉６）　海寶尚徳　（千葉６）
伊東直紀　（千葉６）　林　良知　（千葉６）
荻田道人　（千葉13）　飯田太一　（千葉14）
渡部鉄平　（千葉18）　河村　浄　（千葉21）
鵜飼孝盛　（千葉21）　馬場隆行　（千葉25）
大月圭一　（千葉25）　愛宕秀次　（千葉25）
大下博章　（千葉25）

フィリピン第６回派遣
団長
酒井正次　（千葉７）
副団長
島　孝之　（千葉14）　加賀谷昭宏　（千葉13）
隊長
高久節夫　（千葉22）
副長
徳重直純　（千葉６）　森　有司　（千葉25）
荻原徹哉　（千葉25）　清水　裕　（千葉25）
スカウト
茂田明裕　（千葉６）　吉田　真　（千葉６）
鈴木貴登　（千葉６）　伊藤直紀　（千葉６）
田中宏輔　（千葉８）　多田孝介　（千葉８）
飯塚竜也　（千葉８）　佐々木直樹　（千葉８）
加賀谷一茶　（千葉13）　中野博之　（千葉13）
中村泰夫　（千葉14）　上保　敏　（千葉18）
高　哲男　（千葉22）　杉原一希　（千葉25）
金子秀一　（千葉25）　馬場友則　（千葉25）
尾崎誠治　（千葉25）　川嶋康照　（東金１）

平成４年（1992）

フィリピン第６回受入れ
隊長
高久節夫　（千葉22）

副長
徳重直純　（千葉６）　森　有司　（千葉25）
荻原徹哉　（千葉25）　清水　裕　（千葉25）
スカウト
茂田明裕　（千葉６）　吉田　真　（千葉６）
鈴木貴登　（千葉６）　伊藤直紀　（千葉６）
田中宏輔　（千葉８）　多田孝介　（千葉８）
飯塚竜也　（千葉８）　佐々木直樹　（千葉８）
加賀谷一茶　（千葉13）　中野博之　（千葉13）
中村泰夫　（千葉14）　上保　敏　（千葉18）
高　哲男　（千葉22）　杉原一希　（千葉25）
金子秀一　（千葉25）　馬場友則　（千葉25）
尾崎誠治　（千葉25）　川嶋康照　（東金１）

千葉県連第５回フィルモント派遣　アメリカ
塩崎貴史　（千葉１）

ヒューストン第３回派遣（第６回インター
ナショナル・エンキャンプメント参加）
隊長
小林孝一　（千葉９）
副長
岡本憲義　（千葉18）
スカウト
斉藤大祐　（千葉25）　塩崎裕史　（千葉１）
山本陽徳　（千葉６）　谷藤良昭　（千葉18）
木村祐一郎　（千葉25）　岡田哲也　（千葉25）
宇野主馬　（千葉６）　本間俊行　（千葉13）
中務裕充　（千葉６）　若松優志　（千葉18）

平成５年（1993）
千葉市青少年・指導者海外派遣
小沼良光　（千葉21）

フィリピン第７回派遣
（第１回アセアンジャンボリー参加）
団長
島　孝之　（千葉14）
副団長
長島弘道　（千葉18）
団員
石坂ちよ　（千葉８）
隊長
古川利雄　（千葉21）
副長
鈴木俊雄　（千葉８）　小川高寛　（千葉21）
スカウト
角掛健志　（千葉９）　永井　崇　（千葉９）
石井貴之　（千葉９）　血脇　亨　（千葉８）
沖　真視　（千葉６）　花畑裕介　（千葉８）
鈴木順平　（千葉８）　深山慎二　（千葉６）
小沢康明　（千葉８）　内山岳樹　（千葉８）
高野利栄　（千葉８）

ヒューストン第１回受入れ
（第15回記念県キャンポリー－１５ＭＣＣ－参加）
指導者
柴田信男　（千葉１）　小林孝一　（千葉９）
岡本憲義　（千葉18）
スカウト
塩崎貴史　（千葉１）　宇野主馬　（千葉６）
鈴木順平　（千葉８）　川出一統　（千葉９）
井上泰男　（千葉17）　若松優志　（千葉18）
谷藤良昭　（千葉18）　斉藤大祐　（千葉25）
小川弘晃　（千葉21）

平成６年（1994）
フィリピン第７回受入れ
隊長
古川利雄　（千葉21）
副長
鈴木俊雄　（千葉８）　小川高寛　（千葉21）
スカウト
角掛健志　（千葉９）　永井　崇　（千葉９）
石井貴之　（千葉９）　血脇　亨　（千葉８）
沖　真視　（千葉６）　花畑裕介　（千葉８）
鈴木順平　（千葉８）　深山慎二　（千葉６）
小沢康明　（千葉８）　内山岳樹　（千葉８）
高野利栄　（千葉８）　加賀谷一茶　（千葉13）
安川雄一郎　（千葉21）　卯田友志　（千葉１）
大野一洋　（千葉14）　石井大輔　（千葉１）
佐藤祐介　（千葉14）

千葉県連第７回フィルモント派遣　アメリカ
小林　航　（千葉６）　鎌倉尚也　（千葉25）

ヒューストン第４回派遣（第７回インター
ナショナル・エンキャンプメント参加）
隊長
伊藤克己　（千葉25）
副長
中澤　博　（千葉25）
スカウト
鈴木和成　（千葉６）　鈴木順平　（千葉８）
高梨純一　（千葉９）　前田知彦　（千葉９）
中島　亮　（千葉９）　中村泰夫　（千葉14）
登坂宗太　（千葉15）　伊藤正臣　（千葉15）
堀内雅史　（千葉18）

千葉市青少年・指導者海外派遣
カナダ・ノースバンクーバー
金塚　亨　（千葉21）
韓国ジャンボリー参加
上保　敏　（千葉18）

平成7年（1995）
千葉県連第8回フィルモント派遣　アメリカ
長谷部雄輝　（千葉15）　塩崎裕史　（千葉1）
第18回世界ジャンボリー派遣　オランダ
岸本吉生　（千葉21）　小林　航　（千葉6）
櫻木陽介　（千葉15）　木ノ内真也　（千葉21）
深山慎二　（千葉6）　吉田　稔　（千葉18）
向井克典　（千葉18）　鎌倉真也　（千葉25）
千葉市青少年・指導者海外派遣　オーストラリア
志太　博　（千葉21）
タンザニア指導者受入れ
外国青少年指導者招聘事業（青少年育成国民会議）
小林孝一　（千葉9）　中澤　博　（千葉25）
野村茂樹　（千葉1）
フィリピン第8回派遣
団長
高橋正二　（千葉25）
副団長
小林孝一　（千葉9）
隊長
鈴木俊雄　（千葉8）
副長
鎗田浩二　（千葉6）　竹下貴之　（千葉9）
スカウト
卯田友志　（千葉1）　大谷聡彦　（千葉1）
熊谷大介　（千葉6）　加藤健一郎　（千葉8）
佐々木陽介　（千葉8）　原田智弘　（千葉8）
木暮祐貴　（千葉9）　大野一洋　（千葉14）
佐藤祐介　（千葉14）　安部正人　（千葉14）
佐藤嘉彦　（千葉21）　渡辺雄希　（千葉21）

平成8年（1996）
フィリピン第8回受入れ
隊長
鈴木俊雄　（千葉8）
副長
鎗田浩二　（千葉6）　竹下貴之　（千葉9）
スカウト
卯田友志　（千葉1）　大谷聡彦　（千葉1）
熊谷大介　（千葉6）　加藤健一郎　（千葉8）
佐々木陽介　（千葉8）　原田智弘　（千葉8）
木暮祐貴　（千葉9）　大野一洋　（千葉14）
佐藤祐介　（千葉14）　安部正人　（千葉14）
佐藤嘉彦　（千葉21）　渡辺雄希　（千葉21）
大屋総一郎　（千葉25）
ヒューストン第5回派遣
隊長
小林孝一　（千葉9）
副長
鈴木伸治　（千葉15）
スカウト
卯田真志　（千葉1）　高橋一真　（千葉1）
久保岡康幸　（千葉8）　山鹿康平　（千葉8）
寺島秀樹　（千葉8）　川出一博　（千葉9）
青木純一　（千葉14）　藤平　純　（千葉14）
山崎篤志　（千葉25）　吉野紘和　（千葉25）
鴨狩大和　（千葉25）　福島大貴　（千葉25）
千葉市青少年・指導者海外派遣　オーストラリア
但田大輔　（千葉9）
千葉県連第9回フィルモント派遣　アメリカ
村田洋一　（千葉6）

平成9年（1997）
三角交流（千葉、ケソン、ヒューストン）受入れ
塩崎達也　（千葉1）　卯田真志　（千葉1）
鈴木悠平　（千葉1）　高橋正行　（千葉1）
小林　航　（千葉6）　鎗田浩二　（千葉6）
平田祐介　（千葉6）　阿部晃大　（千葉8）
五味慎一　（千葉8）　山鹿康平　（千葉8）
寺島秀樹　（千葉8）　広田倫也　（千葉9）
田島敏行　（千葉9）　小林孝一　（千葉9）
重野日出人　（千葉9）　石原祐介　（千葉13）
五十嵐安治　（千葉13）　萩原直樹　（千葉13）
近藤曠史　（千葉14）　青木純一　（千葉14）
藤平　純　（千葉14）　森　将平　（千葉14）
荒木　堯　（千葉14）　長谷部英輝　（千葉14）
大方美高　（千葉14）　斉藤慶太　（千葉17）
米村　大　（千葉17）　堀内諭史　（千葉18）
平松　祐　（千葉18）　岡本憲義　（千葉18）
長島弘道　（千葉18）　石井雅之　（千葉20）
宇田准久　（千葉21）　鈴木直朗　（千葉24）
上杉　諒　（千葉24）　鈴木仁崇　（千葉24）
堤　遼平　（千葉24）　中澤大成　（千葉25）
吉野紘和　（千葉25）　福島大貴　（千葉25）
白鳥素也　（千葉25）

フィリピン第９回フィリピン派遣

団長

福嶋元生　（千葉18）

隊長

近藤曠史　（千葉14）

副長

渡辺義之　（千葉９）　中村泰夫　（千葉14）

若松優志　（千葉18）

スカウト

鈴木悠平　（千葉１）　平田祐介　（千葉６）

五味真一　（千葉８）　加藤慎二郎　（千葉８）

阿部晃大　（千葉８）　月岡栄一郎　（千葉８）

広田倫也　（千葉９）　森　岳彦　（千葉14）

武石　翔　（千葉14）　長谷部英輝　（千葉15）

森　将平　（千葉15）　多部祐一　（千葉15）

平松　祐　（千葉18）　吉野陽己　（千葉20）

高倉裕幸　（千葉25）

千葉県連第10回フィルモント派遣　アメリカ

リーダー

亀谷新一　（千葉19）

スカウト

藤　智和　（千葉１）　大樽太一郎　（千葉１）

有田竜太郎　（千葉６）　木暮祐貴　（千葉９）

佐藤祐介　（千葉14）　吉村勝幸　（千葉15）

清水利之　（千葉25）　吉永岳央　（千葉15）

千葉市青少年・指導者海外派遣　オーストラリア

高野繁夫　（千葉８）

日米フレンドシップパトローリー　横田基地

野村茂樹　（千葉１）

平成10年（1998）

フィリピン第９回フィリピン受入れ

隊長

近藤曠史　（千葉14）

副長

渡辺義之　（千葉９）　中村泰夫　（千葉14）

若松優志　（千葉18）

スカウト

鈴木悠平　（千葉１）　平田祐介　（千葉６）

五味真一　（千葉８）　加藤慎二郎　（千葉８）

阿部晃大　（千葉８）　月岡栄一郎　（千葉８）

広田倫也　（千葉９）　森　岳彦　（千葉14）

武石　翔　（千葉14）　長谷部英輝　（千葉15）

森　将平　（千葉15）　多部祐一　（千葉15）

平松　祐　（千葉18）　吉野陽己　（千葉20）

高倉裕幸　（千葉25）　松田浩一　（千葉14）

千葉県連第11回フィルモント派遣　アメリカ

卯田友志　（千葉１）　大谷聡彦　（千葉１）

服部修平　（千葉14）　斉藤拓人　（千葉14）

三好礼益　（千葉15）

第20回アジア太平洋地域

〔第８回中国（台湾）〕ジャンボリー

安部直人　（千葉14）　安部正人　（千葉14）

重田八輝　（千葉14）

千葉市青少年・指導者海外派遣　ニュージーランド

中村泰夫　（千葉14）

第19回世界ジャンボリー派遣　チリ　ピカルキン

隊長

鈴木俊雄　（千葉８）

スカウト

金井哲也　（千葉15）

平成11年（1999）

第25回日米フレンドシップパトローリー大会

日連本部要員

野村茂樹　（千葉１）　小林孝一　（千葉９）

指導者

板垣弘希　（千葉１）　塩崎雅史　（千葉１）

近藤曠史　（千葉14）　内山和人　（千葉24）

スカウト

今田　寛　（千葉１）　笹原大輔　（千葉１）

横田大軸　（千葉１）　久保田俊和　（千葉１）

田井俊也　（千葉１）　平田祐介　（千葉６）

斉田和也　（千葉６）　鈴木幸太　（千葉６）

松田智晃　（千葉６）　前出幸大　（千葉９）

田村和彦　（千葉９）　池田　聖　（千葉９）

和田侑也　（千葉９）　山崎剛明　（千葉14）

安部直人　（千葉14）　藤平　剛　（千葉14）

佐藤　遼　（千葉14）　斉藤純一　（千葉15）

森　将平　（千葉15）　渡辺総一郎　（千葉15）

宮崎雅史　（千葉15）　多部祐一　（千葉15）

秋葉拓馬　（千葉24）　山本悠太郎　（千葉24）

光法総太郎　（千葉24）　伊藤大輔　（千葉25）

大藪謙介　（千葉25）　下里彰弘　（千葉25）

長谷川智亮　（千葉25）

第６回ヒューストン派遣

隊長

板垣弘希　（千葉１）

副長

塩崎雅史　（千葉１）

スカウト

牟田口諒　（千葉１）　横田大軸　（千葉１）

平田祐介　（千葉６）　池田　聖　（千葉９）
多部祐一　（千葉15）　長谷川智亮　（千葉25）
伊藤大輔　（千葉25）　大藪謙介　（千葉25）

総務庁海外派遣「青年の船」
ブルネイ、インドネシア他
渡辺規子　（千葉25）

フィリピン第10回記念派遣打合せのため訪比
塩崎達也　（千葉１）　野村茂樹　（千葉15）
小林幸一　（千葉９）

フィリピン第10回記念派遣予定
（通常派遣団・特別派遣団）

5）海外のスカウトの千葉地区訪問

《フィリピン（MMNC・ケソン市）》

回　年月日	団長名	隊長名	参加者数
第 1 回 1981.4.29～5.5	Benjamin S. Cendaña	Vivencio M. Magpantay	48
第 2 回 1983.3.28～4.3	Benjamin S. Cendaña	Manuel S. Salumbides	34
第 3 回 1985.8.1 ～8.9	Benjamin S. Cendaña	Rodrigo V. Adriano	54
第 4 回 1988.4.28～5.5	Godofredo. L. Kaamino	Maximino N. Manzano	47
第 5 回 1990.4.28～5.4	Victor G. Santos	Robert J. Losada	50
第 6 回 1992.7.24～30	Dante V. Livan	Reynaldo F. San Diego	28
第 7 回 1994.4.29～5.5	Ramon Bu-Mathay	Gilbert B. Yangco	27
第 8 回 1997.4.27～5.4	Ramon Bu-Mathay	Antonio C. Merino	19
第 9 回 1998.7.24～30	Jorge L. Banal	Alex B. Edrada	22
三角交流 1997.8.5 ～16	Eugenio S. Santos	Nick D. Bolima	16

《サムヒューストン地区》

第 1 回 1993.8.9～18	N. L. (Bud) Allison	Livite Robert	12
三角交流 1997.8.5～16	William Patterson	Patrick Jankowski	12

《イギリス》

1991.7.31～8.4	Paul Newsham　隊長他	4

《タンザニア》

1995.10.5～9	Gosbert W. T. Njunwa　タンザニアスカウト連盟事務局長	1

（注）フィリピンからの来訪者のうちアドバイザーがホテルに宿泊する場合、また一人のスカウトを複数の家庭で引き受ける場合もあるので、資料4）国際交流プログラム参加者数と一致しないこともある。

6）ホストファミリーアンケート結果

Ⅰ．第7回受入れ家庭

（1）　ホームステイ中の食事について何か特に配慮しましたか。またはメニューは。

☆昼食、夕食は外食。朝食はカレースパゲティーなど

☆冷や奴、味噌汁、梅干し、そば、料理らしいものはやっていない。

☆特に気は使わなかったが、チャーハン、ピラフ等、現地で食べ慣れているものにした。日本食は特に食べさせなかった。

☆日本的なものをと思い、手巻き寿司をしました。ただ食べれなければと、のりの代りにレタス、エビやイカなどはゆで玉子焼きなどを用意しましたが、なんのなんのお造りも海苔もおいしそうに、たくさん食べていました。朝食は洋風にしました。色々な物をと思い外食で中華を食べました。辛いもの苦手甘いもの大好きでした。

☆特別な事はありません。和食も好んで食べました。特にカツが好きです。

☆フィリピンスカウトの希望を聞いて、添うメニューにしました。

☆家庭で食事をする機会が少なかったのですが、必ず日本の食べものをいくつか出すようにした（味噌汁、梅干し、おにぎり、もち etc）最後は日本食で食べたいものを聞いてすきやき、天プラ

☆パーティや出掛けたりで結局1度も家では夕食を食べなかったので心配は無用でした。朝食はパン、チャーハン、等で味噌汁純和風は出しませんでした。

☆朝食は、日本の御飯がとても美味しいということで、和食でした。飲み物は本人がホットミルクということでした。メニューは、うしお汁、ふきの煮物、小梅、焼き鮭。夜は本人がすき焼きが食べたいということでした。その他天ぷら日本料理をなるべく選びました。

☆彼が食べられるかどうか、いちいち聞いてからにしました。朝食ぐらいしか家庭では食べられませんでした。バターつきパン、スクランブルエッグ、ウインナソテー、牛乳、ミルクプリン。帰国の朝初めてタイ米御飯を美味しそうに食べました。

（2）　ホームステイ中の活動はどのようなことをされましたか。出来るだけ具体的に。

☆秋葉原の電気街、浅草、ショッピング、ザウスにてスキー、ゲームセンター、スキー、海岸散歩、外食、ゲームセンター、ショッピング

☆そごうにてショッピング、近所の友人とマクドナルドへ、家でテレビゲーム、ザウスにてスキー、東京タワー見学、秋葉原にてショッピング。

☆私達の街（千葉を知ってもらうため千葉城へ。休館でしたが、いのはなだんごと純日本の家として茶室と庭園を紹介。）T、P、C、地球館をハイテクとして、電車が好きで、モノレールに乗り遊びました。買い物へ。ザウスでのスキーは難しかった様ですが、とても楽しかったと言っていました。夜はゲームを楽しんだ。

☆5／1団でのパーティ　5／3東京タワー　5／4船橋ザウスでのスキー

☆1泊目ディズニーランド、2泊目ショッピング、夜パーティ、3泊目ザウス、夜バイキング（家族で）

☆5／1、夜、団で手作り料理の歓迎会　5／3東京タワー、浅草

☆5／4、ザウス、ショッピング、夜近所の子供達も呼んで食事

☆希望を聞いてスカウト同志2人で東京タワー、ザウス、テントがほしいとのことで買い物等に連れていきました。

☆日本でどこへ行きたいですかとたずねたら、東京タワーというので家族皆で行き大変混雑していた為、徒歩で登り、帰りに浅草へ出て帰ってきました。新幹線、特急列車も見ました。ザウスへ行き、スキーもしました。とても楽しかったと喜んでくれました。

☆5／3、東京タワー見学－祖父母宅訪問－レストランで軽く食事。5／4、従兄弟、父とザウスへ－ららぽーとで買い物（トイザラス）

☆5／1引き取った後、我が家へ直行くつろいだ後夜2家族で“世界のバイキング”を食べに。5／2市役所に集合するまでの時間子供と一緒に中学校の見学。5／3東京見物（東京タワー、水上バス、浅草）5／4ザウスでスキー、最後の晩なので我が家で家族だけのさよならパーティ。

☆5／1　2家族だけでバイキングにいった（家族全員）5／2学校へ行き、市役所へ、その後ディズニーランド　5／3東京タワー、水上バス、浅草へ行きパーティへ出席。その後食事にレストランへ　5／4ザウスでスキーその後食事して海浜公園で遊んだ。ショッピング、ゲームセンター。

☆東京見物（フィリピンに在住していた日本人の友達も一緒）新宿、ドーム、秋葉原、ガールスカウトとデート。

☆東京見物（皇居、東京タワー等）買い物（船橋ララポート）スーパーマーケット、ゲーム。
☆ボーリングに行ったり、ホストスカウトのキャンプ場に行ったり、東京タワー、銀座など、夜はトランプなどで過ごした。

（3） 家庭でフィリピンスカウトと意志は通じましたか。コミュニケーションはどのような方法で行ないましたか。言葉は？

☆言葉は辞書を片手に、アルバムを見たり、ピアノを弾いたり、言葉以外でのコミュニケーション有り。
☆半分は通じた。日本語と半々で。
☆会話はカタコトの英語だったが、充分意志は通じた。何でも話かけるように心がけた（食事、家族、その日の感想、翌日の予定 etc）。
☆カタコトですが半分位通じているかな？スカウト同志は、何とかやっていました。困った時は主人が通訳何とかしてくれました。生活には、身ぶり手ぶりでほとんど支障ありませんでした。
☆意志は通じたと思います。コミュニケーションは身ぶり手ぶり単語を使いどうにか？
☆本人、姉、父親とコミュニケーションがとれなかった。
☆かたことの英語
☆何10年ぶりかの英語を使いました。必要最小限の単語で日常の用は足りたかと思いますが、それ以上の会話はなかなか進みませんでした。
☆バンブーダンスの時は、目と目、手振りで通じていました。普段は、和英辞典を持って歩き、なんとかなっている様でした。英語でフィリピンスカウトがわかる日本語はたまに「ちょっと待って」使っていました。
☆優しい言葉、いいまわしでかなり意志は通じました。後半父親ととても仲良くなりました。
☆フィリピンスカウトが英語がぺらぺらなので意志はよく通じた。主人はとりあえず不自由なく話せ、私も息子も中学校くらいのレベルの英語でも何とか通じた。
☆コミュニケーションはよくとれたと思う。言葉は英語がほとんどでした。スカウトが日本語を知っていると、その言葉は日本語でした。日本語はあまり教えてあげられなかった。ホストマザーがわからない時は高1の姉に聞きながらコミュニケーションをとった。
☆意志は通じた。英語
☆意志は通じたと思う。英語vs英語で会話、時には身ぶりで説明。
☆通じた。言葉がわからない分ゼスチャーで通じた。

（4） 最後の空港でどのように感じましたか。

☆空港で送って来た日本の母親、子供、兄弟の涙を見て、との家でもジンとする思いがあったし、私も同じでした。
☆空港に入ってないが、後で話を聞いてじ～んと来た。彼がいったい何を感じたかを知りたい。息子とは合わなかったから残念、感謝もしているが、複雑。
☆短い期間だったが、子供が2人増えたようで楽しく過ごしたので空港で別れる時は家の子供が離れて行くようで、とても寂しかった。
☆目の回るスケジュールだったので無事に終わりホットしました。色々思っていたのに、半分もできなかった様に思い、彼は楽しんでくれたかしら？ホットした半面数日一緒に過ごしたので、これでさよならと思うとしんみりしました。
☆1週間と短い期間でしたがとても淋しくもう1度逢いたいと思いました。
☆家族として、暮らしたので別れの時はさみしく思いました。あと1日位ゆっくりできたらと思います。
☆短期間だったが、名残惜しく寂しく感じた。
☆だんだん情が移って来て、とても名残りおしかったです。
☆わずか何日でもないのに、最後の時は涙がとまりませんでした。子供達も目を真っ赤にして、フィリピンスカウトも泣いていました。手紙が来る中に必ず、もう1度日本へ行きたいと書いてあります。とてもうれしいです。
☆ジンときました。やはり涙で目がうるうる・・・・でした。
☆我が子のように可愛くなってきていたので別れがたかった。
☆短期間でしたけど、あれほど、別れづらいとは思ってもいなかった。送ったあとも、しばらく、あれもこれも、ああしてあげればよかったと、思うことばかりで寂しかった。
☆短い時間でも情が通じた。
☆今度はフィリピンに彼を訪ねようと思った。温かく迎えてもらったとの送別の言葉に感激してしまった。
☆また会いたい気持ちでいっぱいでした。
（第7回フィリピン派遣隊隊活動記録から抜粋）

Ⅱ．第9回受入れ家庭

（1） ホームステイ中の食事について特に配慮したものはありますか、またメニューは？

☆まず、嫌いなものを聞き、例えば寿司とパスタのよう

に和食＋洋食といったメニュー。

☆ご飯は嫌いだと言ったので出しませんでした。

☆普段食べている物をと思い初日に出しましたが、全然食べてくれませんでした。

（納豆、味噌汁、目玉焼き等）ウインナー、から揚げは食べました。

☆なるべく生物はさけ、和食でも若い人が好みそうなものを考えました。

朝はパン食、夜は天ぷら、とうふ、味噌汁等をつけました。

☆和食中心にしてみました。（寿司、刺し身、天ぷら、そうめん等）

	朝	昼	夜
26			団でのカレーパーティー　ポテトサラダ　果物（リンゴ、桃）
27	ご飯、味噌汁、鮭の粕漬、焼きのり、漬物	市内見学で外食	親族とガーデンパーティー（バーベキュー）
28	ご飯、味噌汁、ベーコンエッグ、生野菜、ヤキノリ、漬物	ハンバーガー	ご飯、味噌汁、ヒレカツ、茶碗蒸、チョコパフェ、アイスティ
29	ご飯、味噌汁、焼き海苔、うなぎ、生ハム、生野菜、漬物	ハンバーガー そうめん	さよならパーティー 帰りに、寿司、刺し身、天ぷら

＊昼食はスカウト同士で出かけていましたので、ハンバーガーになったようです。

☆家でした食事は、朝食４回。

１日目：本人に聞いたところ、ジャパニーズ・スタイルがいいと言うので、ご飯、味噌汁、卵焼き、明太子、とり肉の照焼き、納豆、サラダ。

生のサラダはあまり食べなかったが、それ以外は全部食べた。納豆もおいしいと言って食べた。

２日目：パン、ハムエッグ、牛乳、ジュース、ハムとトマトのサラダ、ヨーグルト、果物。全部食べた。

３日目・４日目：朝の出発が早かったので、パン、牛乳、ゼリー程度で慌ただしく食べた。

７／27（火）の夕食は、もう１組のホストファミリーと一緒に、焼き肉を食べに出かけた。フィリピンスカウトもいて、大人数でリラックスしておいしく、満足だったようだ。

☆生物はあまり食べないと聞いていたので、ほとんど出さなかった。

ケチャップが大好きだと言っていた。

フィリピン人はコーラが大好きと事前に聞いていたので用意していたが、全く飲まなかった。麦茶をガブガブ飲んでいた。

☆夕食はほとんど家で食べなかった。

焼きそば、かき氷（団の歓迎会）

バーベキュー（近所の受け入れ家族と）

天ざるそば（ほとんど食べなかった）

朝食はトースト、ウインナー、ハム、野菜サラダ、牛乳、ジュース、コカコーラ（ウインナーとコカコーラは好きらしかった）

☆団のウエルカムパーティやディズニーランド見学等の行事があり、そのため外食が多くなってしまった。

☆朝食は日本食を出したが、抵抗なく食してくれた。

☆夕食は一度しか家で食べる機会が無かったので近くのステイをしている家庭と一緒にバーベキューをしました。肉は好きなようでした。

朝食はパン、ご飯と変えてみました。あまり食欲がなかったようで、少ししか食べませんでした。

☆日本のことを何でも知りたい、経験したいというスカウトだったので、日本食を中心にしました。外食もおそば、お寿司にしました。

（２）　家庭での活動はどのようなことをされましたか。出来るだけ具体的に。

☆特にお客様扱いはしなかった。本千葉に叔母さんが住んでいたので、まとまった時間は、会いに行った。その他家庭では、スーパーへの買い物や犬の散歩を一緒にした。

☆家ではもっぱらゲームでした。犬を散歩させながら、ついでに子供達と公園で遊んでいました。

☆子供の部屋で下の子と三人でトランプやゲームをしていました。

☆ホームステイの１日目は、自治会の祭りで、我が家も参加していましたので身の回りを整理させてから、息子と共に祭り見物をさせました。

２日目、市内見学の後、息子達とショッピングをして帰って来て、夕食は家族とゆっくり取り、歓談後、ファミコンをしたいとのことで、息子と興じていました。

３日目、ディズニーランド、９時から20時とたっぷり遊んで帰って来ました。

４日目、主人と３人で外出。本人の希望で千葉そごう

でスカウト用品の買い物、その後浅草へ行き、たっぷり買い物をして帰ってきました。
夜はパーティ。

☆家族との会話の時間を持った。日中はスカウトのスケジュールが混んでいて居なかったので、夜だけでも短い時間でしたが、会話をするよう努力した。

☆手作りのおみやげを貰ったりしたので、家族のことや、先生、友達のことを話したり、写真を見せ合ったりした。

☆ピアノがあるのを見て、フィリピンスカウトが「タイタニックのテーマ」とフィリピンの歌を弾いた。楽譜は読めないが、見よう見まねで覚えたと言っていた。

☆7／29　早朝ボーリングに出かけた。その後は、先生や友人にたくさんおみやげが必要ということだったので、ＰＡＴ、千葉そごう等に買い物に出かけた。

☆近所の受け入れ家族とバーベキューパーティー、
買い物…デパート、コンビニ、スーパー、ホームセンター。
ファミコン、家の中でドタバタ追いかけっこ。

☆7月26日…千葉15団のウエルカムパーティ
（大宮グリーン広場にてビーバーから全スカウト及び父兄参加）
7月27日…近隣の方と一緒に食事会、その後、祖父母の家を訪問
7月28日…東京ディズニーランド（ＡＭ8：30－ＰＭ11：45）
7月29日…買い物（100円ショップに案内）

☆家では子供達とビデオを見たり、ファミコンをしたり、マンガ本を見てそれを写して書いたりと自由にすごしていました。
ホームアクティビティの日は、朝のうちは主人の車で病院の配達に一緒に行ったり、中学校を見学したり、野球（キャッチボール）などしていました。
その後は、お土産を買いにでかけ、ドームテントを買うことができて喜んでいました。

☆宗教に関心のあるスカウトで日本の寺院、神社に興味があり見てみたいとの事で浅間神社と中山の法華経寺に行きました。
日本人の宗教感等について色々と話をしました。

☆とっても良い子。明るくて弟と仲良くしてくれた。

☆大変素直で良いスカウトであった。
言葉の通じない点があったが、お互い分かり合う努力をし、理解し合えた。
良い思い出ばかりで何一つ不満はなかった。

☆礼儀正しく素直で、知識欲もあり、非常に感じの良い青年でした。

☆まだ、本当に子供という感じで、かわいらしかったです。おばあちゃんにも、自分からおみやげを渡すなど自分なりに一所懸命やっている姿はいとおしく思いました。

（3）　家庭でフィリピンスカウトと意志は通じましたか。コミュニケーションはどのような方法でされましたか。言葉は？

☆接点の少ない主人以外はまともに英語を使えない状況下、最終的には、少ないボキャブラリーとボディーランゲージ、そして何より話そう・理解しようとする気持ちの大切さを痛感した。（昨年も同じ事を思いながら進歩のない自分に愕然。）言葉として通じたのは、たぶん1／3程度でしょう。
なんとか英語で通じたと思います。

☆家族中が英語が苦手でしたので、初めは話すことも少なかったですが、辞書を見ながら話すことができました。

☆英語でコミュニケーションをとりましたが、パーフェクトではありませんでした。

☆子供が辞書を片手に持っての通訳でしたが何とか通じたと思います。
親は身振り、手振り、単語を並べただけでしたが意志は通じたのではないかと思っています。

☆夫と子供がそれなりに英語で話し合っていた。私（母）は殆ど日本語で、その後英語で補足する感じでしゃべっていた。フィリピンスカウトは時々冗談を言ったりして、結構リラックスしていたように思う。

☆名前、住所とちょっとしたメッセージを、英語とタガログ語で書いてもらうつもりでノートを渡したところ、長時間掛けて、家族の一人一人にメッセージを書いてくれた。

☆子供と父は片言英語、母と弟は日本語、どうにか通じたと思います。

☆言葉は辞書を開き開きの状態で大変であったが、私達は日本語を教え、フィリピンスカウトからはタガログ語を教えてもらうなど話せなくてもどうにかなった。

☆昨年受け入れた時は、父親に通訳を頼むことが多かったのですが、今回はスカウト同士で意志の疎通ができていました。最後の夜、2人で3時頃まで話しをしていたと聞いて、親の方が半信半疑です。
今回は話好きなスカウトだったので、父親、姉（大学1年）も含めて会話がはずみました。

☆ジェスチャーをして、単語を並べ、辞書を見せてと、

日本語ほとんどで話していました。わかった時はＯＫ、ニッコリ、わからない時はＮＯ、目キョロキョロ困り顔でした。
近所にフィリピンの方がいるので通訳してもらったことも。

（4）　最後の空港でどのように感じましたか。

☆満足して帰ったように思えた。家族一人が旅立つようで、妙な気分でした。
これで終わるのでなくフィリピンの息子として交流を続けていきたいと思いました。

☆最後に階段の所で写真を撮っていましたがあれはちょっとまずいと思いました。写真は何枚でも欲しいですが場所を考えた方が良いのではないでしょうか。

☆今回のフィリピンスカウトは、２年後の CHIBA10にも来ると言っていたのであまり寂しくなかった。
空港内の式は他の人に迷惑をかけているようです。別の所で行ったほうが良いと思います。

☆彼は今回の経験を生かして、成長していくだろう。

☆日常に比べて、緊張した生活だったので、これで終わったとホッとした。

☆いざ別れると思ったら、寂しかったし、感動もしたが、もっと楽しい思い出を作ってあげられたのでは後悔の念を感じた。

☆短かかったけれども、体調も良く過ごせた、ホストファミリーとしての役目を果たせホッとしました。

☆短期間でありましたが寂しさを感じました。

☆やはりとても寂しかったです。わずか４日間ですがフィリピンスカウト全員そろっても、我が家で受け入れたスカウトが一番かわいいなどと、ちょっぴり親心も。

☆自分の息子のような気持ちになり、別れがたいへん寂しかった。

☆たった５日間の受け入れだったのですが、家族を見送りに行った様な気持ちになりました。

☆淋しい思いと同時に、もっといろいろしてあげることがあったように思い残念な気持ちも残りました。

7）歴代国際交流委員

各年次筆頭者　委員長

1978年（S53）
鈴木謙二（千葉15）
高田長吉（千葉6）
亀田達也（千葉8）
大村久吉（千葉9）
関原健三（千葉13）
北原一男（千葉14）
橘　芳尚（千葉17）
保坂和好（千葉18）
椎名京子（千葉19）
脇　豊（千葉20）
高橋エミ子（千葉21）
中尾良信（千葉22）
泉　重治(四街道1）
林　武雄（佐倉1）

1979年（S54）
七山悠三（千葉22）
田中詳悟（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
佐藤秀雄（千葉15）
土屋正和（千葉18）
佐藤修二（佐倉1）
横山一洋（東金1）

1980年（S55）
七山悠三（千葉22）
大塚香代子（千葉7）
石橋正道（千葉18）
佐藤修二（佐倉1）
伊藤善正（千葉13）

1981年（S56）
七山悠三（千葉22）
大塚香代子（千葉7）
吉原喜代（千葉6）
武田盛吾（千葉13）
佐藤俊次（千葉15）

1982年（S57）
七山悠三（千葉22）
江口公顕（千葉20）
渡辺　豪（千葉6）
佐藤俊次（千葉15）
大塚香代子（千葉7）
小林明美（千葉18）

1983年（S58）
七山悠三（千葉22）
伊藤善正（千葉25）
江口公顕（千葉20）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
長島弘道（千葉18）

1984年（S59）
七山悠三（千葉22）
江野沢　忠（千葉8）
伊藤善正（千葉25）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
江口公顕（千葉20）
長島弘道（千葉18）

1985年（S60）
七山悠三（千葉22）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
石坂喜兵衛（千葉8）
武田盛吾（千葉13）
長島弘道（千葉18）

1986年（S61）
七山悠三（千葉22）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
石坂喜兵衛（千葉8）
武田盛吾（千葉13）
長島弘道（千葉18）

1987年（S62）
七山悠三（千葉22）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
長島弘道（千葉18）
柴田信男（千葉1）
宮崎泰二（千葉13）

1988年（S63）
七山悠三（千葉22）
大塚香代子（千葉7）
渡辺　豪（千葉6）
石坂喜兵衛（千葉8）
宮崎泰二（千葉13）
涌井正勝（千葉18）

1989年（H 1）
七山悠三（千葉22）
柴田信男（千葉1）
中井孝之（千葉7）
石坂喜兵衛（千葉8）
加賀谷昭宏（千葉13）
長島弘道（千葉18）
椎名博一（千葉22）
後藤　孝（千葉25）

1990年（H 2）
柴田信男（千葉1）
渡辺　豪（千葉6）
加賀谷昭宏（千葉13）
長島弘道（千葉18）
椎名博一（千葉22）
後藤　孝（千葉25）

1991年（H 3）
柴田信男（千葉1）
長島弘道（千葉18）
野村茂樹（千葉1）
渡辺　豪（千葉6）
多田　孝（千葉8）
石坂喜兵衛（千葉8）
加賀谷昭宏（千葉13）
ヒバートジョセフ（千葉20）
椎名博一（千葉22）
後藤　孝（千葉25）

1992年（H 4）
柴田信男（千葉1）
長島弘道（千葉18）
野村茂樹（千葉1）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
石坂喜兵衛（千葉8）
加賀谷昭宏（千葉13）
椎名博一（千葉22）
後藤　孝（千葉25）

1993年（H 5）
柴田信男（千葉1）
長島弘道（千葉18）
野村茂樹（千葉1）
渡辺　豪（千葉6）
大塚香代子（千葉7）
石坂喜兵衛（千葉8）
小林孝一（千葉9）
加賀谷昭宏（千葉13）
ヒバートジョセフ（千葉20）
椎名博一（千葉22）
吉原正明（千葉25）

1994年（H 6）
野村茂樹（千葉1）
大塚香代子（千葉7）
小林孝一（千葉9）

加賀谷　昭　宏　（千葉13）
柴　田　信　男　（千葉１）
渡　辺　　豪　（千葉６）
長　島　弘　道　（千葉18）
ヒバート　ジョセフ　（千葉20）
椎　名　博　一　（千葉22）
近　藤　貞　夫　（千葉25）

1995年（H 7）

野　村　茂　樹　（千葉１）
小　林　孝　一　（千葉９）
渡　辺　　豪　（千葉６）
長　島　弘　道　（千葉18）
加賀谷　昭　宏　（千葉13）
椎　名　博　一　（千葉22）

1996年（H 8）

野　村　茂　樹　（千葉１）
渡　辺　　豪　（千葉６）
小　林　孝　一　（千葉９）
長　島　弘　道　（千葉18）
三　輪　広　美　（千葉20）
三　角　和　之　（千葉22）
中　沢　　博　（千葉25）

1997年（H 9）

野　村　茂　樹　（千葉１）
渡　辺　　豪　（千葉６）
小　林　孝　一　（千葉９）
長　島　弘　道　（千葉18）
白　鳥　素　也　（千葉25）
小　玉　博　美　（千葉25）

1998年（H10）

野　村　茂　樹　（千葉１）
渡　辺　　豪　（千葉６）
小　林　孝　一　（千葉９）
長　島　弘　道　（千葉18）
高　倉　　寛　（千葉25）
塩　崎　雅　史　（千葉１）

1999年（H11）

野　村　茂　樹　（千葉15）
渡　辺　　豪　（千葉６）
小　林　孝　一　（千葉９）
長　島　弘　道　（千葉18）
高　倉　　寛　（千葉25）
塩　崎　雅　史　（千葉１）

8）国際交流関連資料

METRO MANILA NORTH COUNCIL KAPATIRANG SCOUT NG PILIPINAS : 32nd YEAR OF SERVICE TO THE YOUTH AND COMMUNITY, DE GOITIA Publishing, 1979,

ボーイスカウト千葉地区協議会，フィリピンボーイスカウト交流使節団報告書，1980.

フィリピンスカウト来日特集，たけのこ（地区協議会だより），No.17，1981.

ルックワイド，第1回フィリピン派遣隊報告，1981.

第二次フィリピン派遣特集，たけのこ，No.18，1982.

長野　茂：フィリピン交歓行事に参加して，たけのこ，No.19，1983.

橋田公男：第一回ヒューストン派遣隊，たけのこ，No.23，1984.

小川信輝：フィリピン交流キャンプ報告，たけのこ，No.24，1985.

戸島寿雄：フィリピン派遣隊に参加して，スカウト千葉，15，1985.

比ボーイスカウト41人県キャンポリーに参加，千都よみうり，1980.8.10.

小川信輝：フィリピンスカウトとの交流，たけのこ，No.25，1986.

レイ　エンリコ　クーズ：私と千葉，たけのこ，No.25，1986.

ボーイスカウト千葉地区：登録20周年記念誌，1987.

橋田公男：第四回フィリピン交流隊報告，たけのこ，No.28，1988.

橋田公男：千葉地区62年度派遣無事終える，スカウト千葉，22，1988.

第5回フィリピン交流隊隊活動記録，1990.

小林孝一：第五回フィリピン交換事業派遣隊交流記，たけのこ，No.31，1990.

亀谷新一：スカウティング・パラダイス，たけのこ，No.32，1991.

宮崎啓介：ヒューストン派遣隊に参加して，たけのこ，No.33，1991.

ボーイスカウト千葉地区：はばたく若者たち（国際交流作品集），1992.

ヒューストン派遣（第6回 International Encampment 参加）実施記録，1992.

第6回日比交流事業，1992.

ヒューストン受入れ１５ＭＣＣ参加実施記録，1993.

第7回フィリピン派遣隊（第1回アセアンジャンボリー参加隊）隊活動記録，1994.

島　孝之：第七回ケソン派遣を終えて，たけのこ，No.37，1994.

加賀谷昭宏：「仲間の愛の中で育った子は，世界に愛をみつけます」　アメリカンインディアンの教え，たけのこ，No.38，1994.

富樫幸男：フィリピンスカウトとの交歓会開催，たけのこ，No.38,1994.

千葉地区ヒューストン派遣隊（第7回 International Encampment 参加）実施記録，1994.

伊藤克己：第7回 International Encampment に参加して，たけのこ，No.39,1995.

小林　航：思い出のフィルモント，たけのこ，No.39,1995.

第8回フィリピン派遣隊隊活動記録，1996.

高橋正二：スカウトの旅立ち　一歩成長の記録，たけのこ，第8回フィリピン派遣特集号，1996.

高橋正二：千葉地区第8回フィリピン派遣隊ＲＥＰＯＲＴ，スカウト千葉，32，1996.

Reynaldo F. San Diego:Brotherhood for Pease The Quezon City-Chiba City Scout Exchange Program 1979-1996, Quezon City Council, Boy Scouts of The Philippines.

渡辺博司：フィルモント報告，スカウト千葉，34，1996.

Boy Scout Troop travels to Japan, Houston Chronicle, September 17, 1997.

Members of Boy Scout Troop 80 visit Japan, THE TEXAS CATHOLIC HERALD, September 26, 1997.

日本ボーイスカウト千葉県連盟　ガールスカウト日本連盟千葉県支部：第16回千葉県キャンポリー実施報告書，1997.

千葉県連盟：第10回フィルモント派遣報告書，1997.

亀谷新一：フィルモントの魅力は歩いた後にわかる，スカウト千葉，38，1998.
千葉・ケソン・ヒューストン三角交流記録，1999.（作成中）
第9回フィリピン派遣隊隊活動記録，1999年.（作成中）
Troop80　SHAC：Chiba Scouts visit Houston, 1999.
鈴木俊雄：第19回世界ジャンボリーに参加して，1999.
(http://plaza.harmonix.ne.jp/~y-konuma/chiku/19wj.htm)

第2部　千葉地区国際交流活動マニュアル

1 千葉地区が実施している国際交流事業

1．1．千葉地区主催の国際交流事業

千葉地区が継続的に主催している国際交流事業は次の通りである。

①比国ケソン協議会との交流

②米国ヒューストン市内のボーイスカウト組織との交流

ケソン市及びヒューストン市は千葉市と姉妹都市である。千葉地区からの派遣時には千葉市長のメッセージを持参し、表敬訪問をしている。

1．2．千葉県連盟主催の国際交流事業

千葉県連盟が主催している海外派遣事業で千葉地区が参加者をだしている海外派遣事業に「フィルモント派遣事業」がある。

海外派遣ではないが国際交流事業と位置付けられ、千葉県連盟が派遣を推進している事業に「日米フレンドシップパトローリー大会」がある。

1．3．日本連盟主催の国際交流事業

日本連盟が主催する、又は日本連盟が紹介する海外派遣又は受け入れの交際交流事業は多数あり、月刊誌「スカウティング」に掲載されて公表される他、日本連盟から千葉県連盟を通して千葉地区に募集が通知されてくる。

1．4．千葉市が主催する国際交流派遣事業

千葉市が主催する国際交流派遣事業に「千葉市青少年及び青少年指導者海外派遣事業」がある。

2 千葉地区が主催している国際交流事業の共通推進事項

2．1．事業の計画と承認

2．1．1．国際交流交流の長期計画

千葉地区ではフィリピンケソン及びアメリカヒューストンと交流を重ねているが、毎年又は2年を1サイクルとした交流が確実に行われているわけでもない。先方の意向を聞きながら、県キャンポリーの関係等、当方の受け入れ都合を考慮して5ヵ年程度の長期計画[*1]を立てておく。これを地区協議会に報告し、地区としての国際交流長期計画としておく。

2．1．2．年度計画立案と承認

地区として国際交流事業を年度事業計画に入れておくようにする。年度末に近づいた頃国際交流委員会は当年度の計画に対する実施状況を確認し、活動の評価と反省[*2]をする。その上に次年度の活動方針[*3]を立案する。年度末頃の地区協議会又は地区委員会に次年度活動方針を提出して、承認を取っておき、総会資料に載せる。総会にて地区の年度事業が承認されることにより、その年度の国際交流事業の推進がが承認されたことになる。

2．1．3．交流相手との連絡調整

年度計画の立案に先立ち交流先相手のボーイスカウト組織と交流について提案し、先方の了解をとっておか

---

*1 中期計画サンプル：資料－1

*2 年度計画と実績の評価と反省サンプル：資料－2

*3 国際交流委員会年度事業方針サンプル：資料－3

なければならない。フィリピンケソンとの交流については交流事業実施の折、アドバイザリーミーティングにて次回の交流が協議されて交流の約束が取り交わされることが慣例になっている。

2．1．4．年度予算立案・計上

年度計画時には地区年度事業として予算を計上しておく。詳細の総合予算は事業を具体的に推進する時に立案することになるが、ここでは国際交流委員会が地区として国際交流にかかる費用を提出して地区年度予算に組み込んでおく必要がある。

国際交流交流委員会の予算項目としては

①国際交流委員会年度経費

②国際交流事業予算

③その他事業予算

の３つになる。

2．1．5．計画書・実施要項の作成と承認

国際交流交流事業実施の９ヶ月程度前に当該国際交流事業の実施計画書*1を国際交流委員会が作成し、地区委員会提出する。地区委員会の審議を経て実施要項が承認され、地区行事として事業の推進が決定される。

事業の６ヶ月前には計画を具体化した実施要項を作成する。実施要項の中には参加費用*2なども含まれる。

2．2．海外派遣参加者の募集と選考

2．2．1．指導者の募集と選考

国際交流事業には派遣と受け入れがある。千葉地区で実施しているケソンとの交流は派遣と受入がセットになっているので派遣隊指導者は受け入れ隊指導者に自動的になる。

ヒューストンとの交流は受け入れもするが、派遣と受入がセッとになっていないので、派遣隊だけの指導者になり、派遣事業が終了した時点で解任になる。

派遣指導者の募集は次のような手順で推進される。

（１）国際交流交流事業（海外派遣事業）実施要項*3に指導者の資格、人数その他必要事項を記載しておく。

（２）国際交流交流事業（海外派遣事業）実施要項が地区委員会で承認された後に海外派遣参加指導者募集*4の文書を作成する。これを地区委員会に上程し、承認を受けた後に地区内各団へ配布する。

（３）指導者の応募*5があったならば国際交流委員会は書類にて審査し、派遣指導者として適任者と認めたならば地区委員会に報告して承認を得る。

（４）派遣指導者には派遣隊結隊式の折、地区会長名で委嘱状*6を渡して派遣指導者が決定する。

海外派遣指導者は派遣期間中の10日間程度以上は仕事を休まなければならないので、なかなか応募者が現れず、現実には地区内の該当しそうな人にお願いしていることが多い。

海外派遣の指導者資格は次の如くである。

［隊長］

・団においてボーイスカウト隊指導者としての経験があること。

・ウッドバッジ研修所のＢＳ課程かＶＳ課程を修了していること。

---

*1 国際交流事業計画書サンプル：資料－４

*2 事業予算の立案の考え方：資料－５

*3 国際交流事業実施要項サンプル：資料－６

*4 指導者・スカウト募集文書サンプル：資料－７

*5 指導者の参加申込（日連用紙）：資料－８

*6 指導者委嘱状サンプル：資料－９

・日常英会話ができること。
・派遣隊隊長として健康上問題がないこと。

[副長]
・団において隊指導者としての経験があること。
・ウッドバッジ研修所を修了していること。但し、ローバースカウトにあっては指導者講習会修了でも可とする。
・日常英会話ができること。
・派遣隊副長として健康上問題がないこと。

2．2．2．スカウトの募集と選考

海外派遣と受け入れについては指導者の場合と事情が同じである。ケソンとの交流では派遣と受入がセットになっているので派遣隊参加スカウトは自動的に受け入れ隊の一員となり、先方スカウトのホームステイ受入をする。

派遣参加スカウトの募集は次のような手順で推進される。

（1）国際交流事業（海外派遣事業）実施要項にスカウトの資格、人数その他必要事項を記載しておく。

（2）国際交流事業（海外派遣事業）実施要項が地区委員会で承認された後に海外派遣参加スカウト募集の文書を作成する。これを地区委員会に上程し、承認を受けた後に地区内各団へ配布する。スカウトの募集をする前には指導者の選定が済んでいることが必要である。特に隊長は派遣スカウトの面接委員にもなっていただくことが望ましいので早め決定しておく。

（3）参加申込書[*1]と作文の提出によりスカウトの応募があったならば国際交流委員会は書類にて審査し、条件を満たしていれば当人宛てに面接通知を郵送する。

（4）面接[*2]の後[*3]、総合的に判断し、合格ならば本人に海外派遣候補者決定通知を郵送する。

（5）派遣スカウトが内定したならば結隊式[*4]を実施する。結隊式の日には保護者も参列して頂くものとする。この日から事前訓練を開始する。派遣訓練実施期間の終わり頃に結団式[*5]を実施する。その折、派遣隊長からスカウトが派遣レベルに達していることを認めて地区会長に派遣許可を申請する。地区会長が派遣の許可を与えて、当該スカウトの派遣参加が決定する。

[ボーイスカウト]
・派遣時に中学2年生以上であること。
・派遣時に1級以上であること。
・簡単な英会話ができるか又は努力をしている者。
・海外派遣に健康上問題がないこと。

[ベンチャースカウト]
・派遣時にベンチャー章を取得していること。
・簡単な英会話ができるか又は努力をしている者。
・海外派遣に健康上問題がないこと。

2．2．3．派遣役員の選考

ケソン派遣の時はいつも役員が隊に同行する。その他の派遣では通常は役員を必要としないが事業によっては役員が同行することもある。

---

*1 スカウトの参加申込（日連用紙）：資料－10
*2 面接実施要領：資料－11
*3 面接記録用紙：資料－12
*4 結隊式式次第サンプル：資料－13
*5 結団式式次第サンプル：資料－14

ケソンとの交流において、先方ではスポンサーがアドバイザーと称して派遣団役員として隊に同行してくる。これはフィリピンの国内事情として必要なものである。当方は役員の必要性は強いものではないが、先方の方式に合わせる為に団長、団員として役員を同行させている。

派遣役員の一般募集は指導者の募集時に同時に行うが、地区役員で派遣時に休みが取れるものが順番で行くというような雰囲気である。資格等の条件は特に決めてなく、常識的な人選をし、地区委員会で承認をして派遣参加が決定する。

2．3．対外手続き

2．3．1．日本連盟への手続き

スカウトの海外派遣に関しては教育規定13章の「スカウトの海外渡航」(13－5)と「スカウトの海外渡航に関する基準」(13－5－1～13－5－17)に規定されている。

スカウトが海外に行く場合は「海外派遣」と「海外旅行」がある。通常地区や団レベルで相手と交流する為の派遣は「海外旅行」に区分される様である。

[承認申請書の提出]

海外旅行の主催者は計画実施の6ヶ月前までに海外旅行承認申請書*1を提出しなければならない。日本連盟にて承認されると、承認通知書が地区に届く。これに「Re：BSN Authorized Overseas Scout Tours」*2が添付されてくるので、先方にどの様に日連から通知がいっているかが分かる。

[確定計画の報告]

承認を得た計画の実施について、実施日の1ヶ月前までに参加者名簿と確定した行動日程を提出する。日本連盟からは「LETTER OF INTRODUCTION」*3が送られてくる。派遣代表者はこれを持参して渡航する。

2．3．2．千葉市への手続き

「千葉市への補助金申請」

千葉市からは補助金を頂く関係で書類の提出が必要である。定例的に事業をして補助金を出して頂いているものケソンの派遣と受入がある。他に補助金を出して頂ける国際交流事業もあるがケースバイケースである。

いずれの場合も千葉市の年度予算に計上されていなければならないので、予算編成期にはタイミングよく千葉市担当部署である社会センターに提出しておくことが必要である。千葉地区では毎年9月に次年度事業計画書を作成し、ボーイスカウトの所管部署である社会センターへ提出する。その計画書に国際交流事業を含めておく。添付資料として事業補助金調書がある。例年の事業は社会センターから質問が少ないが、特別事業は細かな質問をされるのでしっかりした計画書と予算案がなければならない。

申請が受理されるとしばらくはそのままで、3月頃になると補助金が認められたか分かってくる。書面では通知がないのでそれを覚えておく。

3月から4月は地区の予算編成期である。国際交流委員会は年度の事業計画とともに予算案を作成するが、市の国際交流事業に対する補助金額額を配慮して地区に予算申請する。

「事業実施前の計画書、補助金交付申請書提出」

事業実施前の3ヶ月程度前には千葉市教育委員会宛てに後援申請書*4に収支予算書添付して提出する。教育委員会からは後援承認通知書が出て後援が確定する。千葉市市長宛てには補助金交付申請書*5に資料を添付し

---

*1 海外旅行承認申請書サンプル：資料－15

*2 Re：BSN Authorized Overseas Scout Tours：資料－16

*3 LETTER OF INTRODUCTION：資料－17

*4 後援申請書サンプル：資料－18

*5 補助金交付申請書サンプル：資料－19

て提出する。更に、千葉市市長宛てに補助金一括事前交付請求書*1を提出すると、やがて助金額確定通知書と補助金交付決定通知書が送られてきて、事前に補助金が交付される。

国際交流委員会では事業実施の直前に地区委員会に実行予算を提出する。それが認められると地区会計から国際交流委員会の交流事業用銀行口座に補助金額が振り込まれる。これを使って国際交流事業が実施される。千葉市からの補助金が振り込まれる前に地区会計から国際交流委員会に振り込まれることが多い。

［市長メッセージの申請］

ケソンとヒューストンは千葉市の姉妹都市であるので、派遣時には千葉市長のメッセージを持って行くようにしている。形として姉妹都市としての千葉市から派遣の交流団というような位置付けにもなる。

市長メッセージ申請書は実施の２ヶ月程度前には社会センターに提出する。

２．３．３．学校への手続き

派遣参加スカウトが所属する学校長へ派遣出発の１ヶ月以上前に「海外旅行の届け出*2」をスカウトに持たせて提出しておく。これは規則によるものでないが、学校に知らせておくことが良いことだとの考えによる。

２．４．派遣準備

２．４．１．航空チケット手配

年末に航空チケットを２０人分以上確保するには手抜かりのない手配が要る。半年程度前から旅行会社に見込み数を伝えておく。旅行会社は３ヶ月程度前になると要求のチケット枠の確保が判明するようだ。要求通りの枠が確保できれば問題ないが確保できない場合は飛行ルートを変える等の工夫をして目的達成の努力をしなければならない。

年末等の需要が多い時期に一定以上の航空チケット確保することは旅行会社の力関係が問題になるようだ。ＪＴＳ（ジャパンツアーシステム株式会社）は、千葉地区の要請通りのチケットを確保できている。

派遣２ヶ月前には参加者スカウトと保護者を集めて説明会を開く。その席には旅行会社の担当者に出席を要請し、渡航に必要な書類を配付し、説明をしてもらう。この時の内容は

①旅行会社に対する旅行参加申込書提出（航空チケットの申し込み）
②パスポート取得方法説明
③ビザの取得説明と代行申し込み
④海外旅行保険手続き

等である。航空チケットは出発当日、空港に旅行会社担当者が持参してくれる。

２．４．２．渡航手続き

渡航手続きは次のようなものがある。

①パスポート取得

取得には千葉の場合二週間程度かかる。説明会の折、海外旅行会社がサービスで用紙を用意し、記入方法を説明してくれる。旅行会社に代行を依頼すると代行費を請求される。スカウトが自分で取得をする様にさせることが海外派遣の訓練でもある。

②ビザ取得

フィリピンに入国する時、15歳未満の者はビザが必要になる。ビザの取得は初めての者には難しいので旅行会社に代行を依頼することが無難である。２ヶ月程度前には手続き代行を依頼しておきたい。フィリピンのビザ取得については３．１．５．項で詳しく記す。

アメリカは短期観光旅行ではビザは要らない。

---

*1 補助金一括事前交付請求書：資料－20

*2 海外旅行の届け出サンプル：資料－21

③出国カード作成と提出

日本を出国する時（空港で飛行機に乗る前）に出国ゲートでパスポートと一緒に出国カードを提出する。出国カードにつながっている入国カードにも必要事項を記入しておく。

④渡航先入国カード

先方の空港に到着すると空港内で入国手続きをする。その時入国カードが必要である。飛行機の中で書いても間に合うが事前に旅行会社に用紙を貰い、記入しておく方が良い。

2．4．3．海外旅行保険

海外旅行には保険をかけておくべきであろう。保険内容にはいろいろあるが、保険会社は普通セットにした形を作って勧めてくる。一家の大黒柱の場合は死亡時の補償金額を多くかける必要があると考えられる。又、高価な物や沢山のお金を持っていく人は盗難保険もかける必要がある。ボーイスカウトの場合、旅行中の怪我と病気だけに範囲を絞って保険を掛けると掛け金が少なくてすむ。10日程度で5千円になる。セットになっている保険では1万円以上になる。

2．4．4．公式土産

派遣隊又は団として千葉地区から先方の組織へお土産又は記念品を持参する必要がある。千葉地区で持参した例として記念文字を記入した日連需品部の盾がある。

先方の組織のトップやそれに近い人、又はお世話になる方々個人にも地区としてお土産を用意していくほうが無難である。日本の伝統的なものを選べば良いと思われる。浅草の仲見世に行くと外国人が喜びそうな物が見つかる。

2．4．5．保護者への説明会

交流参加スカウトの保護者には書類の送付だけでなく、説明会を開いて内容の説明しておく必要がある。

派遣前の説明会は派遣参加内定時に1回、できたら派遣直前にも1回開くとよい。1回目は派遣隊結隊式の日はタイミングが良い日である。結隊式に参列して頂き、派遣隊全員の紹介や保護者同志の紹介をする。派遣隊参加者は訓練や派遣を通じて親密になるが保護者同志は機会を作ってやらないと知り合いになれない。

1回目の保護者説明会は次のような内容になる。この席には航空券を申し込んでいる旅行会社の担当者も同席させる。

①派遣日程の説明
②航空便の説明
③パスポートの取得方法説明
④ビザの取得方法説明
⑤参加費集金又は振り込み依頼
⑥派遣先の状況とプログラム
⑦健康診断書の提出依頼
⑧派遣前の訓練計画
⑨質疑応答

2回目の説明会は派遣直前に開くとよい。結団式の日はタイミングがよい。結団式とは団役員の紹介を含めた総合の式であるが、内定スカウトが派遣決定スカウトになる日でもある。事前訓練結果を隊長が地区会長に報告し、派遣の許可を得るというステップが含まれる。

保護者説明としては千葉地区の場合、出発日は空港集合となるので保護者に空港集合の詳細を知らせる。

1回めと2回目の間にもスカウトの訓練風景見学を兼ねて保護者に集まる機会を作ると保護者同志の親睦にもなり喜ばれる。保護者に役割をもって頂くと指導者も助かる。

2．4．6．健康診断書提出

派遣参加が内定したならば参加候補者に健康に関する書類を提出させる*1。健康診断書と本人記入の健康調査書は必ず提出させる。参加者個人の状況により持病対策書を提出させる。

健康診断書は中学生や高校生は学校の定期健康診断データの写し*2で良いことにしている。学校に要請*3すればデータの写しが頂ける。この方式を利用すれば医師に健康診断を依頼する場合と比べて費用が削減できる他、参加者が病院とに出向かなくても済む。

ヒューストンのインターナショナルエンキャンプメントに参加した時には先方様式の健康診断書を提出させられた。英文であるし、日本の通常の健康診断項目と異なるので配慮が必要である。特定の診療所等に行って事情を説明しておき、協力を要請する。了解が得られれば参加スカウトにはそこを指定して健康診断を受けさせる。様式にはスカウト用と成人指導者用に区別されている。

2．4．7．緊急連絡先

派遣先と日本の間で緊急連絡を要する時のために出発前に緊急連絡先を決めておく。派遣先でのキーマンは派遣隊長とする。隊長がスカウトを把握しており、隊長に連絡すれば先方の連絡網で各スカウトトの連絡が取れる。

千葉側のキーマンは国際交流委員会委員長又は担当者とする。連絡が取り易い者をキーマンに選ぶことが大切である。キーマンから各スカウトの家庭に直接電話等で連絡する。緊急連絡網を作成しておく。

2．5．派遣事前訓練

2．5．1．事前訓練の目的と内容

参加者は派遣資格をクリアーしたスカウトであるから、それなりの実力があり意欲もある。しかし、派遣隊は臨時に編成された隊であり、参加スカウトは中学生が多く、初めて外国に行く者が殆どであるからそれなりの事前訓練が必要である。

訓練の目的は

①派遣隊全員の仲間意識の醸成

隊長以下指導者とスカウト全員が一つの隊としての心構えを持ち一致団結して行動できるような仲間意識を醸成する。

②指導者がスカウトの状況を把握

指導者はスカウトを連れて外国に行くのであるから、各スカウトの性格や健康状況を十分把握して行かなければならない。

③活動する時の出し物等練習

スカウトとしての派遣であるから、派遣先に行ってキャンプなどがあり、キャンプファイーの時には隊として、又は班としてスタンツをすることもある。歓迎パーティーやさよならパーティーの時にも隊として演技する機会がある。これらの練習をして修得しておく。

④班旗やその他班として又は隊として持参する物を作製する。

⑤指導者は派遣に必要な情報をスカウトに伝える。派遣先と交信している国際交流委員会の担当者が訓練集会に参加して先方の情報を伝えることも必要である。

⑥参加スカウトが自発的に派遣先のことを勉強する様に仕向ける。家で勉強したことを訓練隊集会で発表させることにより個人の勉強が促される。

---

*1 健康に関する提出書類：資料－22

*2 学校の定期健康診断データの写し用紙：資料－23

*3 定期健康診断デタの写し依頼文：資料－24

2．5．2．事前訓練の期間と訓練回数

訓練期間は4ヶ月程度を標準とする。年末に派遣をする場合は9月に結隊し、12月まで月に1回乃至2回の訓練で合計6回程度の訓練期間がよい。

事前訓練は数回実施する必要がある。その内1回は宿泊としたい。ボーイスカウトであるからキャンプが望まれるが都合により、舎営にしてもよい。一泊することにより指導者はスカウトの性格やその他多くのことが見えてくる。

訓練スケジュールと訓練内容は派遣隊長が中心になって決める。その際過去の記録や経験者の意見を参考にすることは勿論である。千葉地区の海外派遣や受け入れは毎回確りした記録を残しているので大いに参考になる。

2．6．派遣実施時の留意事項

2．6．1．出発空港での留意事項

千葉の場合、殆どが成田空港から出発であるが、航空チケットが取れなくて羽田空港発の時もあった。

空港には出発の2時間30分前に集合することを標準とする。2時間前からチェックインできる。集合が済んだら、隊としての確認をしてチェックインをする。チェックイン後は簡単な出発式をする。空港の中では集団で何かをすると注意を受けることがあるので、注意を要する。他の客の邪魔にならないように心掛ける。声を張り上げるようなことは慎む。心配な時は屋外に出てセレモニーをやれば気兼ねなくできる。

セレモニーが済めば暫く自由時間が取れる。円を先方のお金に変えておけば現地に着いて慌てないで済む。空港には外国人が喜びそうな日本的なお土産が買える店がある。買い忘れた物など最後の買い物をする時間はある。

出発の約45分前程度前の時刻になったら見送りの方々に挨拶をして出国ゲートに向かう。

2．6．1．派遣先到着空港での留意事項

派遣先に到着すると空港に出迎えの方々が来ている。車に荷物の積み込みが済んだならば、直ちに概略のスケジュールを聞いておくとよい。事前交信でスケジュールは知らされているが、現地につくと大きく変わっていたこともあった。最初からキャンプに入るのか、ホームステイなのかは重大なことである。到着日のスケジュールは細かく聞いておきたい。

到着空港で円と現地のお金の交換ができるので現地のお金を持っていない者はここで交換をしておくとよい。ホームステイやキャンプに入ってしまうとなかなか換金ができない。飲み物や小物を買うときに困ってしまう。

ここで帰りの時の為にに空使用料を確認しておく。現地のお金を全部使ってしまって、帰りの時空港に着いて空港使用料が必要なことを知り、慌てることがある。

2．6．2．ホームステイ先の確認と緊急連絡網

多くの場合、事前に参加者の夫々のホームステイ先は知らされていることが多いが、現地に着くと変わっていることもある。到着後早めに正しいペアリングリストを入手しておく様にする。このリストが緊急連絡リストにもなる。緊急連絡は派遣隊長をキーにした連絡網とする。先方の指導者にもその旨伝えて協力を依頼する。

2．6．3．プロフラムの確認

到着の翌日ぐらいには指導者の会議をお願いし、派遣先の滞在期間中の詳細スケジュールについて打合せしておく。キャンプの中のプログラムや見学旅行のこと、パーティーのことなどについて聞き出しておく。こちらが準備していたこととのすり合わせも必要である。要望があればリクウェストしておく。

2．6．4．費用負担の確認と支払い

滞在期間中に当方が支払わなければならないものを聞いておく。見学旅行の時の入場料などはアメリカでは

当方が支払うことが多い。フィリピンでは先方が支払うことが殆どである。但し、先方に支払わせると日本に来た時は当方持ちになることを認識しておかなければならない。

フィリピンでは最後の日がホテル泊になるのが通例である。ホテル代は必ず支払ってくる。先方が支払いは要らないということがあるが、ホテル代は当方支払いとしておくことを守る。

2．6．5．受け入れについての打ち合せ

ケソンとの交流は派遣と受入がセットになっているので受け入れについて打合せをしてくる。出発前に国際交流委員会が受け入れの原案を作り、地区委員会にて了承を得ておく。

現地での受入についての打合せ内容は

①受け入れ期間

②スケジュールの概要

③受け入れの人数

等である。フィリピンではこの会議をアドバイザリーミーティングと称している。

2．7．帰国後の報告

2．7．1．千葉地区への報告

空港には地区役員が出迎えてくれるので、その場で速報はできる。正式な報告は直後の地区委員会に簡単な報告書を作成して提出して報告する。その席には派遣隊長も出席を依頼し、地区委員会メンバーに生の報告をする。

金銭の収支が整理できたならばこれも地区委員会に報告しておく。保護者にも報告する様にする。

2．7．2．日本連盟への報告

派遣事業実施後１ヶ月以内に日本連盟に「海外渡航の行動報告書*1」を提出する。

2．7．3．千葉市への報告

ケソン派遣事業は千葉市から補助金を頂いているので、事業実施後速やかに千葉市へ「社会教育団体事業実績報告書*2」を提出する。

2．8．受け入れ準備

2．8．1．受入プログラムの作成

派遣してくる相手と日程等の基本事項を決めておき、詳細のプログラムを作成する*3。プログラムは受入実施の４ヶ月以上前に作っておく。これを地区委員会に提出して承認を得て置く。

2．8．2．受入中の主な行事の計画

大きく分けるとキャンプとホームステイになる。更にホームステイ中の団体行動として市長表敬訪問、千葉市内見学、東京見学、ディズニーランド遊覧等がある。千葉地区スカウト全員が集合して来日スカウトと交歓する会*4も今までに実施されてきた。最終日前夜にはさよならパーティーがある。

ホームステイ中の団体行動は多すぎると家庭での自由時間が少なくなり、またその反対の場合は家庭によっ

---

*1 海外渡航の行動報告書サンプル：資料－25

*2 実績報告書サンプル：資料－26

*3 受入プログラムサンプル：資料－27

*4 来日スカウトと千葉地区スカウトの交換会プログラムサンプル：資料－28

ては接待しきれないとの意見も出る。このバランスを取る様にする。フリーの日を2日間くらいにするのが適当であろう。

2．8．3．見学・観光等の計画

千葉市の立地条件を活用した見学・観光等の計画と準備をする。東京ディズニーランドはいつも人気がある。はとバスを使った東京見学も好評である。千葉市市内見学も市長表敬訪問の日にすれば1日が有効に使える。

2．8．4．キャンプ場等の確保

キャンプ場は半年以上前に予約しておかないと確保できないこともあるのでそれなりに予約しておく。

ケソン受入はゴールデンウィークになることが多い。昭和の森キャンプ場でキャンプするのが通例である。ゴールデンウィークにはキャンプ場の需要が多いので年末か1月中には予約しておかないと確保できない。

千葉市長の表敬訪問も恒例になっているのでプログラムを作る時は事前に千葉市秘書課に予約をし、市側と打合せておく。

2．8．5．千葉地区受入組織

受入事業は大きなパワーを必要とする。地区事業として特別な組織*1を臨時に作り、地区の総力を結集してプロジェクトを推進する。特記事項として、前回の交流に参加したスカウトや指導者のパワーを活用するように受入組織を編成するとよい。

2．8．6．受入家庭の募集

ケソンからの派遣者のホームステイは派遣参加者が受け入れる条件を派遣時に納得済みである。しかし、ケソンからは派遣人数以上の人数を受け入れることもある。ヒューストンからの派遣者受入は派遣と受入がセットになっていない。

そのような事情からホームステイ受入だけの募集も必要になってくる。受入家庭募集時には千葉地区内各団にホームステイ受入をして頂く様に地区委員会でお願いしていく。特定の団が多く受入て、受入がない団をなるべく少なくなる様に推進する。

2．8．7．受入家庭説明会

先方のメンバーが分かり、ホームステイ受入家庭が決まれば受入1ヶ月以上前に受入家庭に対して説明会を開く。

説明会の内容は

①ホームステイ者の名前その他個人情報
②受け入れスケジュール
③ホームステイ中のアドバイス
④費用負担の区分

等である。ホームステイ中のアドバイスは過去にホームステイ受入した方々のアンケートを見せると実感が分かってよいので、アンケート集計結果をコピーして配付する。

2．9．受入の実施

2．9．1．空港出迎え

先方派遣団が成田空港に着く時は出迎えに行く。出迎えの方法はその直後のスケジュールによって異なる。

最初からキャンプに入る場合はバスを用意していく。そし空港からキャンプ場へ直行する。従って空港に出

*1 受入特別組織サンプル：資料－29

迎えに行く者は地区役員代表と国際交流委員、指導者代表の少数でよい。

受入がホームステイから始まる場合は空港に受入家庭の方に出迎えていただく様にしている。ここで各家庭に引渡しをして、ホームステイに入る様になる。

先方の派遣隊全員を千葉市に移動してから各家庭に引き渡す方法も有力であるが、多くの場合、到着が夜になり、千葉市内に引渡しができる場所が確保できないので成田で引渡しをしている。

2．9．2．来日者の確認

先方からは事前に派遣者名簿が届いている。到着者をこの名簿と照合する。事前に名札を作っておき、先方の各人に渡すと到着者が確認できる。

このようなことをする理由はメンバーが変わっていたりして名簿通りの者が来ないこともあるからである。国際交流委員会がそれを知らないで後で分かり、混乱したことやホームステイ受入家庭から苦情が出たこともあった。

ここで先方の代表者に受け入れ者とのペアリング表を渡しておく。この表が先方にとって緊急連絡簿になる。

2．9．3．受入家庭への引渡し

受入家庭への引渡しはキャンプ場でキャンプの最後の日に受入家庭の方々に集まって頂き、そこで引き渡す方法と空港に出迎えた時に引き渡す方法がある。

いずれの場合もホストスカウトとその保護者に相手を紹介しながら引き渡していく。これは引渡し式としてセレモニー的にやるとよい。

2．9．4．キャンプ

ボーイスカウトの受入であるから受入期間中に先方のスカウトと一緒にキャンプをすることが多い。

千葉県キャンポリーが開催される時に受け入れる場合はこれに参加することになる。キャンポリーに参加させるには地区内各団に受入を割り振っておき、各団ボーイ隊の一員として参加させる方法と外国隊として独立させて参加させる方法の二通りがある。

キャンポリー等がなく千葉地区だけで受け入れるケソン受入の場合は派遣隊が受入隊となって先方のスカウトと合同のキャンプになる。昭和の森キャンプ場を使ってキャンプすることが多い。受入キャンプは通常2泊3日である。

受入キャンプには強力なパワーが要る。地区野営行事委員会の方々や前回の派遣隊指導者やスカウトの支援を依頼することになる。

2．9．5．千葉地区スカウト全体の交歓会

ケソンからの受入は通常ウゴールデンウィークになる。昭和の森キャンプ場でキャンプをして、その最終日に千葉地区全部のスカウトが集まり、外国スカウトと交歓する大会を催している。この時各団が模擬店を出して、外国スカウトや千葉地区スカウトが楽しむこともやってきた。この大会は大きな行事になるので地区委員会にてよく審議し、地区全体のコンセンサスを得てから具体的な計画を立てる。

2．9．6．さよならパーティー

受入期間の最終日の前夜にさよならパティーを開催することが慣例になっている。「千葉ナイト」とも呼んでいる。

先方の人達を客にしてホストスカウト、ホストファミリー、千葉地区役員や受け入れ関係者が参加する。

会場はホテルを使うことがある。豪華な会場で手数も省けてでよいが、費用が高い割には料理が少ない。時間制限もあって最後は物足りないような雰囲気になる。公共の会場を使う場合は、食事や飲み物の制限があって一長一短である。

内容はセレモニーが多くなり勝ちであるができるだけ皆で遊ぶようなプログラムとしたい。日本が側では挨

拶を少なくする。先方で要注意はフィリピンの場合、贈り物贈呈の時間が長くなる。できるだけ短時間で済ませる様に仕向けることが必要になる。

2．10．受入実施後

2．10．1．解隊式

ケソンの通常交流の場合は派遣と受入がセットになっているので派遣隊が受入隊になり、受け入れ事業が済んでから解隊式をする。ヒューストン派遣や他の受入とセットになっていない派遣では派遣実施後、1ヶ月以内を目処に解隊式をする。

解隊式では地区会長が指導者の委嘱を解任し、スカウトに対して隊長が解隊宣言をする。

2．10．2．反省会

解隊式には保護者も参加して頂くことが望ましい。解隊式は30分もあれば済んでしまうので、その後に派遣参加者と保護者及び地区関係者による反省会を開く。軽い食事をしながら隊長の感想、参加スカウトの感想、保護者の感想を述るプログラムを入れておく。ビデオがあればダイジェスト版を見せることもよい。写真も回覧し、注文を取るにもよい機会である。

この席で国際交流委員会は保護者に対して決算報告をし、承認を得ておく。予算が余ればこの席で返金してしまう。

2．10．3．地区への報告

受入事業が終了後の地区委員会にて簡単な報告書を作成して事業の終了報告をする。報告の中には決算報告も入れる。

2．10．4．千葉市への報告

ケソン受入事業は千葉市から補助金を頂いているので、事業実施後速やかに千葉市へ「社会教育団体事業実績報告書」を提出する。受入の実施前には派遣の場合と同様に一連の手続きをして補助金の交付を受けられる様にしておく。

2．10．5．実施記録書の作成

交流事業又は派遣事業が終了したならば3ヶ月程度の間に実施記録を作成する。これは派遣隊長の責任としているが、国際交流委員会も資料の提出や印刷のアドバイス等の支援をする。実施記録ができあがったならば地区委員会に提出して最終報告とする。実施記録は地区の控えの他、参加者や地区関係者に配布する。

この記録が後に貴重な国際交流資料になる。千葉地区ではこの記録書が多くあり地区の財産になっている。

3　ケソンとの交流

3．1．ケソンとの交流経緯と協定

3．1．1．ケソンとの交流経緯

ケソンとは1979年に交流使節団を派遣して以来20年の間に9回の派遣と受入の交流をしている。1999年には第10回記念交流が進められている。

1979年　　交流使節団を派遣

1980年　　第1回派遣

当初は先方の組織がメトロマニラ北部地区協議会（MMNC）であったので、ケソン市内のスカウトとだけ交流したのではなかった。

1981年　　第1回受入

1982年　第２回派遣
1983年　第２回受入
1984年　第３回派遣
1985年　第３回受入
1987年　第４回派遣
1988年　第４回受入
1990年　第５回派遣
1990年　第５回受入
1991年　第６回派遣
1992年　第６回受入
1993年　第７回派遣
1994年　第７回受入
1995年　第８回派遣
1996年　第８回受入
1997年　三角交流で受入

三角交流とは比国ケソンと米国ヒューストンの両方を同時に受け入れて第16回千葉県キャンポリーに参加したものである。

1997年　第９回派遣
1998年　第９回受入

３．１．２．千葉地区とケソン市協議会の協定

千葉地区とメトロマニラ北部協議会は1979年交流使団がケソンに行った時に交流についての協定を結んである。その後先方はケソン市だけの協議会になり、当方も四街道や東金が千葉地区から分離して組織の変更があった。協定は若干の補足などがあったものの継続している。このような基本をしっかりした交流が長い間の継続を可能にしたのであろう。

協定以外に20年間の間に協議したメモランダムもあり、これが協定を補足する形で両者の交流推進の基礎になっている。

３．１．３．組織規模の違いと派遣・受け入れ人数

千葉地区の登録者数は1300人程度である。その内で海外派遣参加資格を満たしているＢＳとＶＳは200人以下であろう。

ケソンでは学校にボーイスカウト組織がある。ケソン市協議会は東西南北の４地区に分かれている。ケソン市協議会では約13万人の加盟員がいる。

千葉とケソンの規模はこの様に大きな差がありながら対等に付き合うにはかなりの努力が要る。先方は多くの人数を派遣したいと考えている。千葉ではそれに応じきれない。そこで最大派遣人数を決めている。スカウトは８人の班を４個班と上級班長や隊付きで３名、合計35名を、指導者５名を最大人数としている。更にアドバイザーと称する地区役員等がが同行してくる。これを最大５名としている。先方はこの最大数を派遣したがっている。

一方、両者の派遣人数は同じ人数とし、千葉が先に派遣してそれに合わせた人数を先方が派遣することになっている。

交流の初期には最大数に近い人数で千葉地区は派遣したこともあったが、最近は20名以下のスカウト派遣になっている。先方は不満だが当方の実力を説明し、これを納得してもらっているのが実状である。

３．１．４．派遣と受入の時期

派遣は年末から正月にかけての日程の場合と冬休みに入って直ぐに出発し、年内に帰国する日程の２ケース

がある。最近では正月にかけての派遣が多かった。

両方のケースには夫々長短がある。

年末から正月にかけてのケースの長所は

①大人の休みが取れるので指導者が確保し易い。

②フィリピンの大晦日が体験できる。フィリピンの大晦日はユニークで面白い。

年末帰国のケースの長所は

①航空キップが取れ易く、価格が安価である。

②フィリピンのクリスマスが体験できる。ケソンの人達は90％以上がカソリック教徒である。

3．1．5．ビザの取得

15歳以下の者のフィリピンへの渡航はビザ（査証）が必要である。

ビザの取得までの手順の概要は

①日本のフィリピン大使館で査証取得の為の認証を取る。

②上記で取った認証を元に現地大使館にて「ＷＥＧ」を取得する。

③「ＷＥＧ」のコピーとレシートを元に日本の大使館にて査証の申請をする。

である。

必要書類は

・同意書

・申請書

・写真（３枚……3.5×4.5）

・本人のパスポート

・両親どちらかのパスポートのコピー（同意書のサイン記入者）

・同行者（ＢＳのリーダー）のパスポートのコピー

申請費用は7200円

申請から取得までの期間は３日間である。

認証取得には現地からの「招聘状」が必要である。

3．1．6．感謝状

ケソンとの交流ではお互いのホームステイ先に感謝状を出している。ケソンでお世話になった時には千葉地区からホストファミリーに感謝状[*1]を、千葉地区でお世話した時にはケソン側が千葉地区のホストファミリー[*2]に感謝状をだしている。感謝状は派遣又は受入の最後の時に行われるさよならパーティーで渡している。

4　ヒューストンとの交流

4．1．ヒューストンとの交流経緯

ヒューストンとは1984年に第１回派遣以来６回の派遣と２回の受入をしている。

1984年	第１回派遣	第２回インターナショナルエンキャンプメントに参加
1991年	第２回派遣	ヒューストン市国際フェスティバル（日本がテーマ）に参加
1992年	第３回派遣	第６回インターナショナルエンキャンプメントに参加
1993年	第４回派遣	第７回インターナショナルエンキャンプメントに参加
1994年	第１回受入	第15回千葉県キャンポリーに参加

*1 ケソンホストファミリーへの感謝状：資料－30

*2 千葉地区ホストファミリーへの感謝状：資料－31

1996年　第５回派遣　ヒューストン80団招待の派遣
1998年　第２回受入　第16回千葉県キャンポリーに参加
ケソンも受入の三角交流
1984年　第６回派遣　ヒューストン80団招待の派遣

４．２．派遣と受入

４．２．１．派遣の時期

ヒューストンへの派遣派遣は日本が夏休みに入ったならば直ぐに派遣とする。ヒューストンでは８月に入ると夏休みが終り新学年の学期が始まる。７月下旬が双方にとって最適である。

４．２．２．受入の時期

ヒューストンからは今まで千葉県キャンポリーに参加を主なプログラムとする受入をしてきた。今後も県キャンポリーの時には招待することになるであろう。

４．３．健康診断書

ヒューストン協議会が主催したインターナショナルエンキャンプメントに参加の時には先方の様式による健康診断書が必要であった。この様式は米国の共通健康診断様式のようである。健康診断の様式は成人用とスカウト用がある。

この英語の様式で健康診断書を作成するには特定の病院に事情を話してこの様式による健康診断と記入を以来しておく。派遣参加にはその病院に行って健康診断を受る様に指示する。

5　千葉県連盟・日本連盟・千葉市主催の海外交流

５．１．募集周知と派遣選考

５．１．１．地区内への募集周知方法

千葉地区主催外の海外派遣の案内が千葉地区に届いたならば国際交流委員会は地区としての要件そ記載した文書を作成し、添付して地区内各団へ配付する。

千葉地区としての要件は

①地区への提出期限

②書類審査と面接で判定し地区推薦

である。

５．１．２．参加応募者の選考

応募者があれば国際交流委員による書類審査と地区面接委員による面接により選考し、推薦可否を決める。

５．２．千葉県連盟主催の派遣事業

千葉県連盟主催の派遣事業にはフィルモント派遣と日米フレンドシップパトローリー大会がある。

５．２．１．フィルモント派遣

ＶＳを対象とした米国ニューメキシコ州のフィルモント派遣が毎年ある。

5．2．2．日米フレンドシップパトローリー大会

ボーイスカウトアメリカ連盟極東地方協議会日本地区が主催し、ボーイスカウト日本連盟は参加者を派遣する形で毎年行われる。千葉県連盟には4個隊40名の割り当てであるので各地区持ち回りになっている。千葉地区は市川浦安地区、八千代習志野地区と一緒のグループになり、4年に1回順番が廻ってくる。開催時期は3月か4月で、期間は2泊3日である。開催場所は在日米軍基地内である。

千葉地区では地区内各団に派遣参加者を募集して、各団の応募者による混成隊で参加する。千葉地区の割り当ては2個隊20名程度である。

5．3．日本連盟主催の海外交流

日本連盟主催の海外旅行会社交流事業は毎年スカウティング誌1月号に「平成○○年度国際交流時事業計画(案)」「通報のあった海外スカウト行事」として予告される。

募集時期になると募集案内が送付されてくるので前記の方法で地区内に周知する。

5．4．千葉市主催の海外交流

千葉市主催の交流事業として「青少年及び青少年指導者会が派遣」があり、ボーイスカウト千葉地区から推薦して略毎年1名の若い指導者を参加させている。

6　国際交流委員会組織と役割

6．1．千葉地区国際交流委員会組織と役割

千葉地区国際交流事業が今までに実績をあげ、継続させられているのは幾つかの要素がある。その一つに国際交流事業をを組織的に推進していることが挙げられる。

千葉地区の国際交流事業は国際交流委員会が担当している。平成11年度の国際交流委員会メンバーは6人である。夫々が役割を持って活躍している。年度の初めに委員の役割分担をはっきり決めておくことが大切である。

6．2．国際交流事業の為の特別組織

外国から派遣団を受け入れる時には大きなパワーが必要になる。その為に地区全体の事業として推進する地区委員長直轄の特別委員会を設けて対処している。

7 資　料

1）国際交流事業中期計画
2）平成10年度活動計画と実績
3）平成11年度事業方針等（総会資料掲載用）
4）'99ヒューストン派遣事業計画書
5）海外派遣事業費用負担の考え方
6）'99ヒューストン派遣実施要項
7）'99ヒューストン派遣指導者及びスカウト募集
8）海外派遣参加申込書（スカウト用）
9）委嘱状
10）海外派遣参加申込書（指導者用）
11）海外派遣参加スカウト選考面接要領
12）海外派遣面接記録
13）結隊式次第
14）結団式次第
15）スカウトの海外旅行申請書
16）Re : BSN Authorized Overseas Scout Tours
17）LETTER OF INTRODUCTION
18）共催（後援）承諾申請書
19）社会教育関係団体事業補助金交付申請書
20）社会教育関係団体事業補助金一括（分割）事前交付請求書
21）在校生の海外旅行の届け出
22）健康調査書・健康診断書の提出について
23）海外派遣用健康診断票
24）健康診断データについて（御願い）
25）海外旅行の行動報告書サンプル
26）社会教育関係団体事業実績報告書
27）千葉・ケソン第10回記念受け入れプログラム（案）
28）第９回フィリピン受入千葉地区スカウト全体交歓会
29）第９回フィリピン受入組織
30）ケソンホストファミリーへの感謝状
31）千葉地区ホストファミリーへの感謝状

国際交流事業中期計画

ＢＳ千葉地区国際交流委員会
1998年4月作成

西暦（和暦）	1998年（Ｈ１０）						1999年（Ｈ１１）						2000年（Ｈ12）						2001年（Ｈ１３）						2002年（Ｈ１４）					
月	1	3	4	6	7	9	10	12	1	3	4	6	7	9	10	12	1	3	4	6	7	9	10	12	1	3	4	6	7	9	10	12
地区年度	平成10年度								平成１１年度								平成１２年度								平成１３年度							
日連・県連行事					フィルモント 12NJ								フィルモント								フィルモント 5NV						フィルモント 17CC			
フィリピン ケソン派遣															派遣														派遣			
フィリピン ケソン派遣			受入																受入								三角交流 受入					
ＵＳＡ ヒューストン派遣													派遣																			
ＵＳＡ ヒューストン受入																											三角交流 受入					
備　考																																

平成１０年度活動計画と実績

千葉地区国際交流委員会

No.	活　動　計　画	活　動　実　績	成果・反省
1	第９回フィリピン受け入れ	H10.7.24～H10.7.30 アドバイザー４名、リーダー３名、 スカウト１５名受け入れ	計画通り実施
2	第10回フィリピン派遣の検討	基本計画を立案し，地区協議会で推進が承認された。	先方と合意 順調に推進中
3	ヒューストン派遣の検討	基本計画を立案し，地区協議会で推進が承認された。	先方と合意 順調に推進中
4	日本連盟海外派遣、 千葉県連盟海外派遣、 千葉市海外派遣等の紹介と参加支援	a 第１９回世界ＪＢ参加 鈴木副コミ、15 団金井 b.アジア太平洋ＪＢ参加 14 団安部直人、安部正人、重田 c.フィルモント派遣 １団卯田、大谷、14 団服部、斎藤、 15 団三好 d.日米フレンドシップパトローリー大会 参加 30 名 e.千葉市青少年指導者海外派遣 14 団中村	主要なものには参加している. 参加後のフォローが充分でない.
5	国際交流座談会の開催	H10.9.27 実施　参加者１９名	原稿化が遅れている.
6	国際交流マニュアルの作成	推進中	遅れている.
7	国際交流史の作成	推進中	遅れている.
8	海外派遣指導者の発掘と養成	ヤング指導者 14 団中村、９団渡邊、18 団若松の発掘と養成ができた。 熟年指導者発掘は不活発であった。	ヤング３名の発掘に留まった。
9	千葉地区国際交流委員会組織の強化	実活動する高倉委員、塩崎（雅）委員が加わった。	パワー強化は進んだ。 後継者養成は不足。
10	その他	a.H11.2.21 ちば市ふれあい国際フェスティバル参加	毎年参加できている.
	総合コメント	事業は概ね計画通り実施できたが、体質強化の活動は今一歩の感であった.	

平成１１年度事業方針等（総会資料掲載用）

国際交流委員会

平成１０年度事業報告

第９回フィリピン受け入れを７月２４日から７月３０日までの日程で実施した。この際、次回の第１０回交流は通常の交流だけでなく特別の交流団を加える等の記念交流にすることが確認された。千葉地区外の事業ではフィルモントに５名、アジア太平洋ＪＢに３名、第１９回世界ＪＢに２名（鈴木副コミ含む）が派遣に参加した。千葉市青少年指導者海外派遣にも１名が参加した。ちば市国際ふれあいフェステバルにも例年通り参加した。

国際交流史に記載する為の座談会を開催する等、国際交流史編纂の準備を推進した。

事業実施記録

７月・２４日～３０日　第９回フィリピン受け入れ
８月・１日　ＵＳＡの１２ＮＪ参加隊歓迎パーティー参加
　・30 日　フィリピン交流隊解隊式と反省会
９月・27 日　国際交流座談会
11 月・７日～８日　国際交流セミナー
２月・21 日　ちばし国際ふれあいフェスティバル
３月・27 日　日米フレンドシップパトローリー訓練会
　・25 日　総務庁青少年国際交流事業参加者面接

平成１１年度事業方針

活発に展開されている千葉地区の国際交流を維持する。更に国際貢献を目指した質的な発展をする時代になっているので対応していく。

ケソンとは１０回目の記念交流になるので、千葉地区全団から参加したフルメンバーの４０名で派遣隊を編成したい。ヒューストンにも１２名の派遣をして交流の継続をする。

日連、県連の国際交流事業や行政の国際交流事業も確実に各団に紹介して地区スカウトに広く国際交流の機会を与える。

県連 50 周年事業に国際色を持たせる活動をする。

今年度には国際交流史を発行する。

平成１１年度重点実施事項

・千葉ケソン第１０回記念交流
・'99ヒューストン派遣
・日連、県連の国際交流事業や行政の国際交流事業の紹介
・国際交流史編纂
・海外派遣指導者の発掘と養成
・千葉地区国際交流組織の強化

平成 11 年度と 12 年度前半の予定

平成 11 年度

4 月	日米フレンドシップパトローリー大会参加
7 月	'９９ヒューストン派遣
11 月	県連 50 周年事業
12 月	第 10 回千葉・ケソン記念交流派遣
2 月	ちばし国際ふれあいフェステバル

平成 12 年度

4 月	ケソン受け入れ
5 月	同上
その他	毎月定例に委員会会議を開催する。

予算

千葉・ケソン記念交流事業の通常派遣	500,000
千葉・ケソン記念交流事業の特別派遣	800,000
'９９ヒューストン派遣	200,000
国際交流委員会経費	40,000
国際交流史編纂	200,000

'９９ヒューストン派遣事業計画書

ボーイスカウト千葉地区国際交流委員会

[経緯]

１９８４年にボーイスカウト千葉地区協議会は米国テキサス州ヒューストン市へ指導者２名とスカウト４名を派遣した．これがヒューストンへの最初の派遣であった．この時はボーイスカウトヒューストン協議会が主催した第２回インターナショナルエンキャンプメントに参加している。

その後、ヒューストン市国際フェスティバルに参加を主にした派遣や第６回、第７回インターナショナルエンキャンプメントに参加する派遣をしてきた。数年前からボーイスカウトヒューストン協議会はインターナショナルエンキャンプメントを開催しなくなった。

千葉地区では‘９４年８月に第１５回千葉県キャンポリーに参加を主としたプログラムでヒューストンからの派遣隊を受け入れた．最初の受け入れの時に来日したヒューストン 80 団のビル・パターソン氏が尽力し、ヒューストンへの千葉地区派遣は継続している．第２回目の受け入れは第１６回千葉県キャンポリーに参加するプログラムを主として実施した．第２回目の時は、ケソンからの受け入れも同時に実施して、初めての２カ国からの受け入れ、即ち三角交流が実現した。

今回の派遣は第６回目のヒューストン派遣になる．先方の受入組織はヒューストン 80 団になるであろう。

[ねらい]

ヒューストンとの交流は千葉地区国際交流の二本柱の一つであり、千葉地区スカウトに国際交流の機会を提供する為にも継続していきたい。

[派遣の時期]

派遣　１９９９年７月２５日頃～１９９９年８月５日頃

備考：先方からの受け入れは現時点では考慮していない。双方の意向が一致すれば、２０００年に受け入れを実施することもあると予測される。

[派遣の規模]

指導者：２名

スカウト：１０名～１２名

[費用負担の考え方と予算案]

前回（'９６年派遣）と同様に千葉地区事業費として２０万円を計上する。この金額は主に指導者の航空運賃補助と千葉地区としての交流経費に当てる。

スカウトは実費負担とする。

備考：前回派遣はスカウト参加費 25 万円、指導者参加費１２万円

[推進スケジュール]

先方と交信および具体的な詰め

～２月　当方派遣スケジュールの提案と当方準備スケジュールの通知

その後、順次交信して詳細を詰めていく。

地区内ＰＲ

地区委員会・協議会

毎月の会議で情報を報告し、地区内の支援を得ていく。必要な事項は承認を得る。

ＲＴ

３月の全体会にて海外交流をＰＲする時間を割いて頂き、啓蒙を図り、指導者自身の派遣応募とスカウトの応募支援を依頼する。

指導者募集

～２月末　募集要項作成、配布

～３月末　指導者決定

スカウト募集

～３月末　募集要項作成、配布

～４月末　派遣スカウト決定

訓練

５月～７月

派遣

７月２５日頃～

海外派遣事業費用負担の考え方
（第9回ケソン派遣）

負担者	負担単価	人数	金額		単価	人数	支出額	摘要
指導者	110,000	5	550,000	a	70,000	5	350,000	指導者航空運賃
				ア	70,000	5	350,000	
スカウト	190,000	15	2,850,000	A	140,000	15	2,100,000	スカウト航空運賃
地区補助金	500,000	1	500,000	b	10,000	5	50,000	保険・空港使用料
				B	10,000	15	150,000	
				C	10,000	15	150,000	事前訓練費
				c	30,000	5	150,000	諸経費
				D	30,000	15	450,000	
				イ	150,000	1	150,000	
	合計		3,900,000		合計		3,900,000	

'９９ヒューストン派遣実施要項

ボーイスカウト千葉地区協議会

[派遣先]
ボーイスカウトアメリカ連盟ヒューストン地区

[派遣の日程]
１９９９年7月２４日（土）～１９９９年8月２日（月）　１０日間

[派遣の規模]
指 導 者：２名
スカウト：１２名

[派遣時の主な内容]
先方のスカウトとキャンプ
ホームステイ
市内観光

[参加費]
指 導 者：１５万円程度
スカウト：３０万円程度

[派遣者条件]
指導者
① ウッドバッジ研修所修了者
② 心身の健康な者
③ 派遣に必要な英会話ができる者
④ 派遣期間の他数回の事前訓練が実施できる者

スカウト
① ベンチャースカウト
派遣時にベンチャー章を修得してい者
② ボーイスカウト
派遣時に中学２年生以上で１級以上の者

備考：先方からの受け入れは現時点では予定していない。双方の意向が一致すれば、２０００年に受け入れを実施することもある。

以上

平成11年3月16日

団委員長各位
ベンチャー隊長
ボーイ隊長

ボーイスカウト千葉地区
地区委員長　　塩崎達也
国際交流委員長　野村茂樹

'９９ヒューストン派遣指導者及びスカウト募集

ボーイスカウト千葉地区では平成11年度事業として米国ヒューストンにスカウト隊の派遣を実施します。

つきましては、同派遣指導者及びスカウトを下記により募集致します。各位におかれましては派遣の意義を理解され、多数応募して下さる様お願いし、お知らせいたします。

記

派遣事業の内容

別紙「'９９ヒューストン派遣実施要項」に示す。

募集人員

指 導 者：隊長１名　副長１名　計２名

スカウト：１２名

応募資格

別紙「'９９ヒューストン派遣実施要項」に示す。

応募方法

次の書面を地区事務局へ提出する。

指導者

① 「海外派遣参加申込書（指導者用）」

スカウト

① 「海外派遣参加申込書（スカウト用）」

② 作文　４００字詰め原稿用紙２枚　題は自由　内容は派遣に関する抱負等

応募期限

指 導 者：平成11年4月15日

スカウト：平成11年4月30日

参加費

指 導 者：１５万円程度

スカウト：３０万円程度

以上

海外派遣参加申込書（スカウト用）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿派遣
（派遣事業名を記入する）

標記の派遣に参加いたしたく、関係書類をそえて申し込みます。

平成　年　月　日　本人＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

上記の者の参加することを承認します。

保護者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

写　真
3cm×4cm
正面、上半身、無背景
脱帽、ユニフォーム着用
3ヵ月以内に撮影したもの

連盟	種別	スカウト・ローバースカウト	県連推薦順位	位	平成　年　月撮影

本人	ふりがな 氏名		生年月日	昭和　年　月　日生（満　才　月）	
	スカウティングの所属役務	連盟　第　団　隊	登録番号	□□□－□□□□□□	
	ふりがな 現住所	〒	☎	（　）－	
	本籍		宗教		
	在学学校名（又は勤務先）所在地	（　）立　学校　第　学年	☎	（　）－	
保護者	ふりがな 氏名	年令	職業	続柄	
	ふりがな 現住所	〒	☎	（　）－	

登録歴（経験した役務）		進歩歴	
初期登録	年　月　日	初級	年　月
ビーバー隊	年　月～　年　月（　）	2級	年　月
カブ隊	年　月～　年　月（　）	1級	年　月
ボーイ隊	年　月～　年　月（　）	菊	年　月
シニアー隊	年　月～　年　月（　）	グリーン・シニアー章	年　月
ローバー隊	年　月～　年　月（　）	シニアー章	年　月
備考（移動、表彰、海外派遣参加、国際交流の経験等）		隼	年　月
		富士	年　月

取得特修章	
取得技能章	
趣味・特技	

H6.9.4,000(博)

応募の理由	
主な訓練行事参加歴	
団隊推薦	

上記の者の参加を適当と認め、推薦します。

＿＿＿＿連盟＿＿＿＿第＿＿＿＿団　団委員長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

＿＿＿＿＿＿＿＿隊　隊　　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

＿＿＿＿＿＿＿＿地区　地区委員長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

地区コミッショナー＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

県連盟推薦理由	

上記の者を選考の結果、参加者として適当と認め推薦します。

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿連盟　事務局長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

県コミッショナー＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

理　事　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

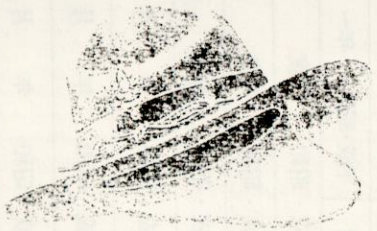
連　盟　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

委　嘱　　状

平田　玲子　殿

貴方を第10回ケソン派遣隊

副長に委嘱します



平成11年10月23日

ボーイスカウト千葉地区

地区協議会長　島　孝之

ボーイスカウト日本連盟

海外派遣参加申込書（指導者用）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿派遣

標記の派遣に参加いたしたく、関係書類を添えて申し込みます。

平成　　年　　月　　日　本人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

写　真
3 cm × 4 cm 程度
正面、上半身、無背景
脱帽、ユニフォーム着用
（３カ月以内に撮影したもの）

連盟	種別	団長・隊長・隊指導者	県連推薦順位	位	平成　年　月撮影

ふりがな 氏名		生年月日	大正 昭和　年　月　日生 （満　才　月）
スカウティングの所属及び役務	連盟　第　団　隊　役務 他の役務：	登録番号	□□□□－ □□□□□□
ふりがな 現住所	〒	☎	（　） －
本籍		宗教	
勤務先（又は在学学校）所在地	〒	☎	（　）
最終学歴	大正 昭和 平成　年　月		校（卒・中退）

	種別		期間	団名	最高到達進歩章
登録歴	スカウト	カブ隊	平成・昭和　年～　年	連盟　第　団	
		ボーイ隊	平成・昭和　年～　年	連盟　第　団	
		シニアー隊	平成・昭和　年～　年	連盟　第　団	
		ローバー隊	平成・昭和　年～　年	連盟　第　団	
	指導者		平成・昭和　年～　年	連盟　第　団	

指導者所属役務歴（過去3カ年）	平成・昭和　年度	
	平成・昭和　年度	
	平成・昭和　年度	

指導者研修歴	講習会	平成・昭和　年　月	課程（主催県連盟：　）
	研修所	平成・昭和　年　月	課程　第　期（所長：　）
	実修所	平成・昭和　年　月	課程　第　期（所長：　）
	その他		

H6. 9. 2,000(博)

応募の理由	
主な参加行事・奉仕歴	

団隊推薦	

上記の者の参加を適当と認め、推薦します。

＿＿＿＿連盟＿＿＿＿第＿＿＿＿団　団委員長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

＿＿＿＿地区　地区委員長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

地区コミッショナー＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

県連盟推薦	

上記の者を選考の結果、参加者として適当と認め、推薦します。

平成　　年　　月　　日

事務局長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

＿＿＿＿連盟　県コミッショナー＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

理事長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

連盟長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

海外派遣参加スカウト選考面接要領

ボーイスカウト千葉地区国際交流委員会

面接の目的

１．応募スカウトの状況（意欲、希望、性格、スカウト活動、学校、部活、etc）を把握し、

a.派遣合否の判定資料とする。

b.隊、班編成の参考資料とする。

c.今後の派遣隊での活動時、参加スカウトの指導や支援の参考資料とする。

２．参加スカウトに派遣隊での活動意欲を一層高めさせる。

３．参加スカウトに面接時点で派遣の為の適切な助言を与え、必要な準備や心構えをさせる。

面接委員

派遣隊長、地区コミッショナー、国際交流委員長、その他とする。

控え室面接準備

・被面接スカウトが多い場合は時差をつけて集合時刻を指定し、待機時間を少なくする。

・国際交流委員が一人世話役として控え室に居る。

・集合したスカウトを控え室に待機させる。

・スカウトにスカウト手帳（進歩記録帳・登録証を挟んでおく）を準備させる。

・順番を指定し面接室に行くように指示する。

面接室面接準備

・応募者の提出した参加申込書と作文をコピーし、面接委員は目を通しておく。

・各面接委員の質問役割を決めておく。

・面接委員は面接記録用紙に記録できる様に準備しておく。

面接室に入って

①起立のまま名前を言わせる。

②スカトサインをし、ちかいとおきてを言わせる。面接委員も起立してスカウトサインをする。

③着席させる。

④進歩記録帳を提出させる。

⑤面接委員が自己紹介する。

質問

質問者	No.	質　問　内　容
	1	ちかいをたてた日を言って下さい。君の宗教は何ですか。
	2	英語で自己紹介をしてください。
	3	所属団、隊、役務、級を言ってください。
	4	君の今回派遣参加応募の動機を言って下さい。
	5	今回の派遣先名、派遣期間を知っていますか。派遣先は何処にありますか。
	6	部活は何をやっていますか。塾に行っていますか。
	7	派遣実施までに訓練隊集会を開きますが、部活や塾と重なった場合に調整はどの様にしますか。 所属原隊の集会と重なった場合は派遣隊訓練を優先させてください。
	8	自分の性格を言って下さい。自分の長所をあげてみてください。
	9	特技がありますか。それは何ですか。
	10	派遣実施の時、どの様に心掛けて行動しますか。
	11	先方のスカウトなどに日本をどの様に紹介しますか。
	12	何か質問はありますか。不安なことはありますか。

海 外 派 遣 面 接 記 録

派遣事業名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

面接日時：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　面接委員名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No.	氏　名	団　名	学年	級	意　欲	部　活	塾	性　格	特　技	その他記事・印象	判定 ◎○△×
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											

資料－１２

結　隊　式　次　第

項　　目	担　当	備　　考
準備		国旗掲揚
司会進行	高倉	
集合	亀井	U字形に　　保護者は後ろに

開会の言葉	高倉	
国旗儀礼	高倉	
ソング	小林	連盟歌斉唱
会長挨拶	島	
国際交流委員会委員長挨拶	野村	
派遣団長の紹介	高倉	
隊長・副長任命	島	隊長と副長は前に　　委嘱状を渡す
派遣候補者発表	野村	名簿により発表
隊旗授与	島	地区旗を隊長に渡す　　地区旗用意
隊長挨拶	鎗田	
スカウト決意表明	代表	事前に指名し、伝えておくておく
国際交流委員会委員長挨拶	野村	
閉会の言葉	高倉	

結 団 式 次 第

項　　目	担当	備　　考
準備		国旗掲揚
司会進行	高倉	
集合	塩崎	U字形に　　保護者は後ろに

開会の言葉	高倉	
国旗儀礼	司会	
ソング	小林	I'v got that B-P spirit
会長挨拶	島	
地区委員長挨拶	吉成	
副長任命	島	塩崎副長は前に　　委嘱状を渡す
派遣スカウト訓練結果報告と派遣許可申請	板垣	板垣隊長が島会長に報告と申請
ネッカチーフ授与	野村	ネッカチーフをスカウトに掛けてあげる。　　予め巻いておく
コミッショナー激励の言葉	近藤	
閉会の言葉	高倉	

スカウトの海外旅行申請書

県連盟：千葉	主催者：千葉県連盟千葉地区
事業名：千葉・ケソン 10 回記念交流	
目的：フィリピンケソン協議会ボーイスカウトと千葉地区ボーイスカウトが交流することにより、スカウトの国際性涵養を図る。今回は第 10 回の記念交流になるので、地区役員や今までにこの交流に関わったスカウターで成人の特別交流団も同時に派遣し、21 世紀の国際交流について意見交換をする。	
期間：平成 11 年 12 月 24 日（金）~平成 11 年 12 月 31 日（金）	
参加者　通常派遣団：30 名 特別派遣団：20 名 合計　50 名	
引率責任者（研修歴等）　通常派遣団：小林孝一（ＷＢ実修所ＢＳ課程） 特別派遣団：島孝之（ＷＢ研修所ＢＳ課程・地区協議会長）	
参加費　通常派遣団：15 万円／人 特別派遣団：18 万円／人	
旅程及び計画 通常派遣団：平成 11 年 12 月 24 日（金）成田空港発 同日マニラ空港着　ケソン市へバスにて移動・着 キャンプ２泊３日 ホームステイ５泊４日 平成 11 年 12 月 31 日（金）マニラ空港発 同日成田空港着 詳細のスケジュールを別紙に示す。	
派遣スカウト資格についての承認申請：添付別紙に申請内容を示す。	
県連盟の承認：	申請：平成 11 年 10 月 14 日

COPY

National Association
BOY SCOUTS OF NIPPON
4-11-10, Osawa, Mitaka-shi, Tokyo 181 Japan
Telephone : +81-422-31-5161
Cables : NIPPONSCOUT, MITAKA
Facsimile : +81-422-32-0010

December 4, 1995

Mr. Maximino J. Edralin, Jr
International Commissioner
Boy Scouts of the Philippines
P.O. Box 1378
Manila, Philippines

Fax: 0061-63-2-5300080

Dear Mr. Edralin,

Re: BSN Authorized Overseas Scout Tour

I am pleased to inform you that members of Chiba Disrict, Chiba Scout Council will visit your country from 29 December 1995 to 4 January 1996, with the approval of the Boy Scouts of Nippon.

The group consists of 12 Scouts and 5 leaders, and led by Mr. Shoji TAKAHASHI, Vice-Chairman of the District Committee.

During their stay in your country, they will have camp program and home hospitality program in Quezon City to be arranged by the following Scouters of the Quezon City Council, BSP.

Mr. Ramon Bu Mathay, Council Chairman
Mr. Manuel S. Salunbides, Council Scout Executive
(Telephone: 99-86-26/921-8988)

It will be appreciated if you would share the informations with them to extend usual Scout courtesy to the visiting group.

With best wishes.

Yours sincerely,

Yoshitada Ishikawa
National Secretary

YI/mh

c.c. : Quezon City Council

No 12485

BOY SCOUTS OF NIPPON
National Headquarters
No. 11-30, 1-chome, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181
JAPAN

Dec. 13, 1995
Date issued
Date d'émission
Fecha de expedición

Jan. 4, 1996
Date of Expiration
Date d'expiration
Fecha de expiración

This letter is to introduce / Cette lettre est pour présenter / Esta carta es para presentar

Goodwill Visit to Philippines
Chiba District
Chiba Scout Council

Led by Mr. Shoji TAKAHASHI

Who is a member in good standing of the following national Scout organization: / Qui est membre de l'Organisation scoute nationale suivante: / Quien es un miembro oficial de la siguiente Organización Scout Nácional:

Boy Scouts of Nippon

Please extend to him or her a Scouting welcome. / Veuillez lui donner un accueil fraternel. / Le rogamos brindarle una cordial bienvenida Scout.

in Philippines

International Commissioner
Commissaire international
Comisionado Internacional

T Yo Yoshida
Ko Yoshida

(signature of bearer)
(signature du porteur)
(firma del titular)

This International Letter of Introduction is issued only by national Scout organizations which are recognized by the World Organization of the Scout Movement. These organizations represent more than 16 million Scouts in more than 150 countries and territories.

Letters of Introduction are issued only for members of national Scout organizations who will be travelling in other countries. It is not a Scout membership certificate.

Seules les organisations scoutes nationales qui sont reconnues par l'Organisation mondiale du Mouvement scout peuvent fournir une lettre internationale de recommandation. Ces organisations représentent plus de 16 millions de scouts dans plus de 150 pays et territoires.

Les lettres de recommandation sont établies seulement pour les membres des organisations scoutes nationales qui voyagent à l'étranger.

Esta Carta Internacional de Presentación es emitida solamente por las Asociaciones Scouts Nacionales que están reconocidas por la Organización Mundial del Movimiento Scout. Estas organizaciones representan más de 16 millones de scouts en 150 países y territorios.

Las Cartas de Presentación son emitidas solamente para los miembros de las Organizaciones Scouts Nacionales que piancan viajar a otros países.

World Scout Bureau
Bureau mondial du Scoutisme
Oficina Scout Mundial

Geneva — Genève — Ginebra

フィリピン連盟
Boy Scouts of the Philippines
National Headquarters
181 Concepcion Street
Ermita, Manila
Philippines
Tel: +63-2-47-1051
Fax: +63-2-528-0577

Note to the Bearer

The only purpose of this Letter of Introduction is so that you will be able to identify yourself to fellow Scouts in countries you are visiting. It conveys no special privileges, including any entitlement to hospitality. (As a souvenir of your trip, you may wish to collect signatures or Scout stamps on this page.)

Remarque au porteur

Cette lettre de recommandation sert à établir l'identité du voyageur auprès des compagnons scouts des pays qu'il visite. Elle ne lui donne aucun droit à des privileges particuliers ni à l'hébergement. (En souvenir de votre voyage, vous souhaiterez peut-être récolter des signatures ou des timbres scouts sur cette page.)

Nota al Portador

El único objetivo de esta Carta de Presentación es la de ofrecerle la oportunidad de identificarse a los hermanos scouts que encuentre en los países que visite. No confiere ningun privilegio especial, ni derecho alguno a esperar hospitalidad. (Como un recuerdo de su visita, quizás le interese obtener firmas o matasellos Scouts en esta página.)

LETTER OF INTRODUCTION
LETTRE DE RECOMMANDATION
CARTA DE PRESENTACION

WORLD ORGANIZATION OF THE SCOUT MOVEMENT
ORGANISATION MONDIALE DU MOUVEMENT SCOUT
ORGANIZACION MUNDIAL DEL MOVIMIENTO SCOUT

様式第１号

~~共催~~（後援）承認申請書

平成 11 年 11 月 4 日

（あて先）千葉市教育委員会

団　体　名　ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区
代表者氏名　会長　島　孝之　　印
住　　所　〒260-0018 千葉市中央区院内 1-15-3
千葉市社会センター内
電　　話　043-224-3982

下記の事業~~共催~~（後援）を承認されるよう申請します。

記

1	事業の名称	千葉・ケソン第 10 回記念交流事業
2	主催者・後援者名	主催　ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区 後援　千葉市教育委員会
3	行事の主旨	千葉地区ボーイスカウトと千葉市の姉妹都市であるフィリピン国ケソン市協議会のボーイスカウトと第10回目の国際親善記念交流（今回は派遣）
4	日程・場所・内容	日程　平成 11 年 12 月 24 日～平成 11 年 12 月 31 日 場所　フィリピン国　ケソン市 内容　キャンプ 2 泊 3 日　ホームステイ 5 泊 5 日
5	参加者予定数・参加方式 対象・参加費の有無 その他	参加者予定数　24 名 千葉市内 17 個団のスカウト（中学生以上で 2 級以上）リーダー及び地区関係者 参加費　　有
6	広報の方法 （ポスター、チラシ等）	地区内各団に文書にて通知

様式第１号

社会教育関係団体事業補助金交付申請書

平成 11 年 11 月 4 日

（あて先）千葉市長

申請者住所　〒260-0018 千葉市中央区院内 1-15-3
千葉市社会センター内　℡043-224-3982
氏名又は団体名　ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区
及び代表者氏名　会長　島　孝之　　印

平成 11 年度社会教育関係団体事業補助金の交付を受けたいので、
千葉市補助金等交付規則第 3 条の規定により、次のとおり申請します。

事業名		千葉・ケソン第 10 回記念交流事業
補助事業の目的及び内容		目的：千葉地区ボーイスカウトと千葉市の姉妹都市であるフィリピン国ケソン市協議会のボーイスカウトと第10回目の国際親善記念交流（今回は派遣） 内容：キャンプ 2 泊 3 日　ホームステイ 5 泊 5 日　8 日間
補助金申請額		金
交付を受けたい時期		年　月　日
補助事業	開始予定年月日	平成 11 年 12 月 24 日
	終了予定年月日	平成 11 年 12 月 31 日
添付書類		1．事業計画書及び収支予算書（別紙）

様式第７号

社会教育関係団体事業補助金一括 ~~(分割)~~ 事前交付請求書

平成 11 年　　月　　日

（あて先）千葉市長

補 助 事 業 者
住　　所　〒260-0018 千葉市中央区院内 1-15-3
千葉市社会センター内℡043-224-3982
氏名又は団体名　ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区
及び代表者氏名　会長　島　孝之　　印

平成　　年　　月　　日付　　指令第　　号により補助金交付決定のあった補助金の一括 ~~(分割)~~ 事前交付を次のとおりうけたいので、千葉市補助金等交付規則第 16 条第 2 項において準用する同第 1 項の規定により請求します。

補助事業名	千葉・ケソン第 10 回記念交流事業
補助金の交付決定額	金
補助金の既交付額	年　月　日　円 年　月　日　円 計　円
今回の交付請求額	金
添付書類	１．社会教育関係団体事業補助金決定通知書の写し

資料－２１

平成11年6月　日

学校校長殿

ボーイスカウト千葉地区

協議会長　　島　孝之

在校生の海外旅行の届け出

拝啓

梅雨の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴校在校生＿＿＿＿＿＿君はこの度ボーイスカウト千葉地区の海外派遣者に選ばれ、海外旅行をしますので届け出を致します。

ボーイスカウト千葉地区は米国テキサス州ヒューストン市のボーイスカウトと交流のため、同市へボーイスカウト隊を派遣します。派遣隊スカウトは同年代の先方スカウトとキャンプしたりホームステイをさせて頂いて有意義な交流をして参ります。

ヒューストン市は千葉市の姉妹都市であります。派遣隊はヒューストン市長を表敬訪問することになっており、その際松井旭千葉市長のメッセージを先方市長にお届け致します。

旅行の概要を下記に示します。

敬具

記

日　　程：平成11年7月24日（土）から8月3日（火）

旅　行　先：米国テキサス州ヒューストン市

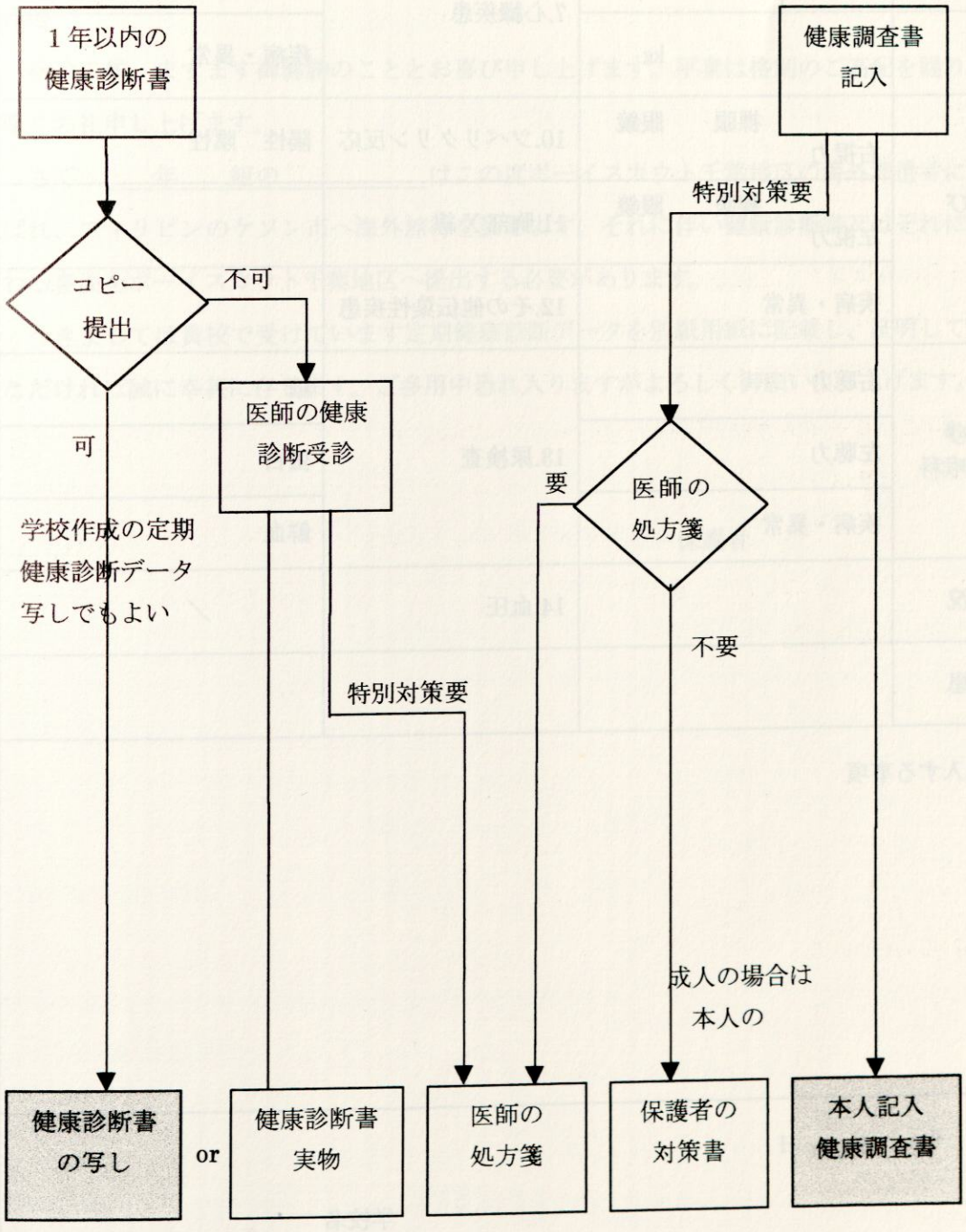
派遣隊規模：指導者１名　スカウト８名　合計９名

以上

海外派遣参加者

健康調査書・健康診断書の提出について

ボーイスカウト千葉地区
国際交流委員会



ボーイスカウト千葉地区様式　ランクＡ

海外派遣用健康診断票

平成　　年　　月　　日　現在

氏　名		年　度	平成　　年度
1.身　長	cm	7.心臓疾患	心電図
2.体　重	kg		疾病・異常
3.視力及び眼科	裸眼　　眼鏡 右視力	10.ツベリクリン反応	陽性　陰性
	裸眼　　眼鏡 左視力	11.胸部Ｘ線	
	疾病・異常	12.その他伝染性疾患	
4.聴力及び耳鼻咽喉科	右聴力	13.尿検査	糖
	左聴力		蛋白
	疾病・異常		鮮血
5.栄養状況		14.血圧	／
6.皮膚疾患			
その他記入する事項			
平成　　年　　月　　日 学校名 記入者　　印			

平成 11 年 10 月２５日

学校　担当先生

健康診断データについて（御願い）

拝啓

秋冷の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、＿＿年＿＿組の＿＿＿＿＿＿はこの度ボーイスカウト千葉地区の海外派遣者に選ばれ、フィリピンのケソン市へ海外旅行を致します。それに伴い健康診断書又はそれに代わる書面をボーイスカウト千葉地区へ提出する必要があります。

つきましては貴校で受けています定期健康診断データを別紙用紙に記載し、証明していただければ誠に幸甚に存じます。ご多用中恐れ入りますがよろしく御願い申し上げます。

敬具

保護者　　印

平成８年１１月２日

日本連盟国際課　野田美路殿

千葉県連盟事務局長　船橋弘芳殿

千葉県連盟千葉地区

地区委員長　塩崎達也

海外旅行行動報告書

三指

海外旅行「千葉地区'99ヒューストン派遣事業」が終了しましたので別紙報告資料を添付し、行動報告書として提出します。

報告資料

１．派遣隊員名簿	１ページ
２．派遣スケジュール表（実績）	２ページ
３．派遣の総括	８ページ

以上

様式第４号

社会教育関係団体事業実績報告書

平成　年　月　日

（あて先）千葉市長

補助事業者
住　　所　〒260-0018 千葉市中央区院内 1-15-3
千葉市社会センター内　℡043-224-3982
氏名又は団体名　ボーイスカウト日本連盟千葉県連盟千葉地区
及び代表者氏名　会長　尾関　良平　　印

平成　年　月　日付千教指令第　　号により補助金の交付決定のあった社会教育団体事業の実績について、千葉市補助金交付規則第 12 条の規定により次のとおり報告します。

補助事業名	千葉・ケソン第９回交流事業
補助事業の実施年月日	平成９年１２月２７日（土）~平成１０年1月２日（金）
補助金交付決定額	金
補助金の既交付額	平成　年　月　日交付　円 平成　年　月　日交付　円 計　円
補助金の経費清算費 （総事業費）	円
添付書類	１．事業計画書及び収支予算書（別紙）

千葉・ケソン第10回記念受け入れプログラム（案１）

２０００年４月２８日（金）～５月３日（金）

		4月28日（金）	4月29日（土） 緑の日	4月30日（日）	5月1日（月）	5月2日（火）	5月3日（水） 憲法記念日	5月4日（木） 国民の休日	5月5日（金） 子供の日
通常団	AM		ホームホスティング 家庭訪問	ホームホスティング	ツアー 東京観光	千葉市長表敬訪問 除幕式 市内見学	千葉地区全員	撤営	成田空港集合
	PM		ホームホスティング 家庭訪問	ホームホスティング	同上	市内見学 帰宅 昭和の森集合	国際交流大会	ホームホスティング	成田発
	EVE	成田空港着 千葉市へ移動 各家庭へ引き渡し ホームステイ	ホームホスティング ホームステイ	ホームホスティング ホームステイ	ホームホスティング ホームステイ	キャンプファイアー キャンプ	大 キャンプファイアー キャンプ	千葉ナイト ホームステイ	
特別団	AM					千葉市長表敬訪問 除幕式 市内見学	千葉地区全員	ツアー 東京観光	成田空港集合
	PM					市内見学 会長主催歓迎会 昭和の森ユース チェックイン	国際交流大会	同上	成田発
	EVE				成田空港着 千葉市へ移動 ホテルチェックイン ホテル泊	キャンプファイアー ユースホステル泊	大 キャンプファイアー ユースホステル泊	フィリピンナイト ホテル泊	

第９回フィリピン受入千葉地区スカウト全体交歓会

（スカウトフェスティバル）

実施要項目次

第１章	開催の趣旨
第２章	名称
第３種	テーマ
第５章	会場
第６章	参加者と資格
第７章	参加費
第８種	プログラム
第９章	服装と携行品
第１０章	通信
第１１章	級後衛生及び安全
第１２章	その他

添付資料１	会場案内図
添付資料２	実行委員会名簿
添付資料３	プログラムの概要
添付資料４	当日の Time　Table
添付資料５－１	参考資料（BVS 編）
添付資料５－２	参考資料（CS 編）
添付資料５－３	参考資料（BS 編）

第9回フィリピン受入組織

ボーイスカウト千葉地区

組織図	役割	担当者
受入実行委員長	全体統括	地区協議会長
受入全体推進Gr	受入推進の統括	地区委員長 コミグループ代表 国際交流委員会代表
事務局	先方との連絡・諸準備 予算管理・事務処理	国際交流委員会
キャンプ期間中の統括	キャンプ期間中の統括	地区内該当者
受入隊	先方スカウトとペアでキャンプ	派遣隊が受入隊になる
QM・奉仕者	キャンプ資材の供給・他	前回派遣隊長 地区野行委員会
支援隊	キャンプ中の奉仕	前回派遣参加者
救護班	救護担当	健康安全委員会
パーティーGr	パーティー（千葉ナイト）推進	地区内有志
地区スカウト全体交歓大会	千葉地区スカウト全体の交歓	ＲＴメンバー・他
全員行事グループ	市長表敬訪問 東京ツアー・その他	国際交流委員会 受入隊指導者
広報担当	地区広報誌・その他	広報委員会
アドバイザー接待Gr	アドバイザーの接待	派遣団長 国際交流委員会
アドバイザー会議担当	会議の準備・司会・記録	国際交流委員会
ガーデンパーティーGr	野村宅にてガーデンパーティー	国際交流委員会・有志



Boy Scouts of Nippon

Chiba City Council

THE 8TH QUEZON-BSP AND CHIBA-BSN

EXCHANGE PROGRAM

CERTIFICATE OF APPRECIATION

This certificate is hereby awarded to

_____

in gratitude for the cooperation extended to the Eighth Exchange Program between the Boy Scouts of the Philippines, Quezon City Council and the Boy Scouts of Nippon, Chiba City Council held from December 29, 1995. to January 4, 1996.

Shoji Takahashi Contingent Head Chiba-8 Contingent	Toshio Suzuki Scout Master Chiba-8 Contingent
Tatsuya Shiozaki Scout Executive	Shigeki Nomura Chairman International Exchange Committee

Hideo Harada
Chairman

QUEZON CITY COUNCIL

BOY SCOUTS OF THE PHILIPPINES

SCOUT EXCHANGE PROGRAM

QCC, BSP - CHIBA, BSN

TRUST-WORTHY

LOYAL

HELPFUL

FRIENDLY

COUR-TEOUS

KIND

OBEDIENT

CHEERFUL

THRIFTY

BRAVE

CLEAN

REVERENT

presents this

Certificate of Appreciation

SCOUT EXCHANGE PROGRAM
QCC, BSP - CHIBA, BSN

to

Koichi Hobayashi

in grateful recognition of invaluable service extended to the promotions of the Scouting Exchange Program between the Quezon City Council, Boy Scouts of the Philippines and the Chiba City Council, Boy Scouts of Nippon, held on

thus contributing to the mutual understanding and international friendship between Japan and the Philippines.

PRESENTED this 2nd *day of* Jan. *in the year of Our Lord, Nineteen Hundred and* ninety six *at* Quezon City, Philippines

Ramon "Bu" Mathay
Council Chairman

Manuel S. Salumbides
Council Scout Executive

あ と が き

国際交流委員会や地区内に国際交流史を作成してほしいという話は時折ありましたが、そのときどきの行事に追われてなかなか実現には至りませんでした。ところがフィリピンとの交流20周年を迎えることが契機になり、交流史編纂の機運が一気に高まりこの度の発刊となりました。

第１部あゆみの編集にあたっては、グラフィックなもの、参加者の声をできるだけ多く取り入れること、そして資料的にも価値のあるものを心がけました。この目標がどれだけ達成できるかは、読まれた方々の判断にゆだねることになりますが、編集に際しましては多くの方のご協力を頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

第２部マニュアルは、千葉地区の国際交流活動過去20年の体験から得られたノウハウをマニュアル化したものですが、千葉地区以外の方が国際交流を行う際にも役立つことがあるのではなかろうかと思われます。そのような活用をして頂ければ、それは望外の幸いです。

平成11年11月13日

千葉地区国際交流委員会

ボーイスカウト千葉地区
国際交流活動ーあゆみ・マニュアルー

編　集　ボーイスカウト千葉地区　国際交流委員会
発　行　日本ボーイスカウト千葉県連盟　千葉地区
〒260-0018　千葉市中央区院内１－15－３
千葉市社会センター内
ＴＥＬ・ＦＡＸ 043－224－3982
発行日　1999年12月１日
印　刷　草野印刷株式会社
千葉市若葉区殿台町466番地